

2023年度 富山市ガラス美術館 記録集・研究紀要

2023年度
富山市ガラス美術館 記録集・研究紀要
Toyama Glass Art Museum
Document Book and Bulletin 2023

Toyama Glass Art Museum Document Book and Bulletin 2023

富山市ガラス美術館

Vol.9

2023 年度
富山市ガラス美術館 記録集・研究紀要
Toyama Glass Art Museum
Document Book and Bulletin 2023
Vol.9

目次 Index

記録集 Document Book

- 4 ごあいさつ Foreword
- 6 展示風景 Installation View
- 30 主要印刷物 Printed Matters
- 33 展覧会 Exhibitions
 - 34 アナザーワールド：不思議でリアルな世界
Other Worlds: Realms of Wonder and Reality
 - 44 日本近現代ガラスの源流
The Origins of Japanese Modern Glass
 - 58 宮永愛子 詩を包む
MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse
 - 64 ガラスの街とやま連携展 「ガラスと生きる」 富山ガラス工房と所属作家
Toyama, City of Glass Art, Collaborative Exhibition:
Life with Glass-Toyama Glass Studio and Affiliated Artists
 - 68 コレクション展
Collection Exhibition
- 73 新規収蔵作品 New Acquisitions
- 76 教育普及活動 Educational Activity
- 79 その他の活動 Other Activities
- 81 資料 Appendix

研究紀要 Bulletin

- 96 【資料紹介】 明道長次郎関係資料について
中島春香
- 103 Abstract
New Materials Relating to MYODO Chojiro
NAKASHIMA Haruka

ごあいさつ

富山市ガラス美術館は、2015年の開館以来、「ガラスの街とやま」を市政のひとつに掲げる富山市の芸術鑑賞の場として、現代ガラスアートを中心に多様な芸術作品を紹介してまいりました。

2023年度は、2020年初頭から続くコロナ禍がようやく落ち着きをみせたこともあり、お陰様で20万人を超える来場者に恵まれました。長く閉ざされがちであった生活から解放され、国内外から富山に観光にいらっしゃる方々や、行政を通じて視察に来られる団体が増加したこと、また開館から9年目を迎えた当館が、ガラスアートに特化した美術館として、徐々に周知されてきたことなどが要因であったと考えられます。展覧会事業としましては、年3本の企画展と、富山市の3つのガラス関連施設が協力して開催する「ガラスの街とやま連携展」、そしてテーマ毎にご紹介する2本のコレクション展が中心となりますが、開館以来の恒久展示となるデイル・チフリーによる「ガラス・アート・ガーデン」も、引き続き圧巻のご好評をいただいております。また例年、市内の小学4年生をお招きする「学校招待プログラム」も再開され、子どもたちのキラキラとした笑顔と感動に、私たち自身、随分と励まされました。

嬉しいニュースの一方で、2024年の元旦、家族団らんのひと時を襲った能登半島地震では、私たちも震度5強の地震を経験することになり、2週間の臨時休館を余儀なくされました。未曾有の災害に施設も作品も脅かされましたが、職員の心も大いに揺るがされました。しかしこのような有事にあっても、各自が冷静に対処し、粛々とやるべき行動に移したことは、館長として何よりの救いであり、誇りすら感じさせられました。改めて災害や地震対策を見直す契機となると同時に、気持ちを一つにするきっかけになったことも事実です。

富山市ガラス美術館は、いかなる場合でも、作家の発表の場として、また鑑賞者の豊かな感性や好奇心を育む美術館として、今後も邁進してまいります。本誌が当館の活動をより深く知っていただくための参考となれば幸いです。

富山市ガラス美術館 館長
土田ルリ子

Foreword

Since opening in 2015, the Toyama Glass Art Museum has introduced a great variety of artworks, particularly contemporary glass, providing a space for artistic appreciation in the city of Toyoma, which has proclaimed “Toyoma: City of Glass Art” as a municipal policy.

In fiscal 2023, when the COVID-19 pandemic, which broke out early in 2020, finally showed signs of calming down, our museum was able to welcome over 200,000 visitors. Many domestic and international tourists, freed at last from an extended shut-in period, came to Toyama, and government programs brought groups to visit the museum. Our museum, now in its ninth year, is gaining recognition as an art museum specializing in glass art. Our museum’s exhibition program includes three special exhibitions a year plus the *Toyama, City of Glass Art, Collaborative Exhibition*, organized through cooperation among three glass-related institutions in the city of Toyama, and two thematic exhibitions introducing the collection. Dale Chihuly’s *Glass Art Garden*, on permanent display since our museum opened, continues to receive an outstanding reception. We have also resumed our annual school invitational program, inviting fourth-graders from elementary schools in the city to participate. The children’s sparkling smiles and lively reactions were a great source of encouragement for us.

All was not, however, good news. On January 1, 2024, the 2024 Noto Peninsula Earthquake struck, on a day when families were enjoying get-togethers. Our area experienced it as an earthquake with a 5+ seismic intensity, which forced us to close the museum temporarily for two weeks. That unprecedented disaster endangered our facility and the works of art and was also a great emotional shock to our staff members. But everyone responded calmly in the emergency, quietly carrying out the actions needed, which was to me, as the museum’s director, both a relief and a great source of pride. While the earthquake spurred us to review our disaster and earthquake preparedness measures, it also brought us together.

The Toyama Glass Art Museum continues to move ahead, no matter what, as a venue for artists to present their work and a museum that fosters the rich sensibilities and curiosity of our visitors. We hope that this publication will be a useful reference for learning more about our museum’s activities.

TSUCHIDA Ruriko
Director
Toyama Glass Art Museum

アナザーワールド：不思議でリアルな世界
Other Worlds: Realms of Wonder and Reality







日本近現代ガラスの源流
The Origins of Japanese Modern Glass





3.
ガラス作家の増加と
戦時体制下の
ガラス制作



4.
戦後デザイン復興と
ガラス・デザイナー

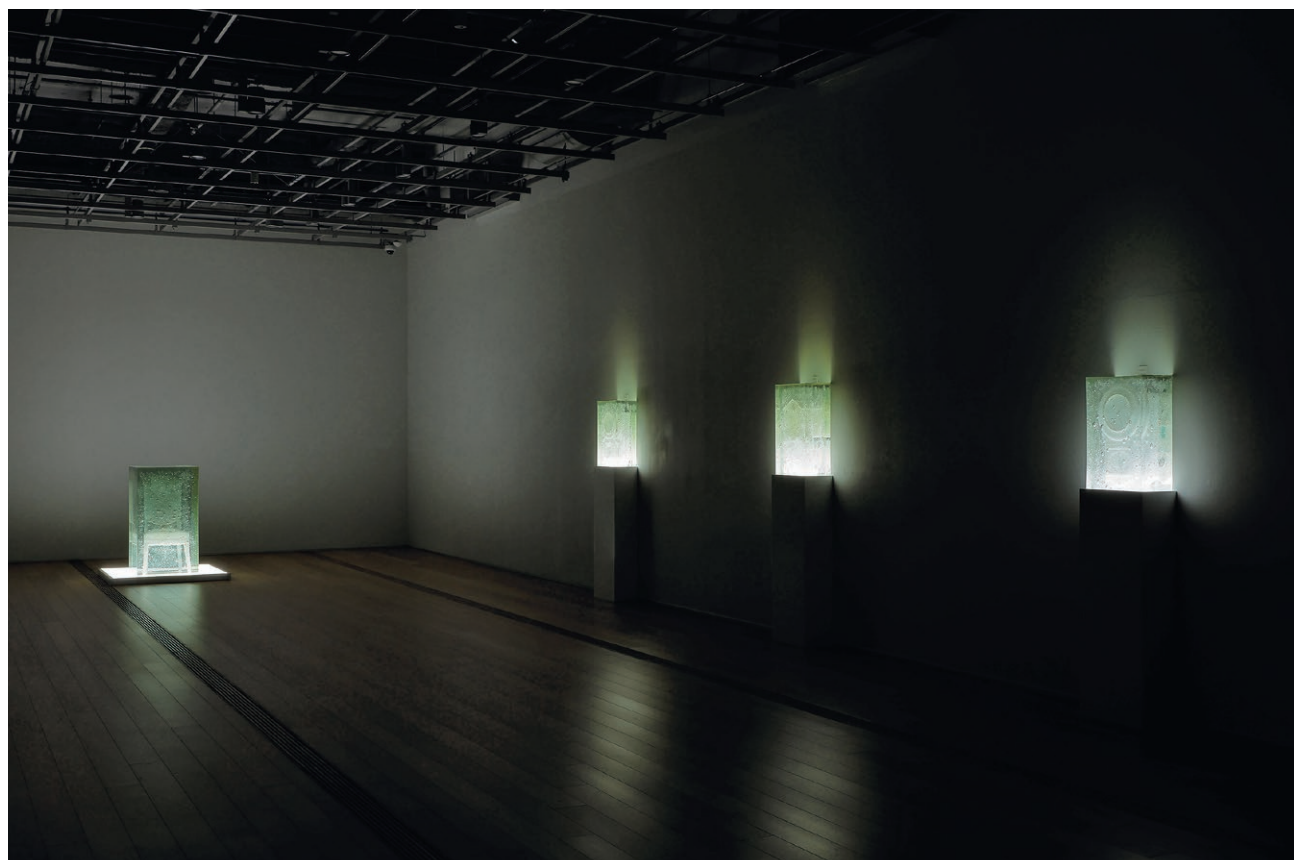
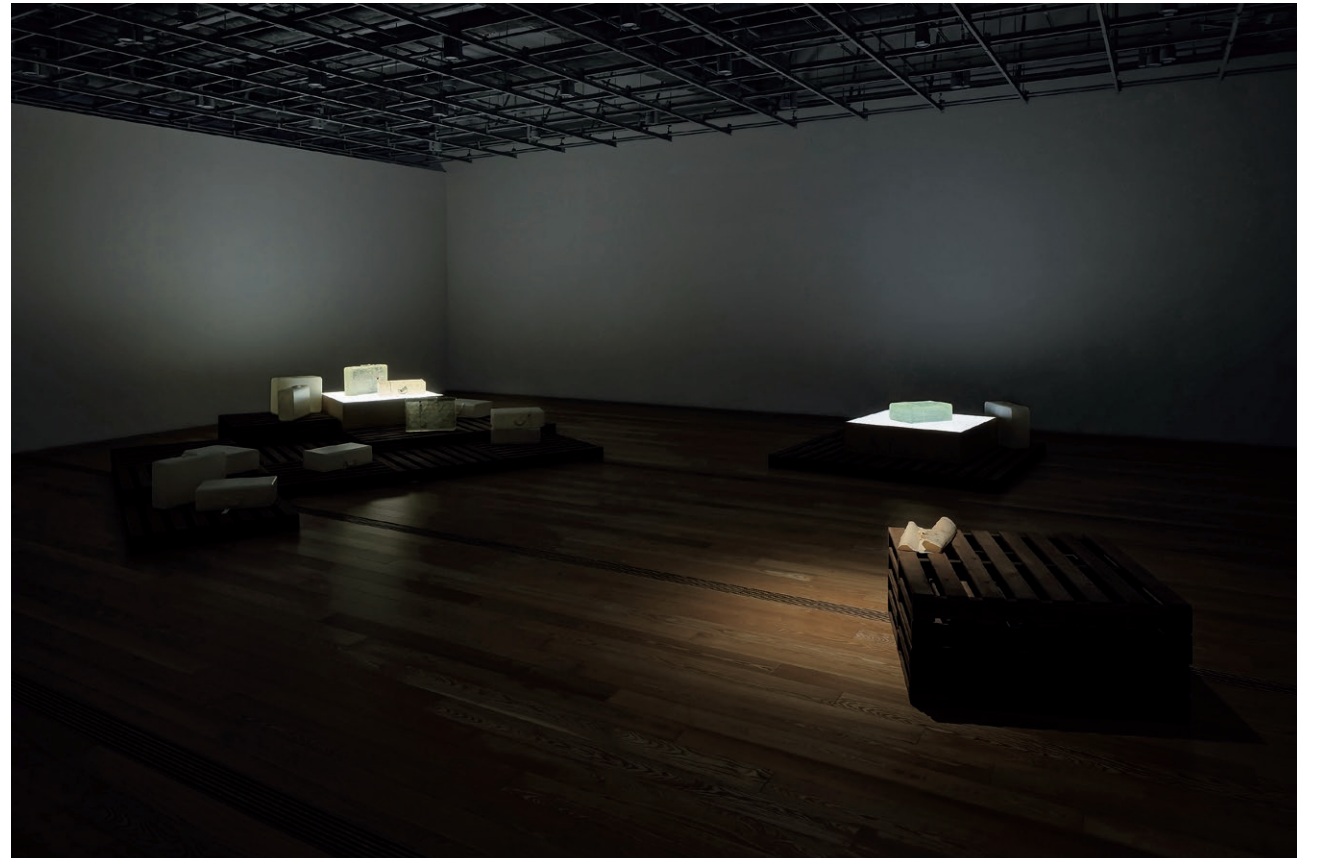
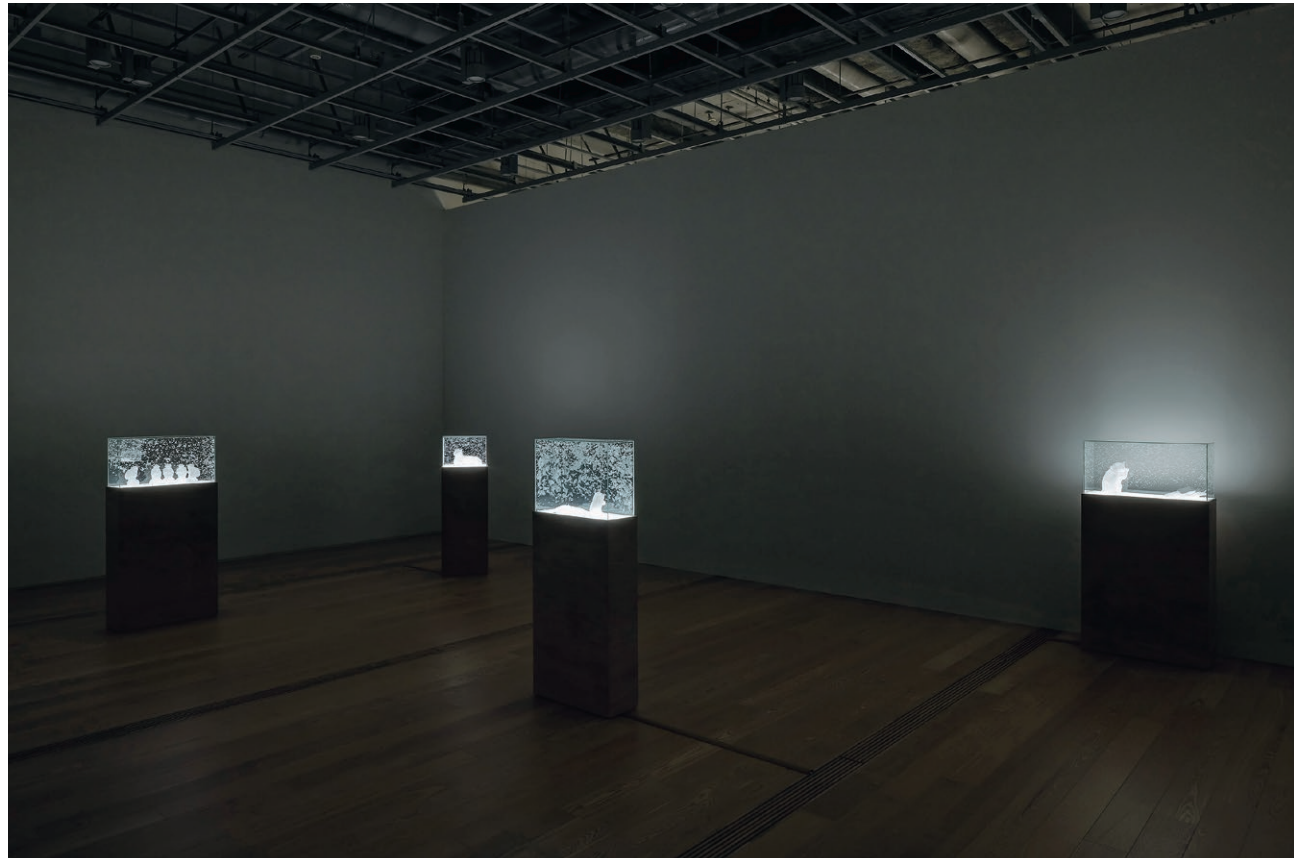


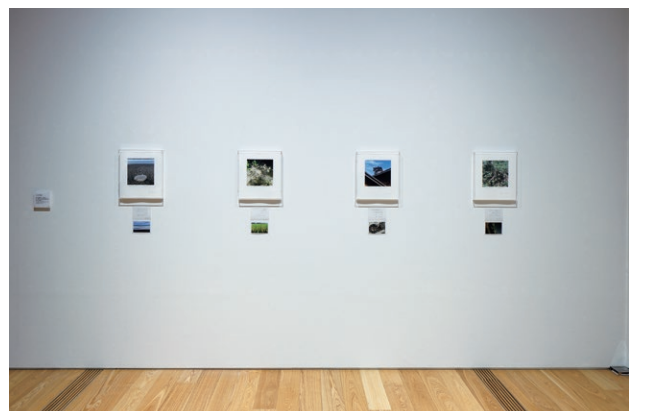
第二次世界大戦後、戦時体制による物資統制が厳格化され、ガラスの生産も制限された。戦時体制下のガラス制作は、戦時体制下のガラス制作の歴史を振り返る重要な機会である。戦時体制下のガラス制作は、戦時体制下のガラス制作の歴史を振り返る重要な機会である。戦時体制下のガラス制作は、戦時体制下のガラス制作の歴史を振り返る重要な機会である。

The advancement of design and glass designers in the postwar era

After World War II, with the economic recovery and influx of modern design ideas, the Japanese design scene underwent a significant transformation. The postwar era saw the emergence of a new generation of designers who embraced modern design principles and materials. This period was marked by the revival of design and the growth of the glass industry. The postwar era was a time of great change and innovation, and it was during this time that the Japanese design scene truly began to flourish.











コレクション展 ガラスをめぐる自然
Collection Exhibition Nature in Glass



コレクション展 かさねのガラス
Collection Exhibition Glass: Layered Depth

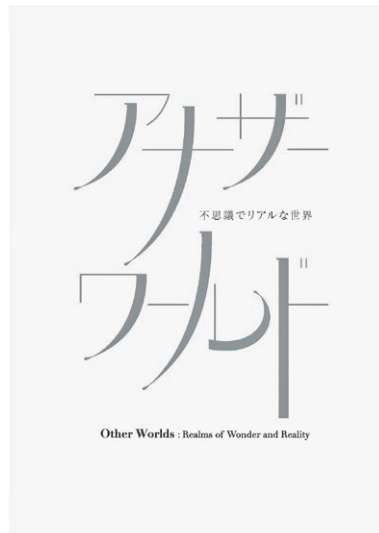


主要印刷物
Printed Matters

アナザーワールド：不思議でリアルな世界
Other Worlds: Realms of Wonder and Reality

デザイン：伊藤久恵（有限会社クロス）
印刷：株式会社山田写真製版所
Design: ITO Hisae (CROSS Inc.)
Printed by Yamada Photo Process Co., Ltd.

カタログ Catalog



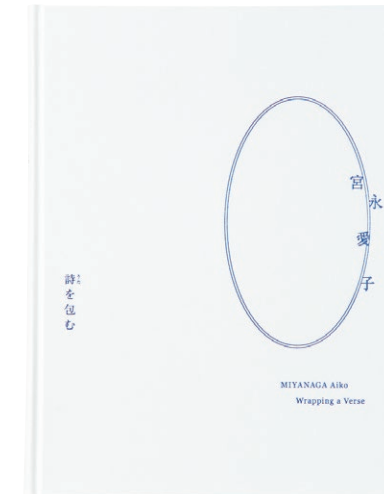
ポスター Poster



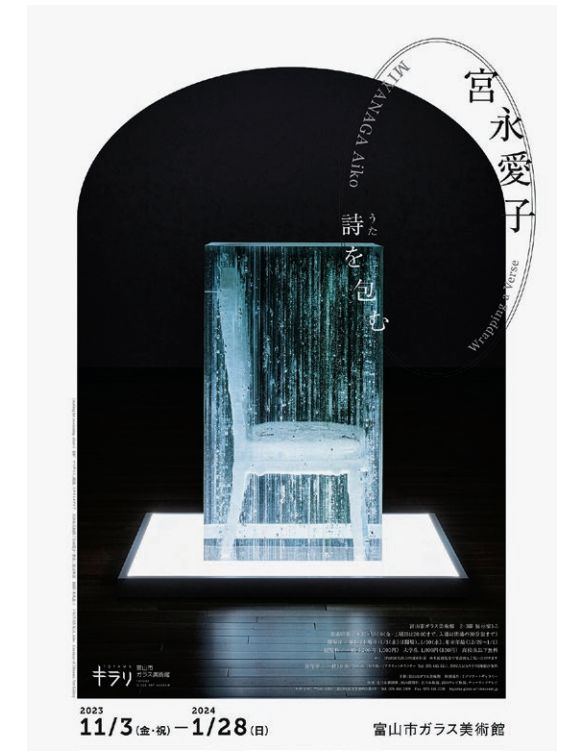
宮永愛子 ^{うた} 詩を包む
MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse

デザイン：高嶋鮎美（株式会社 MITAI）
印刷：株式会社山田写真製版所
ポスター掲載作品：宮永愛子《waiting for awakening -chair-》
2017年、撮影：木奥恵三
Design: TAKASHIMA Ayumi (MITAI Co., Ltd.)
Printed by Yamada Photo Process Co., Ltd.
Poster: MIYANAGA Aiko, *waiting for awakening -chair-*, 2017,
Photo: KIOKU Keizo
©MIYANAGA Aiko Courtesy of Mizuma Art Gallery

カタログ Catalog



ポスター Poster



日本近現代ガラスの源流
The Origins of Japanese Modern Glass

カタログデザイン：彼谷雅光（有限会社ナチュラル・デザインスタジオ）
ポスターデザイン：宮田裕美詠（ストライド）
印刷：株式会社山田写真製版所
カタログ表紙掲載作品：岩田藤七《花器》1960年、新宿歴史博物館所蔵
ポスター掲載作品：各務鏡三《花器》1954年、カガミクリスタル株式会社所蔵、撮影：田中祐樹
Catalog Design: KAYA Masamitsu (Natural Design Studio)
Poster Design: MIYATA Yumiyo (STRIDE)
Printed by Yamada Photo Process Co., Ltd.
Catalog cover: IWATA Toshichirō, *Vase*, 1960, Shinjuku Historical Museum
Poster: KAGAMI Kozo, *Vase*, 1954, KAGAMI CRYSTAL Co., Ltd., Photo: TANAKA Yuuki
Printed by Yamada Photo Process Co., Ltd.

カタログ Catalog



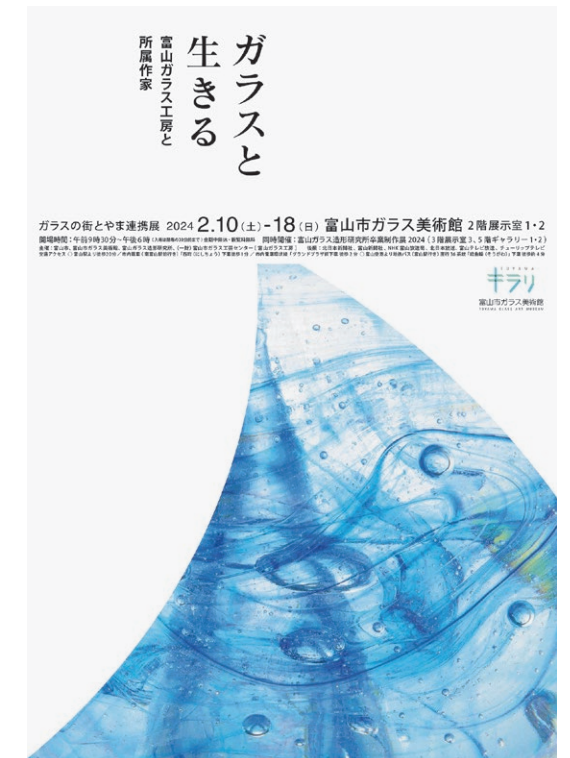
ポスター Poster



ガラスの街とやま連携展
「ガラスと生きる」富山ガラス工房と所属作家
Toyama, City of Glass Art, Collaborative Exhibition:
Life with Glass-Toyama Glass Studio and Affiliated Artists

デザイン：久保美穂
Design: KUBO Miho

ポスター Poster



コレクション展
Collection Exhibition

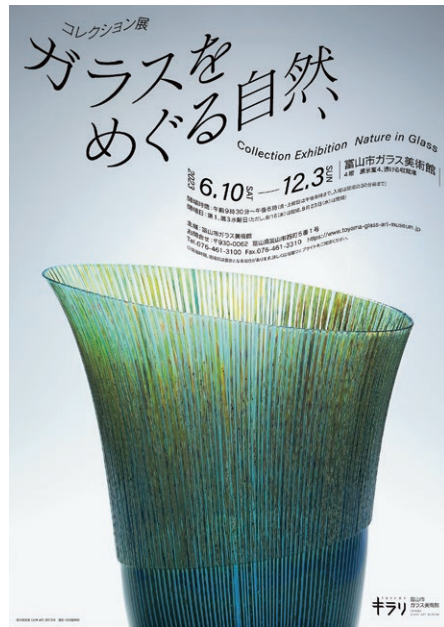
ガラスをめぐる自然
Nature in Glass

デザイン：伊藤久恵（有限会社クロス）
ポスター掲載作品：塚田美登里《光林 #2》（部分）2013 年、
富山市ガラス美術館所蔵、撮影：岡村喜知郎
Design: ITO Hisae (CROSS Inc.)
Poster: TSUKADA Midori, *Beams of light through the forest trees #2* (detail), 2013, Collection of Toyama Glass Art Museum, Photo: OKAMURA Kichiro

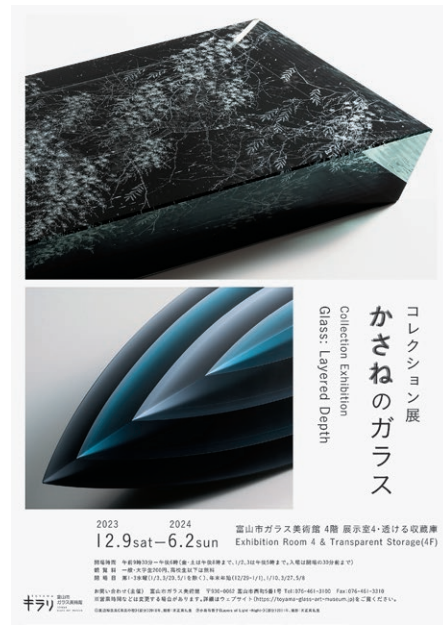
かさねのガラス
Glass: Layered Depth

ポスター掲載作品：渡辺知恵美《清流の燈》（部分）2018 年、
小島有香子《Layers of Light -Night-》（部分）2011 年、2 点
ともに富山市ガラス美術館所蔵、撮影：末正真礼生
Poster: WATANABE Chiemi, *A light of the clear stream* (detail), 2018; KOJIMA Yukako, *Layers of Light -Night-* (detail), 2011, (Both of artworks) Collection of Toyama Glass Art Museum, Photo: SUEMASA Mareo

ポスター Poster



ポスター Poster



展覧会 Exhibitions

- 34 アナザーワールド：不思議でリアルな世界
Other Worlds: Realms of Wonder and Reality
- 44 日本近現代ガラスの源流
The Origins of Japanese Modern Glass
- 58 宮永愛子 詩を包む
MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse
- 64 ガラスの街とやま連携展 「ガラスと生きる」 富山ガラス工房と所属作家
Toyama, City of Glass Art, Collaborative Exhibition:
Life with Glass-Toyama Glass Studio and Affiliated Artists
- 68 コレクション展
Collection Exhibition

73 新規収蔵作品 New Acquisitions

教育普及活動 Educational Activity

- 76 富山市ガラス美術館・富山市立図書館本館 学校招待プログラム
Toyama Glass Art Museum & Toyama City Library
Invitation Program for Schoolchildren

79 その他の活動 Other Activities

※ 2024 年 3 月 9 日から開催の企画展「回顧展：大平洋ー ヴェネツィアン・ガラスの彼方へ」については 2024 年度記録集・研究紀要に掲載します。
※ 文中の組織名、役職名については各事業実施当時のもの。
* Information about the exhibition YOICHI OHIRA: *Beyond Venetian Glass, A Retrospective* will be published in the *Document Book and Bulletin 2024* (vol.10).
* Organization names and job titles as at the time of each project.

アナザーワールド：不思議でリアルな世界

アナザーワールド＝もうひとつの世界は、長い歴史の中でさまざまに定義され、多くの人を惹きつけ続けてきた。本展覧会は、私たちが生きる世界のもうひとつの姿をアナザーワールドと定義し、見慣れたもののこれまで見えなかった一面や物事のもうひとつの側面など、普段は意識の外側にあるものを捉えようとする試みである。展覧会では、国内外で活躍する7人の作家を取り上げ、彼らのガラス作品に共通する「相反する二面性の共存」に着目することで、それぞれの特徴と世界観に迫った。

「未知の表情と出会う」と題した第1章・ワールド1では、ガラスによる新しい造形の可能性に挑む2人の作家を紹介した。ガラスと陶土を混ぜ合わせる独自の手法・混合焼成によって制作を行う津守秀憲の作品は、岩や土のような質感や色合いを特徴とし、ガラスのイメージを見事に裏切るが、その有機的な伸びやかさは、ガラスならではの。熱、重力、素材の力、そして津守の造形意志のコラボレーションが生み出す泰然とした山のような静謐さ、あり余る力が暴れているかのような荒々しさが顕著に表れた作品で展示を構成することで、新しい価値を創出する津守の制作を概観した。一方、ガラスへのこだわりに突き抜けた竹岡健輔は、ケーン（ガラス棒）を編み込むことで、冷たく硬いと思われがちなガラスが、熱と作り手の身体の動きに応じてしなやかに変化する性質を巧みに提示する。透明で、光を反射し、透過させるという誰もが馴染んでいるガラスの特徴を活かしつつ、時には色を用い、時には半透明にすることでガラスの線の軌跡を魅せ、編むという手法で意外性を追求する竹岡の作品を、会場では制作年代順で紹介することで、その制作の軌跡を追った。

続く第2章・ワールド2では、「思いが交差する場」として、自身の思いや記憶を主題とした制作を展開する今井瑠衣子を紹介した。過ぎ去る時間や環境の変化の中で感じた思いを、今井は衣類や文房具などをモチーフに、白色のみで繊細に、質感豊かに表現する。展示では、作家の暮らしや関心のあり方を概観しながら、極めて私的な要素が反映された今井の制作が、白一色のガラスとなることでニュートラルな表現となり、誰もが自身の思いや記憶を重ね、同じ時代を共有する私たちの思いが交差するもうひとつの世界として立ち現れる過程を追った。

第3章・ワールド3「生きるということ」では、生命への深い考察を制作背景に持つ2人の作家を取り上げた。海の生き物や菌類をモチーフに、生命が根源的に持つ強さを表現する木下結衣の作品は、形も大きさも異なる色とりどりの小さなガラスパーツがマザーオブパールなどとともに無数に、隙間なく編み込まれ、有機的な立体となることで、美しさとグロテスクが紙一重となるところに大きな特徴がある。展示では、命あることを喜び煌めく生命、自らが生き延びるために他者を食いものにする恐ろしい生命、何度朽ち果てても復活するしなやかな生命を表現した作品を中心に会場を構成することで、生命に真摯なまなざしを向ける木下の世界観に迫った。一方の小林千紗は、吹きガラス技法ならではの呼吸の効果や身体性に着目し、生命と呼吸をテーマに制作活動を展開する。極限まで膨らませ、引き伸ばしたガラス同士

をつなぎ合わせて和紙で包み、透明性を打ち消したことで、小林の呼吸は新たな姿へと変容を遂げる。黒いオブジェが白い空間の中で独自の存在感を放つ「しろのくろのかたち」シリーズを中心に展示を構成し、ガラスのしなやかさ、呼吸が生み出す「かたち」を提示する小林作品の特徴を紹介するとともに、生命を根源的に司るものとしての呼吸を視覚化した小林のドローイング作品も併せて展示した。

最終章となるワールド4「見えないものを追いかける」では、2人の作家が、存在が不確かなものの姿を捉え、私たちの好奇心と高揚感をかき立てた。植村宏木は、不可視ながら意識することができる存在―ある場所や対象がまとう空気、それらが積み重ねて来た時間などを“もの”と定義し、インスタレーション作品として表現する。透明なガラス板を空気に見立てて線を彫り、その奥行きを提示する作品。吹いて制作したガラスを壊して内部を削り、再構築して自らの呼吸の軌跡を追う作品。実際に訪れた土地の石や木とガラスを組み合わせ、その場所の記憶などを探り出す作品。透明にも不透明にもなるガラスの特質を活かし、私たちのそばに確かに存在するものをめぐって、世界を認識する方法に新たな一石を投じる植村の制作を概観した。そして、展覧会の最後を飾る高橋まき子は、自身の夢の中で出会った不思議な生き物・幻獣の姿を表現する。パート・ド・ヴェールの技法で表現された幻獣たちは、柔らかな光を帯び、神秘的でありながら親しみやすさを併せ持つ。会場に集まった幻獣たちは、いずれも包容力に満ち、堂々とした佇まいである。その姿は、私たちが現実の暮らしの中で感じる相手を思いやる気持ち、こうありたいと願う自分の姿とも映り、幻獣たちは不思議な世界の住人としてのみならず、私たちに共有されるさまざまな感覚の象徴とも捉えうるのである。

この展覧会では、7人の作品の主題にどのような二面性があるか、そしてその表現にガラスの特質がどのように活かされているかを分析した。彼らの作品は、私たちが「普通」「当たり前」と思い込んでいることに揺さぶりをかける。彼らが見せるアナザーワールドは、驚きと好奇心をもってこの世界を捉える心を開かせてくれる、現実と地続きにある「不思議でリアルな世界」として、私たちの目の前に開けている。（渡部名祐子）

Other Worlds: Realms of Wonder and Reality

The concept of “other worlds” has been defined in myriad ways over the long arc of history, and has sparked wonder in countless people. This exhibition reinterprets other worlds as alternate dimensions of our existing environment, and seeks to illuminate elements usually outside our conscious perception, such as unseen facets of familiar things and phenomena. The exhibition features seven artists who are active both in Japan and overseas, spotlighting the coexistence of opposing dualities that is a shared quality of their glass works, and exploring each artist’s characteristics and perspectives.

The first section (World 1), “Encountering Unknown Expressions,” presents works by two artists exploring new possibilities in glass. TSUMORI Hidenori employs a unique mixed firing technique that integrates glass with clay, producing textures and colors reminiscent of stones and earth. This compellingly subverts the conventional image of glass, but at the same time, the organic malleability of the works is something only glass can accomplish. The combined dynamics of heat, gravity, material forces, and Tsumori’s artistic intent result in a paradoxical aesthetic evoking the imperturbable serenity of a mountain while imbued with surging, turbulent force. This section of the exhibition offers an overview of Tsumori’s innovative practice. Meanwhile, TAKEOKA Kensuke weaves canes (glass rods) in a manner that illustrates how glass can transform from a seemingly cold, hard material to one that flexibly responds to heat and the artist’s actions. Takeoka employs the material’s familiar properties of transparency, transmissibility, and luminosity, while at times deploying color and translucency to reveal the linear trajectories of the glass. His works are displayed in chronological order, tracing the evolution of his art and highlighting surprising elements achieved through his weaving technique.

The second section (World 2), titled “A Place for Intersecting Sensations,” features IMAI Ruiko, whose works address the themes of personal feelings and memories. Imai’s delicate yet richly textured, uniformly white works channel emotions, arising amid the passage of time and environmental changes, through the motifs of clothing and stationery items. The exhibit offers glimpses into Imai’s lifestyle and concerns, elucidating how she sublimates deeply personal elements into neutral expressions through white glass. This medium is all-embracing, enabling viewers to superimpose their own feelings and memories upon it and unveiling another world where our sensations, as people living through the same era, intersect.

The third section (World 3), “What It Means to Live,” showcases two artists who incorporate deep contemplation of organic life into their creative processes. Drawing inspiration from sea creatures and fungi, KINOSHITA Yui’s works embody the primal vitality of living things. They are characterized by countless tiny glass elements of various shapes and sizes, tightly interwoven with materials such as mother-of-pearl to produce biomorphic forms that tread a fine line between the beautiful and the grotesque. Her exhibit conveys the shimmering vibrancy of living things, the harrowing eat-or-be-eaten world of predators and prey, and the resilience of life that is perpetually rejuvenated, offering an intimate view of Kinoshita’s vision of the living world. In the same section, KOBAYASHI Chisa explores the dynamics of breath and physicality inherent in the blown glass technique. Her practice, revolving around life and breath, involves inflating and stretching pieces of glass to the extreme, then

joining the pieces into a whole and enveloping them in Japanese paper to dim their transparency. This process causes Kobayashi’s breath to metamorphose into new forms. Works from her series “The Form of Black; The Form of White ”, consisting of black objects in a white space that exert an extraordinary presence, form the core of the exhibit. These works compellingly demonstrate the malleability of glass and the forms that emerge from breath, and are accompanied by her drawings that render breathing visible as an essential aspect of life.

In the final section (World 4), titled “In Search of the Invisible,” two artists explore the elusive shapes of indeterminate presences, sparking curiosity and elation. UEMURA Hiroki interprets *mono* (“things”) as entities that are invisible yet perceptible, capturing the essence of places’ and objects’ atmospheres and the layers of time that pervade them, and conveys this vision in installations. His works range from transparent glass plates etched with lines that convey air and reveal depth, to blown glass that is shattered, hollowed out, and reconfigured to trace the course of his own breath, to constructions that merge glass with natural elements such as stones and wood from places he has visited, probing the histories of those locales. Through the dual properties of glass, which can be transparent or opaque, Uemura’s works question the ways in which we perceive the world around us. The exhibition concludes with the work of TAKAHASHI Makiko, who brings to life imaginary creatures from her dreams. These beings, created using the *pâte de verre* technique, emit a gentle radiance and are simultaneously enigmatic and friendly. The mythical beasts gathered in the venue each exude a welcoming yet commanding presence, mirroring our feelings of empathy for others and the personal aspirations that mark our daily lives. They do not merely populate a fantastical realm, but also embody a diverse range of sensations that resonate within all of us.

This exhibition investigates dualities within the themes of the seven artists’ works, and the dynamic harnessing of the properties of glass in each artist’s practice. Their works challenge what we conventionally consider to be “ordinary” or “obvious.” The other worlds they reveal foster a renewed sense of wonder and curiosity about this world, presenting us with mysterious yet tangible realms that are seamlessly connected to our own reality.

(WATABE Nayuko, translated by Christopher STEPHENS)

アナザーワールド：不思議でリアルな世界

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

展覧会

会 期：2023年3月4日（土）～ 6月18日（日）
会 場：展示室1-3
主 催：富山市ガラス美術館
後 援：北日本新聞社、富山新聞社、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ
担 当：渡部名祐子、米田結華

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

グラフィックデザイン：伊藤久恵（有限会社クロス）
輸送展示：日本通運株式会社北陸東支店
会場施工：株式会社アイラックエンタープライズ
観 覧 料：一般1,000円（800円）、大学生800円（600円）、前売券800円（一般のみ）
※（ ）は団体料金
※高校生以下無料

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

出品作家：今井瑠衣子、植村宏木、木下結衣、小林千紗、高橋まき子、竹岡健輔、津守秀憲

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

25.7×18.3cm 108頁 1,600円
発 行：富山市ガラス美術館
発 行 日：2023年3月4日

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

アーティストトーク「7人の作家と7つの世界」

日 時：2023年3月4日（土）10：30～
会 場：2階ロビー
出 演：今井瑠衣子、植村宏木、木下結衣、小林千紗、高橋まき子、竹岡健輔、津守秀憲（出品作家）
※美術館公式YouTubeチャンネルにて配信
(URL: <https://youtube.com/watch?v=d7rhNzQ66T0>)

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

おとなの美術部「装うガラス」

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

Other Worlds: Realms of Wonder and Reality

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

Exhibition

Period: March 4 - June 18, 2023
Venue: Exhibition Rooms 1-3
Organized by Toyama Glass Art Museum
Supported by THE KITANIPPON SHIMBUN, THE TOYAMA SHIMBUN, Kitanihon Broadcasting Co., Ltd., TOYAMA TELEVISION BROADCASTING CO., LTD., TULIP-TV INC.
Curators: WATABE Nayuko, YONEDA Yuika

Graphic Design: ITO Hisae (CROSS Inc.)
Transportation and Installation: NIPPON EXPRESS CO.,LTD. HOKURIKU EAST BRANCH
Construction: I-LUCK Enterprise Co., Ltd.
Admission: General Public ¥1,000 (¥800), University and College Students ¥800 (¥600)
Advance tickets: General Public ¥800
Groups of 20 or more: price in brackets
High school students and younger: free

Artists

IMAI Ruiko, UEMURA Hiroki, KINOSHITA Yui, KOBAYASHI Chisa, TAKAHASHI Makiko, TAKEOKA Kensuke, TSUMORI Hidenori

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

Other Worlds: Realms of Wonder and Reality
25.7×18.3cm 108p ¥1,600
Published by Toyama Glass Art Museum
Date of publication: March 4, 2023

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

Date & time: March 4, 2023 10:30-
Venue: 2F Lobby
Artist: IMAI Ruiko, UEMURA Hiroki, KINOSHITA Yui, KOBAYASHI Chisa, TAKAHASHI Makiko, TAKEOKA Kensuke, TSUMORI Hidenori
*The talk was livestreamed on Museum’s official YouTube channel
(URL: <https://youtube.com/watch?v=d7rhNzQ66T0>)

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

Grown-ups' Art Club“Glass as Dress”

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

『アナザーワールド：不思議でリアルな世界』

作品リスト List of Works

作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材・技法 Material & Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 Collection	ページ Page No.
World 1：未知の表情と出会う Encountering Unknown Expressions						
竹岡健輔 TAKEOKA Kensuke						
TK-1	Basket #7	2021	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	29 × 15 × 15	作家蔵 Collection of the artist	
TK-2	Basket #3	2021	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	32 × 14 × 13	作家蔵 Collection of the artist	
TK-3	Basket #10	2022	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	25 × 20 × 10	作家蔵 Collection of the artist	
TK-4	Transition '21-19	2021	ガラス / ホットワーク、キルンワーク、サンドブラスト Glass / Hot-worked, kiln-worked, sandblast	20 × 45 × 17	作家蔵 Collection of the artist	
TK-5	Transition '21-23	2021	ガラス / ホットワーク、キルンワーク、サンドブラスト Glass / Hot-worked, kiln-worked, sandblast	50 × 15 × 15	作家蔵 Collection of the artist	
TK-6	おりなす '21-1 Orinasu '21-1	2021	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	20 × 54 × 26	作家蔵 Collection of the artist	
TK-7	Transition '22-6	2022	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	35 × 80 × 40	作家蔵 Collection of the artist	p.6 (上)
TK-8	線跡 '21 Line Transition '21	2021	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	50 × 60 × 35 50 × 60 × 40	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	p.6 (上)
TK-9	Transition-446	2021	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	55 × 60 × 45	作家蔵 Collection of the artist	p.6 (上)
TK-10	おりなす '22-1 Orinasu '22-1	2022	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	25 × 73 × 40 33 × 50 × 55	作家蔵 Collection of the artist	p.6 (上)

津守秀憲 TSUMORI Hidenori						
TH-1	胎動 '16-2 Oscillation '16-2	2016	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	21 × 36 × 20	作家蔵 Collection of the artist	
TH-2	胎動 '18-2 Oscillation '18-2	2018	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	14 × 33 × 23.5	作家蔵 Collection of the artist	
TH-3	胎動 '17-4 Oscillation '17-4	2017	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	30.5 × 78 × 32	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
TH-4	胎動 '16-9 Oscillation '16-9	2016	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	22 × 48 × 42	作家蔵 Collection of the artist	p.6 (下)
TH-5	胎動 '19-6 Oscillation '19-6	2019	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	34 × 54 × 24	作家蔵 Collection of the artist	p.6 (下)
TH-6	胎動 '19-4 Oscillation '19-4	2019	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	28 × 54 × 22	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	p.6 (下)
TH-7	胎動 '22-2 Oscillation '22-2	2022	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	52 × 53 × 24	作家蔵 Collection of the artist	p.6 (下)
TH-8	胎動 '21-4 Oscillation '21-4	2021	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	33 × 43 × 23	作家蔵 Collection of the artist	p.6 (下)
TH-9	胎動 '20-4 Oscillation '20-4	2020	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	37 × 31 × 25	作家蔵 Collection of the artist	
TH-10	胎動 '21-3 Oscillation '21-3	2021	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	37.5 × 42.5 × 18	作家蔵 Collection of the artist	
World 2：思いが交差する場 A Place for Intersecting Sensations						
今井瑠衣子 IMAI Ruiko						
IR-1a	Reminiscence <patchwork tote bag>	2018	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	38 × 32 × 24	作家蔵 Collection of the artist	p.7 (上)
IR-1b	Reminiscence <sandal>	2016	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	6.5 × 11 × 27 (1点あたり / Per each)	作家蔵 Collection of the artist	p.7 (上)

作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材・技法 Material & Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 Collection	ページ Page No.
IR-2a	Reminiscence <boston bag>	2018	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	42 × 53 × 16	作家蔵 Collection of the artist	p.7 (上)
IR-2b	Reminiscence <baseball cap>	2018	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	11 × 14 × 26.5	作家蔵 Collection of the artist	p.7 (上)
IR-2c	Reminiscence <boots>	2016	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	14.5 × 9 × 26 (右 / Right) 14 × 10 × 27 (左 / Left)	作家蔵 Collection of the artist	p.7 (上)
IR-3	Reminiscence <protector for kendo>	2019	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	面 / <i>Men</i> (Mask) 32 × 64 × 42 胴 / <i>Do</i> (Breastplate) 42.5 × 44.5 × 23 小手 / <i>Kote</i> (Gauntlet) 11.5 × 15.5 × 29.5 10 × 13.5 × 30	作家蔵 Collection of the artist	p.7 (上)
IR-4a	Reminiscence	2016-	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	可変 Dimensions variable	作家蔵 Collection of the artist	p.7
IR-4b	Reminiscence <tote bag>	2018	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	25 × 24 × 18	作家蔵 Collection of the artist	p.7 (下)
IR-4c	Reminiscence <sewing box>	2018	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	5 × 21 × 16	作家蔵 Collection of the artist	
IR-5	体温の肖像 Silhouettes of Warmth	2020	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	55 × 56 × 29	作家蔵 Collection of the artist	p.7 (上)
IR-6	体温の肖像 Silhouettes of Warmth	2022	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	55 × 37 × 32.5	作家蔵 Collection of the artist	p.7 (上)
IR-7	体温の肖像 Silhouettes of Warmth	2022	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	45 × 57 × 33	作家蔵 Collection of the artist	p.7 (上)
IR-8	体温の肖像 Silhouettes of Warmth	2022	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	72 × 57 × 38	作家蔵 Collection of the artist	p.7 (上)

World 3 : 生きるということ What It Means to Live

木下結衣 KINOSHITA Yui

KY-1	蘇生 Resuscitation	2020	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather / Lampworking, embroidery	29 × 50.5 × 60	楽翠亭美術館 Rakusui-tei Museum of Art	p.8 (上)
KY-2	蘇生 II Resuscitation II	2021	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather / Lampworking, embroidery	13 × 36 × 28	作家蔵 Collection of the artist	p.8 (上)
KY-3	蘇生 III Resuscitation III	2021	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather / Lampworking, embroidery	5 × 14 × 22	作家蔵 Collection of the artist	p.8 (上)
KY-4	蘇生 IV Resuscitation IV	2021	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather / Lampworking, embroidery	7 × 14 × 22	作家蔵 Collection of the artist	p.8 (上)
KY-5	蘇生 V Resuscitation V	2021	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather / Lampworking, embroidery	4 × 11 × 13	作家蔵 Collection of the artist	p.8 (上)
KY-6	転生 Reincarnation	2020	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt / Lampworking, embroidery	4 × 22 × 32	作家蔵 Collection of the artist	

作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材・技法 Material & Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 Collection	ページ Page No.
KY-7	Folklore	2021	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather / Lampworking, embroidery	約 3 × 5 × 8 (1点あたり) approx. 3 × 5 × 8 (Per each)	作家蔵 Collection of the artist	p.8 (上)
KY-8	浸潤 Permeation	2021	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、額縁 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, frame / Lampworking, embroidery	3.5 × 26 × 31	作家蔵 Collection of the artist	p.8
KY-9	たゆたう Wavering	2021	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、布 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, cloth / Lampworking, embroidery	3.5 × 22 × 32	作家蔵 Collection of the artist	p.8
KY-10	よるのさら Moonlight Path on the Night Sea	2022	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮、糸 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather, thread / Lampworking, embroidery	7 × 25 × 75	作家蔵 Collection of the artist	p.8
KY-11	解放 Release	2020	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather / Lampworking, embroidery	4 × 19 × 35	作家蔵 Collection of the artist	p.8 (上)
KY-12	Overflow	2020	ソフトガラス、ガラスビーズ、淡水パー ール、真鍮、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, freshwater pearl, brass, artificial leather / Lampworking, embroidery	2 × 16 × 25	作家蔵 Collection of the artist	p.8 (上)
KY-13	Join	2022	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮、糸 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather, thread / Lampworking, embroidery	7 × 50 × 30 6 × 30 × 13	作家蔵 Collection of the artist	p.8 (上)
小林千紗 KOBAYASHI Chisa						
KC-1	しろのくろのかたち 2021-8 The Form of Black; The Form of White 2021-8	2021	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、 アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	40 × 140 × 36	作家蔵 Collection of the artist	p.9 p.11 (下)
KC-2	しろのくろのかたち 2021-2 The Form of Black; The Form of White 2021-2	2021	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、 アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	128 × 260 × 85	作家蔵 Collection of the artist	p.9
KC-3	しろのくろのかたち 2021-16 The Form of Black; The Form of White 2021-16	2021	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、 アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	37 × 74 × 37	作家蔵 Collection of the artist	p.9
KC-4	呼吸するかたち 08 A Form of Breathing 08	2022	紙、パネル、アクリルガッシュ、水性 インク / ドローイング Paper, panel, ACRYL GOUACHE, water- based ink / Drawing	73 × 51.7 × 2	作家蔵 Collection of the artist	p.9 (上)
KC-5	並ぶ呼吸 Breath Next to Breath	2022	和紙、アクリル絵の具 / ドローイング Japanese paper, acrylic paint / Drawing	36.5 × 51.5 × 2.5	作家蔵 Collection of the artist	p.9 (上)
KC-6	分かつ呼吸 Sharing Breath	2022	和紙、アクリル絵の具 / ドローイング Japanese paper, acrylic paint / Drawing	60 × 90 × 2.5	作家蔵 Collection of the artist	p.9 (上)
KC-7	あることについて 02 Thinking about, 02	2020	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、 アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	46 × 85 × 36	作家蔵 Collection of the artist	p.9 (上)

作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材・技法 Material & Technique	作品サイズ (H x W x D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 Collection	ページ Page No.
KC-8	あることについて 01 Thinking about, 01	2020	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	62 × 85 × 35	作家蔵 Collection of the artist	p.9 (上)
KC-9	しろのくろのかたち 2021-13 The Form of Black; The Form of White 2021-13	2021	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	67 × 25 × 19	作家蔵 Collection of the artist	p.9 (上)
KC-10	しろのくろのかたち 2021-15 The Form of Black; The Form of White 2021-15	2021	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	33 × 48 × 38	作家蔵 Collection of the artist	p.9 (上)
KC-11	しろのくろのかたち 2021-1 The Form of Black; The Form of White 2021-1	2021	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	175 × 75 × 61	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	p.9 (上)

World 4 : 見えないものを追いかける In Search of the Invisible

植村宏木 UEMURA Hiroki

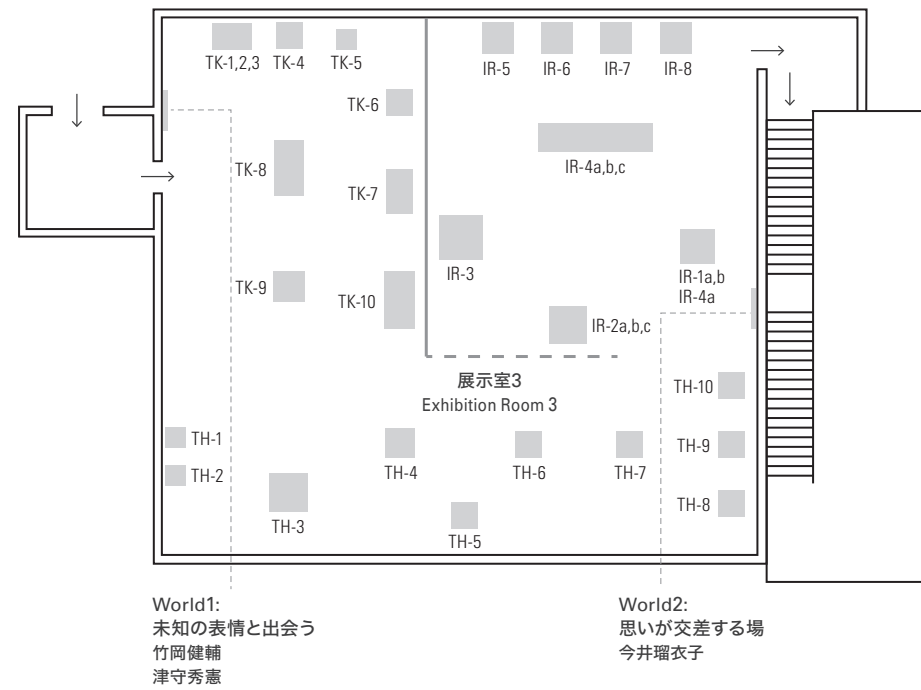
UH-1	知覚のはかり Scale of Perception	2021	ガラス、木 / ミクストメディア、エングレーヴィング Glass, wood / Mixed media, engraved	35 × 70 × 10	作家蔵 Collection of the artist	p.10 (上)
UH-2a	景色を掬う - 境 Scooping up Scenery - Sakai	2022	榎、ガラス、真鍮、セメント / ホットワーク、エングレーヴィング Nettle tree, glass, brass, cement / Hot-worked, engraved	14 × 8 × 8	作家蔵 Collection of the artist	
UH-2b	景色を掬う - 神濟 Scooping up Scenery - Kan no Watari	2022	石、ガラス / ホットワーク、エングレーヴィング Stone, glass / Hot-worked, engraved	可変 Dimensions variable	作家蔵 Collection of the artist	
UH-2c	景色を掬う - オヤマ Scooping up Scenery - Oyama	2022	薬瓶、雄山の空気、杉、銅、絹糸、ワックス Medicine bottle, air of Oyama, Japanese cedar, copper, silk thread, wax	11 × 5 × 5	作家蔵 Collection of the artist	
UH-2d	景色を掬う - タチヤマ Scooping up Scenery - Tachiyama	2022	杉、ガラス / ホットワーク、エングレーヴィング Japanese cedar, glass / Hot-worked, engraved	30 × 30 × 10	作家蔵 Collection of the artist	p.10 (上)
UH-2e	景色を掬う - タチオ Scooping up Scenery - Tachio	2022	木、ガラス / ホットワーク、エングレーヴィング Wood, glass / Hot-worked, engraved	100 × 10 × 10	作家蔵 Collection of the artist	
UH-2f	景色を掬う - 八尾 Scooping up Scenery - Yatsuo	2022	ガラス、絹糸 / ホットワーク Glass, silk thread / Hot-worked	可変 Dimensions variable	作家蔵 Collection of the artist	p.10 (上)
UH-2g	景色を掬う - 三ヶの路 Scooping up Scenery - Sanga no Michi	2022	榎、杉、ガラス、銅、セメント / ホットワーク、エングレーヴィング Nettle tree, Japanese cedar, glass, copper, cement / Hot-worked, engraved	5 × 20 × 12	作家蔵 Collection of the artist	p.10 (上)
UH-2h	景色を掬う - 大境 Scooping up Scenery - Ozakai	2022	貝、鏡 Shell, mirror	8 × 50 × 50	作家蔵 Collection of the artist	p.10 (上)
UH-3	知覚のはかり Scale of Perception	2021	ガラス、木、石 / ミクストメディア、エングレーヴィング Glass, wood, stone / Mixed media, engraved	90 × 140 × 10	作家蔵 Collection of the artist	p.10 (上)
UH-4	呼吸を追う Tracing the Breath	2021-2022	ガラス / ホットワーク、コールドワーク、エングレーヴィング、接着 Glass / Hot-worked, cold-worked, engraved, glued	可変 Dimensions variable	作家蔵 Collection of the artist	p.10 (下)
UH-5	心象形 Form of Mind	2019	ガラス / ホットワーク、エングレーヴィング Glass / Hot-worked, engraved	20 × 15 × 16	作家蔵 Collection of the artist	p.10 (下)

高橋まき子 TAKAHASHI Makiko

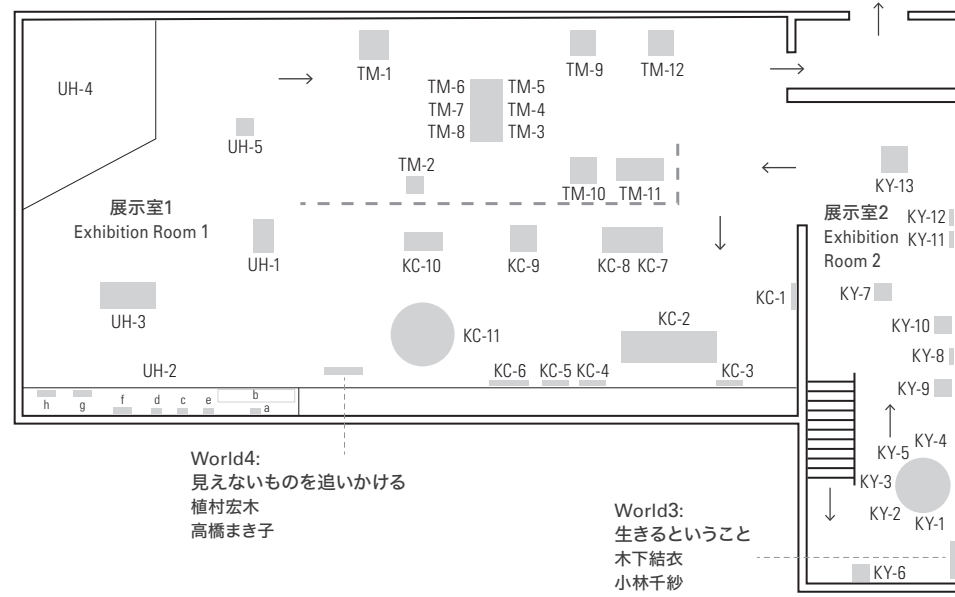
TM-1	歓喜の翼 Wings of Delight	2018	ガラス、コンクリート、鉄、樹脂粘土 Glass, concrete, steel, polymer clay	33 × 24 × 24 33 × 24 × 24	個人蔵 (木村友和氏) Collection of KIMURA Tomokazu	p.10 (下)
TM-2	チキチキのカミサマ God of Chitty Chitty	2021	ガラス、鉄、スプロケット、樹脂粘土 / パート・ド・ヴェール、着彩 Glass, iron, sprocket, polymer clay / Pâte de verre, paint	13 × 20 × 20	作家蔵 Collection of the artist	p.10 (下)

作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材・技法 Material & Technique	作品サイズ (H x W x D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 Collection	ページ Page No.
TM-3	白昼夢の入り口 Portal of Daydream	2022	ガラス、樹脂粘土 / パート・ド・ヴェール、着彩 Glass, polymer clay / Pâte de verre, paint	10 × 20 × 21	作家蔵 Collection of the artist	p.11 (上)
TM-4	桃尻エンジェル Pink Tush Angel	2019	ガラス、鉄、樹脂粘土 / パート・ド・ヴェール、着彩 Glass, iron, polymer clay / Pâte de verre, paint	175 × 22 × 15	作家蔵 Collection of the artist	p.11 (上)
TM-5	知性の鳥とノーテンキな獣 Intelligent Bird and Carefree Beast	2022	ガラス、鉄、樹脂粘土 / パート・ド・ヴェール、着彩 Glass, iron, polymer clay / Pâte de verre, paint	13 × 16 × 21	作家蔵 Collection of the artist	p.11 (上)
TM-6	悪魔の鎧を着た神様 God in Devil's Armor	2014	ガラス、コンクリート、鉄、樹脂粘土 Glass, concrete, iron, polymer clay	27 × 15 × 23	作家蔵 Collection of the artist	p.11 (上)
TM-7	あ・らん A-un	2014	ガラス、樹脂粘土、鉄、スパッタリングミラー、グリセリン Glass, polymer clay, iron, sputtering mirror, glycerin	23 × 27 × 16 21 × 24 × 16	作家蔵 Collection of the artist	p.11 (上)
TM-8	銀河をホオバル獣 The Beast that Swallows Galaxies	2014	ガラス、コンクリート、鉄、樹脂粘土 Glass, concrete, iron, polymer clay	28 × 18 × 29	作家蔵 Collection of the artist	p.11 (上)
TM-9	静かな気配 Sign of Calm	2020	ガラス、コンクリート、鉄、樹脂粘土 Glass, concrete, steel, polymer clay	40 × 58 × 28	個人蔵 (木村友和氏) Collection of KIMURA Tomokazu	p.11 (上)
TM-10	まどろみの独り歩き Going Alone of Doze	2017	ガラス、コンクリート、鉄、樹脂粘土 Glass, concrete, steel, polymer clay	28 × 27 × 10	個人蔵 (木村友和氏) Collection of KIMURA Tomokazu	p.11 (下)
TM-11	気配の共有 Share the Sign	2020	ガラス、樹脂粘土、木 / パート・ド・ヴェール、着彩 Glass, polymer clay, wood / Pâte de verre, paint	53 × 71 × 20	作家蔵 Collection of the artist	p.11 (下)
TM-12	創造の翼 Wings of Creation	2019	ガラス、樹脂粘土、木、鉄 / パート・ド・ヴェール、着彩 Glass, polymer clay, wood, iron / Pâte de verre, paint	40 × 43 × 45	作家蔵 Collection of the artist	p.11 (上)

3F



2F



日本近現代ガラスの源流

日本のガラス芸術の近現代を見通すために

「日本近現代ガラスの源流」展は、日本のガラス芸術が近代から現代へと向かう流れを追い、その中で行われた幅広い創造活動を紹介すべく開催した展覧会である。本展覧会を企画する上でまず検討したのは、どのように各時代、各時期の変化や流れを整理していくことが可能かということであった。なお、これまでも近現代を含む日本のガラス芸術史の流れを取り上げた展覧会は国内で複数回開催されている。主な展覧会は次の通りである。

- ・1974年「日本のガラス展－古代から現代まで」神奈川県立近代美術館
- ・1982年「近代日本のガラス工芸－明治初期から現代まで－」東京国立近代美術館
- ・1986年「日本のガラス300年－江戸から現代－」サントリー美術館
- ・1999年「日本のガラス2000年－弥生から現代まで」サントリー美術館

上記の展覧会において、洋式ガラス製法が導入され、日本のガラス製造が大きな転換期を迎える明治期を一つの区切りと捉えることについては共通していた。しかし現代については当然ながら各展覧会の開催時までを取り上げており、「近現代」として紹介される内容は開催年代を追うごとに拡張していつている。2023年において、改めて「近現代」を取り上げる上で、各時期の特徴をより明解に整理し展示において提示すること、そしてこれまでの展覧会で取り上げられてこなかった側面にも目を向けることを念頭に内容を検討した。

また今回の展覧会では当館の活動の軸である「現代」のガラス表現へ至る「源流」の部分に焦点を当てることを重視した。そこで、現在までの日本のガラス制作の動向を振り返った時、1970年代後半に明治以来のもう一つの大きな転換期を見ることができると考えた。1970年代後半には多摩美術大学において日本の高等教育機関で初のガラスコースが設立され（1976年）、京都で開催された第8回世界クラフト会議（1978年）において、「スタジオグラス」を始めとする海外のガラス制作の動向が紹介された。以降、国内ではガラス教育機関の設立と国際交流が進み、自らの手で自身の作品制作を行う作家が増加していくのである。

日本のガラスが近代化の道を歩み始める明治期から、二つ目の転換期を迎える前の1975年頃までについては、作家の影響関係や企業主体で行われるというガラスの制作体制を踏まえると、一続きの流れの中で捉えられる。そして1970年代後半より、自らの手で作品制作を行う動きが活発となっていく状況は、現在と地続きの流れとして考えることができる。よって、今回の展覧会では明治期から1975年頃までの動向を取り上げながら、各時期に活動を開始した作家達の作品を紹介することとした。

展覧会は5章で構成した。第1章では、日本の近代ガラス産業の黎明期に関わる作家達が手掛けた作品や、洋式ガラス製法の普及とともに生産された華やかな氷コップや醤油差しなどのガラス製品を展示した。第2章では本格的に芸術としてのガラス制作に取り組んだ先駆的な作家として、岩田藤七、各務鑛三の2人を取り上げた。第3章では各務の創

業した各務クリスタル製作所が優れた作家を数多く輩出したことや、同時期に岩城硝子でも独自の方向性でガラス作品の制作が行われていたことを紹介した。

第4章からは戦後の動きとして、ガラス会社のデザイナー達が国内のデザイン振興に関わりながら、プロダクトデザインとアートピースの両方を手掛けていたことを取り上げた。第5章では、工場と職人を借りる「壺借り」による方法をとった作家達と、民藝に関わりながら自らの窯を作り、自身の手で制作を行い始めた作家達の両方を取り上げ、企業に所属せずに個人でガラス制作を行うという、70年代後半以降に拡大していく動きの萌芽が現れ始めたことを紹介した。

展示においては、スケッチ、雑誌、製品カタログなど出品作家や作品に関係する資料類の充実も図り、現物の展示が難しい場合は画像をパネルで展示した。また1930年代から1970年代に活躍した作家には企業所属のデザイナーが多く存在したが、ガラス芸術史を取り上げたこれまでの展覧会においては一品制作の作品が中心的に紹介されてきた。そこで今回は企業デザイナー達のプロダクトデザインも積極的に取り上げ、一品制作の作品と共に展示した。

各時代の動向を整理すると、ガラスに関わる人々が時に所属企業や世代を超えて相互に接点を持つことで、日本のガラス芸術の歴史が脈々と紡がれてきたということが明らかとなった。また本展で取り上げた作品は、まだ先人の少ない時代に作家達がガラスという素材や制作方法について独自に研究を重ね、試行錯誤する中で生み出したものである。作品の中には硬質な美しさを湛えるものもあれば、柔らかく豊かな表情を見せるものもあり、それぞれが捉えたガラスの性質や魅力がダイレクトに伝わってくるようであった。

（中島春香）



展示風景 Installation view

The Origins of Japanese Modern Glass

A panoramic view of modern and contemporary Japanese glass art

The Origins of Japanese Modern Glass aimed to trace developments in Japanese glass art from the modern era to the contemporary and to introduce the wide-ranging creative activities undertaken during these periods. In planning this exhibition, the first thing we considered was how to summarize the changes and currents that occurred in each era and each period. Previously, a number of exhibitions had dealt with the various currents in the history of Japanese glass art, including the modern and contemporary eras. The major ones are as follows:

- 1974: *Glass in Japan: From Ancient to Contemporary*, The Museum of Modern Art, Kamakura
- 1982: *Modern Japanese Glass—Early Meiji to Present—*, The National Museum of Modern Art, Tokyo
- 1986: *300 years of Japanese Glass: Edo to the Present Day*, Suntory Museum of Art
- 1999: *2000 Years of Japanese Glass: From the Yayoi Period to the Present Day*, Suntory Museum of Art

Common to all of these exhibitions is that they treated the Meiji Period, in which glassmaking in Japan reached an important turning point as a result of the introduction of Western glassmaking techniques, as a milestone. As for the present day, however, because each exhibition naturally covered developments up to the time it was held, as the years passed the content introduced as “modern and contemporary” expanded. In 2023, when it came to focusing anew on the “modern and contemporary,” in considering the show’s content, we kept in mind both summarizing and showing more clearly through the exhibits the characteristics of each era, and paying attention to aspects that had not been dealt with in previous exhibitions.

We also attached importance to focusing on the “origins” leading up to the “contemporary” glass art that is the focal point of the Toyama Glass Art Museum’s activities. In this regard, when looking back at the tendencies in Japanese glassmaking up to the present, we thought that one could see in the late 1970s another important turning point following on from the Meiji Period. It was in the late 1970s that at Tama Art University the first glassmaking course was established at a Japanese institution of higher education (1976), and that “studio glass” and other overseas glassmaking tendencies were introduced at the 8th World Crafts Council held in Kyoto (1978). After this, strides were made in the establishment of glass educational institutions in Japan and in international exchanges, and the number of artists making works with their own hands increased.

Regarding the era from the Meiji Period, when Japanese glassmaking set out on the path to modernization, to around 1975, or prior to reaching the second turning point, based on the way artists influenced each other and the fact that the production of glass art was centered on corporations, one can understand it in the context of a continuous current. One can also think of the situation from the late 1970s onwards, in which the trend towards artists making works with their own hands gathered pace, as a current contiguous with the present. Accordingly, in this exhibition, we decided to focus on the

tendencies from the Meiji Period to around 1975, introducing works by artists who launched their careers in each period.

The exhibition consisted of five chapters. Chapter 1 featured works by artists involved in the dawning of the Japanese modern glass industry presented alongside colorful shaved-ice bowls, soy sauce cruets and other glass products that were developed concurrently with the spread of Western glass production techniques. Chapter 2 focused on IWATA Toshichi and KAGAMI Kozo as two trailblazing artists who approached glassmaking in earnest as an art form. Chapter 3 outlined how Kagami Crystal Works founded by Kagami Kozo produced many fine artists and how at around the same time Iwaki Glass Co., Ltd. also produced glass products while moving in a different direction.

Chapter 4 concentrated on postwar developments in glass art, and in particular how designers at glass companies involved themselves in both product design and the creation of artistic works while contributing to the advancement of design within Japan. Chapter 5 introduced both artists who employed the *tsubogari* system, which involved hiring studios and craftspeople for fixed periods of time, and artists involved in the Mingei movement who established their own furnaces and adopted a more hands-on approach, showing how the early signs of the trend that spread in the late 1970s of glassmaking by individuals who did not belong to glass companies began to emerge.

An effort was made to include as much material as possible related to the included artists and works, such as sketches, magazines and product catalogues, and where displaying the actual items was difficult, images of them were presented on panels. As well, while many of the artists who were active from the 1930s to 1970s were designers employed by glass companies, until now exhibitions dealing with the history of glass art have concentrated on introducing one-off works. At this exhibition, we made a point of introducing product designs by these company designers, presenting them together with their one-off works.

By summarizing the tendencies in each period, and showing how those involved in glassmaking occasionally had mutual connections beyond their own companies and generations, the exhibition made clear how the history of Japanese glass art has unfolded as a continuous narrative. As well, the works featured in the show were produced against a backdrop of trial and error and ongoing original research into glass as a material and its production methods by artists at a time when there were still only a small number of predecessors. Some of the works are possessed of a hard beauty, while others exhibit soft, rich expression, but they all communicate directly the qualities and appeal of glass as perceived by the artists concerned.

（NAKASHIMA Haruka, translated by Pamela MIKI）

作品番号 No.	作家名(資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ(H×W×D)(cm) Dimensions (cm)	所蔵先(展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
1_18		千筋文赤乳白縁把手付アイスクリームコップ Sundae Glass with Handle, Stripe Design, Red and Opalescent Rim	明治 - 大正 Meiji-Taisho period (1868-1926)	宙吹き blown glass	7.5 × 6.8 × 6.8	個人蔵 private collection	p.12(下)
1_19		赤縁ベル形アイスクリームコップ Sundae Glass with Red Rim	明治 - 大正 Meiji-Taisho period (1868-1926)	宙吹き blown glass	10.5 × 7.3 × 7.3	個人蔵 private collection	p.12(下)
1_20		桜花文ソーダコップ Soda Drinking Glass with Cherry Blossom Design	大正 - 昭和初期 Taisho-early Showa period (1912-1945)	あぶり出し <i>aburidashi</i>	12.5 × 7.4 × 7.4	個人蔵 private collection	p.12(下)
1_21		籠目文ソーダコップ Soda Drinking Glass with Basket Weave Pattern	大正 - 昭和初期 Taisho-early Showa period (1912-1946)	あぶり出し <i>aburidashi</i>	15.1 × 7.8 × 7.8	個人蔵 private collection	p.12(下)
1_22		イカリソースのソース差し Sauce Cruet with the Mark of <i>Ikari</i> Sauce	昭和 Showa period (1926-1989)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	14.9 × 6.9 × 6.9	曾根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_23		三ツ矢ソースのソース差し Sauce Cruet with the Mark of <i>Mitsuya</i> Sauce	明治 - 昭和 Meiji-Showa period (1868-1989)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	13.2 × 7.0 × 7.0	曾根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_24		鳥形醤油差し Soy Sauce Cruet in the Shape of a Bird	大正 Taisho period (1912-1926)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	7.4 × 8.0	曾根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_25		樽型醤油差し Soy Sauce Cruet in the Shape of Barrel	明治後期 - 昭和初期 later Meiji- early showa period (1890-1945)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	11.0 × 8.0 × 8.0	曾根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_26		樽型醤油差し Soy Sauce Cruet in the Shape of Barrel	明治後期 - 昭和初期 later Meiji- early showa period (1890-1945)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	9.0 × 6.2 × 6.2	曾根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_27		文化醤油差し Soy Sauce Cruet 'Bunka'	大正 - 昭和 Taisho-Showa period (1912-1989)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	10.8 × 5.9 × 5.9	曾根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_28		富士山に五輪文醤油差し Soy Sauce Cruet with Mt. Fuji and the Olympic Symbol Design	1940年頃 possibly c.1940	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	8.2 × 6.5 × 6.5	曾根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_29		飛行機文醤油差し Soy Sauce Cruet with Plane Design	大正 - 昭和 Taisho-Showa period (1912-1989)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	11.1 × 7.9 × 7.9	曾根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_30		菊花大会記念醤油差し Soy Sauce Cruet Commemorating Chrysanthemum Exhibition	昭和 Showa period (1926-1989)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	8.3 × 6.5 × 6.5	曾根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_31		燕文醤油差し Soy Sauce Cruet with Swallow Design	大正 - 昭和 Taisho-Showa period (1912-1989)	プレス、型吹き、ウランガラス mold pressed and mold blown uranium glass	11.1 × 7.2 × 7.2	曾根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_32	松浦玉圃 MATSUURA Gyokuho	牡丹文デカンター、グラス Decanter and Stemmed Glasses with Peony Design	1896-1922	宙吹きガラス、エナメル彩 blown and enamel painted glass	グラス /Glass: 11.4 × 5.1 × 5.1、 11.2 × 5.1 × 5.1 デカンター / Decanter: 27.2 × 14.3 × 14.3	町田市立博物館 Machida City Museum	p.12(下)
資料 1_1	著：石井研堂(民司)、博文館 ISHII Kendo (ISHII Tamiji), Hakubunkan	『少年工芸文庫 第六編 ガラスの巻』 Shonen Kogei Bunko [Youth Library of Crafts,] vol.6: Glass	1902	書籍 book		富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
資料 1_2	千葉県教育庁文化課 Culture division of Chiba prefectural board of education	「岩城滝次郎、岡本一太郎特集」『房総の美術史』第8号 "Feature issue: Iwaki Takijiro and Okamoto Ichitaro" Boso no bijutsushi [Art history of Boso,] No.8	1983	紙、印刷 print on paper		AGC テクノグラス株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	

作品番号 No.	作家名(資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ(H×W×D)(cm) Dimensions (cm)	所蔵先(展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
2. 近現代ガラス芸術の開拓者：岩田藤七と各務鋺三 Pioneers of modern glass art: IWATA Toshichi and KAGAMI Kozo							
2_1	岩田藤七 IWATA Toshichi	吹込みルビー色硝子銀花生 Silver Vase with Ruby Blown Glass	1928	吹きガラス、銀 blown glass, silver	28.0 × 15.5 × 14.0	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.13(上)
2_2	岩田藤七 IWATA Toshichi	吹き硝子花瓶 Flower vase of blown glass	1937	ガラス glass	28.8 × 32.5 × 14.7	東京藝術大学 Tokyo University of the Arts	
2_3	岩田藤七 IWATA Toshichi	花器 Vase	1960	吹きガラス blown glass	24.5 × 32.0 × 8.5	新宿歴史博物館 Shinjuku Historical Museum	p.13(上)
2_4	岩田藤七 IWATA Toshichi	瓶 Bottle	1969	吹きガラス blown glass	23.1 × 17.7 × 6.6	町田市立博物館 Machida City Museum	p.13(上)
2_5	岩田藤七 IWATA Toshichi	三彩鉢 Tricolored bowl	1968	ガラス glass	16.2 × 29.4 × 29.4	東京藝術大学 Tokyo University of the Arts	
2_6	岩田藤七 IWATA Toshichi	花器 Vase	1960	吹きガラス blown glass	21.0 × 28.0 × 28.0	新宿歴史博物館 Shinjuku Historical Museum	p.13(上)
2_7	岩田藤七 IWATA Toshichi	貝 Shell	1976	吹きガラス blown glass	15.0 × 36.0 × 23.0	新宿歴史博物館 Shinjuku Historical Museum	
2_8	各務鋺三 KAGAMI Kozo	飾皿 銘 祈り Ornament Plate. Named <i>Inori</i> (Prayer)	1929	クリスタルガラス、グラヴィール crystal glass, engraving	4.6 × 26.3 × 26.3	岐阜県美術館 The Museum of Fine Arts, Gifu	p.13(下)
2_9	各務鋺三 KAGAMI Kozo	宝相華硝子花瓶 Vase with <i>Hosogae</i> Design	制作年不詳 Unknown	グラヴィール engraved glass	35.2 × 19.8 × 19.8	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.13(下)
2_10	各務鋺三 KAGAMI Kozo	人物模様硝子花瓶 Vase with Figure Design	制作年不詳 Unknown	グラヴィール engraved glass	30.0 × 20.0 × 10.0	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.13(下)
2_11	各務鋺三 KAGAMI Kozo	花器 Flower Vase	1947年頃 c.1947	クリスタルガラス、カット、サンドブラスト crystal glass, cut, sandblasted	25.0 × 14.5 × 14.5	岐阜県美術館 The Museum of Fine Arts, Gifu	p.13(下)
2_12	各務鋺三 KAGAMI Kozo	花器 Vase	1954	宙吹き blown glass	22.3 × 17.0 × 17.2	カガミクリスタル株式会社 KAGAMI CRYSTAL Co.,Ltd.	p.13(下)
2_13	高木茂 TAKAGI Shigeru	碧 Blue	1983	カット、グラヴィール cut and engraved glass	20.0 × 14.0 × 14.0	カガミクリスタル株式会社 KAGAMI CRYSTAL Co.,Ltd.	
2_14	明道長次郎 MYODO Chojiro	草花文グラヴィール硝子鉢 Glass Bowl with Engraved Design of Grass and Flowers	1940	グラヴィール engraved glass	24.7 × 14.5 × 14.5	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
資料 2_1	明道長次郎 MYODO Chojiro	スケッチブック Sketchbooks	1930年代頃 c.1930s	紙に鉛筆、色鉛筆、墨、水彩、他 pencil, colored pencil, india ink, watercolor, etc. on paper		個人蔵 private collection (現・富山市ガラス美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
資料 2_2	生駒時計店 G. IKOMA, LTD.	『GRAVUR.』小冊子 GRAVUR.	1932年頃 c.1932	紙、印刷 print on paper		個人蔵 private collection (現・富山市ガラス美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	

作品番号 No.	作家名(資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年/出版年 Year of Production Publication	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ(H×W×D)(cm) Dimensions (cm)	所蔵先(展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
3. ガラス作家の増加と戦時体制下のガラス制作 The rise of glass artists and glassmaking under the wartime regime							
3_1	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	鍛鉄硝子吹込花瓶 Glass vase blown into forged iron work	1940	ガラス、鉄、吹込み、鍛造 glass, iron, blowing, forging	33.1 × 26.8 × 26.8	国立工芸館 National Crafts Museum	p.14(上)
3_2	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	オリンピックブルー硝子皿 Olympic-Blue Glass Dish	1941年頃 c.1941	ガラス、宙吹き glass, free blowing	7.7 × 27.8 × 27.8	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.14(上)
3_3	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	鍛鉄吹込花器 Vase Blown in Hammered Iron Frame	制作年不詳 Unknown	ガラス、鉄、鍛鉄吹込、雲母封入 glass, blown into hammered iron frame, mica-pattern	24.6 × 18.4 × 18.4	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.14(上)
3_4	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	鍛鉄吹込花器(グリーン) Vase Blown in Hammered Iron Frame (Green)	1986	鍛鉄吹込 glass, blown into hammered iron frame	29.0 × 13.0 × 13.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.14(上)
3_5	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	花器・一寸考えて Vase, "After a Moment's Thought"	制作年不詳 Unknown	ガラス、宙吹き glass, blown	22.7 × 13.0 × 13.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.14(上)
3_6	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	花器・何をしようか Vase, "What'll do?"	1986	ガラス、宙吹き glass, blown	25.0 × 13.7 × 13.7	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.14(上)
3_7	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	花器(カットグラス) Vase (Cut Glass)	1986	ガラス、型吹き、エッチング、カット glass, mold blown, etching, cut	27.7 × 8.3 × 8.3	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.14(上)
3_8	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	クリスタル六角鉢 Crystal Hexagonal Bowl	制作年不詳 Unknown	ガラス、宙吹き glass, blown	22.7 × 24.0 × 24.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.14(上)
3_9	降旗正男 FURIHATA Masao	梅花文花盛 Flower Basin with Plum Blossom Design	1940年頃 c.1940	ガラス glass	13.3 × 36.0 × 14.0	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.14(下)
3_10	小畑(淡島)雅吉 OBATA Masakichi (AWASHIMA Masakichi)	鳥竹文様鉢 Bowl with Birds and Bamboo Design	1936-1942年 頃 c.1936-1942	グラヴィール engraved glass	14.0 × 21.5 × 21.5	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.14(上)
3_11	各務満 KAGAMI Mitsuru	オブジェ「未来」 Object, "Future"	1954	型吹き、カット、クリスタルガラス mold blown and cut crystal glass	41.0 × 18.0 × 18.0	カガミクリスタル株 式会社 KAGAMI CRYSTAL Co.,Ltd.	p.14(上)
3_12	各務満 KAGAMI Mitsuru	オブジェ「胎動」 Object, "Fetal Movement"	1989	宙吹き、クリスタルガラス blown crystal glass	24.0 × 23.0 × 16.0	カガミクリスタル株 式会社 KAGAMI CRYSTAL Co.,Ltd.	p.14(上)
3_13	青野武市 AONO Takeichi	グラヴィール線文花器 Vase with Linear Design	1953	ガラス、グラヴィール engraved glass	28.3 × 13.2 × 10.3	町田市立博物館 Machida City Museum	p.14(上)
3_14	青野武市 AONO Takeichi	カット文クリスタル花器 Crystal Glass Vase with Geometric Patten	1966年頃か possibly c.1966	ガラス、カット、グラヴィール cut and engraved glass	33.8 × 19.2 × 15.0	町田市立博物館 Machida City Museum	
3_15	青野武市 AONO Takeichi	紫被牡丹文花器 Purple-Overlay Clear Glass Vase with Peony Design	1993	ガラス、グラヴィール engraved glass	24.4 × 15.2 × 12.7	町田市立博物館 Machida City Museum	
3_16	青野武市 AONO Takeichi	金赤被寫文三段重 Red-Overlay Clear Glass Covered Three-Tiered Box with Ivy Design	1982	ガラス、サンドブラスト、グラヴィール sandblasted and engraved glass	23.3 × 13.6 × 13.6	町田市立博物館 Machida City Museum	
3_17	青野武市 AONO Takeichi	金赤被凌霄花三段重 Three tiers of boxes, great trumpet flower design in red	1995	ガラス、吹きガラス、被せガラス、グラヴィール glass, mold-blowing, overlay, engraving	24.2 × 13.8 × 13.8	国立工芸館 National Crafts Museum	
3_18	各務クリスタル製作所 Kagami Crystal Works	タンブラー (T-37 スモーク) Tumbler (T-37 smoke)	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	各 /each: 10.8 × 6.4 × 6.4	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.14(下)

作品番号 No.	作家名(資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年/出版年 Year of Production Publication	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ(H×W×D)(cm) Dimensions (cm)	所蔵先(展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
3_19	各務クリスタル製作所 Kagami Crystal Works	カップ&ソーサー(ブルー) Cup and Saucer (Blue)	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	カップ/Cup: 約 /approx. 7.0 × 7.0 × 9.0 ソーサー/Saucer: 約 /approx. 1.9 × 13.0 × 13.0	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.14(下)
3_20	各務クリスタル製作所 Kagami Crystal Works	カップ&ソーサー Cup and Saucer	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	カップ/Cup: 約 /approx. 6.0 × 7.5 × 7.5 ソーサー/Saucer: 約 /approx. 2.0 × 13.0 × 13.0	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.14(下)
3_21	岩城硝子工芸部 Iwaki Glass Crafts Department	パート・ド・ヴェール「鉢」 Pâte de verre "Bowl"	1938年頃 c.1938	パート・ド・ヴェール pâte de verre	8.2 × 18.4 × 18.4	A G Cテクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	p.15(上)
3_22	岩城硝子工芸部(小川雄 平作) Iwaki Glass Crafts Department (OGAWA Yuhei)	パート・ド・ヴェール「七面鳥」 Pâte de verre "Turkey"	1938年頃 c.1938	パート・ド・ヴェール pâte de verre	13.8 × 15.8	A G Cテクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	p.15(上)
3_23	岩城硝子工芸部 Iwaki Glass Crafts Department	パート・ド・ヴェール「鳩」 Pâte de verre "Dove"	1938年頃 c.1938	パート・ド・ヴェール pâte de verre	17.0 × 15.5 × 16.0	A G Cテクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	p.15(上)
3_24	岩城硝子工芸部 Iwaki Glass Crafts Department	パート・ド・ヴェール「ほうぼう」 Pâte de verre "Gurnard"	1938年頃 c.1938	パート・ド・ヴェール pâte de verre	4.5 × 34.5 × 12.2	A G Cテクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	p.15(上)
3_25	岩城硝子工芸部 Iwaki Glass Crafts Department	パート・ド・ヴェール「犬」 Pâte de verre "Dog"	1938年頃 c.1938	パート・ド・ヴェール pâte de verre	9.5 × 11.5 × 5.0	A G Cテクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	p.15(上)
3_26	岩城硝子工芸部 Iwaki Glass Crafts Department	パート・ド・ヴェール「獅子」 Pâte de verre "Lion"	1938年頃 c.1938	パート・ド・ヴェール pâte de verre	10.5 × 27.0 × 8.0	A G Cテクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	p.15(上)
3_27	岩城硝子株式会社、デザ イン：小川雄平 Iwaki Glass Co., Ltd., Design: OGAWA Yuhei	金魚 大皿 Goldfish Platter	1950年代、 デザイン： 1939年 1950s, design: 1939	型押し embossed	4.6 × 30.3 × 30.3	A G Cテクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	
3_28	岩城硝子株式会社、デザ イン：小柴外一 Iwaki Glass Co., Ltd., Design: KOSHIBA Sotoichi	ばら 大皿 Rose Platter	1960年代、 デザイン： 1930年代頃 1960s, design: c.1930s	型押し embossed	6.0 × 30.5 × 30.5	A G Cテクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	
3_29	岩城硝子株式会社、デザ イン：小柴外一 Iwaki Glass Co., Ltd., Design: KOSHIBA Sotoichi	ばら 花瓶 Rose Vase	1950年代、 デザイン： 1930-1940年 代頃 1950s, design: c.1930-1940s	型押し embossed	15.0 × 10.0 × 10.0	A G Cテクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	
3_30	岩城硝子株式会社、デザ イン：小柴外一 Iwaki Glass Co., Ltd., Design: KOSHIBA Sotoichi	ブラジル丸 O.S.K.LINE 灰皿(エ メロード) Brazil Maru O.S.K.LINE Ashtray (Emerald)	1940年代 1940s	型押し embossed	2.3 × 19.5 × 9.0	A G Cテクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	
3_31	岩城硝子株式会社 Iwaki Glass Co., Ltd.	朝顔紋 小皿 Morning Glory Crest Small Dish	制作年不詳、 デザイン： 1930-1940年 代頃 Unknown, design: c.1930-1940s	型押し embossed	各 /each: 3.7 × 14.7 × 14.7	A G Cテクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	
3_32	岩城硝子株式会社 Iwaki Glass Co., Ltd.	朝顔紋 小皿 Morning Glory Crest Small Dish	制作年不詳、 デザイン： 1930-1940年 代頃 Unknown, design: c.1930-1940s	型押し embossed	3.7 × 14.7 × 14.7	個人蔵 private collection	

作品番号 No.	作家名 (資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 (展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
3_33	小川雄平 OGAWA Yuhei	雛 置物 Figurine, "Young Birds"	制作年不詳 Unknown	キャスト cast	8.5 × 11.0 × 8.0	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.15 (上)
3_34	小柴外一 KOSHIBA Sotoichi	あざみ花盛 Vase with Thistle Design	1937 年頃 c.1937	パート・ド・ヴェール pâte de verre	18.0 × 14.2 × 14.2	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.15 (上)
3_35	小柴外一 KOSHIBA Sotoichi	梅文電気スタンド笠 Lampshade with Plum Blossom Design	1962-1963	パート・ド・ヴェール pâte de verre	11.1 × 24.1 × 24.1	岡本硝子株式会社 OKAMOTO GLASS Co.,Ltd.	p.15 (上)
3_36	小柴外一 KOSHIBA Sotoichi	置物・手 Figurine, "Hand"	制作年不詳 Unknown	パート・ド・ヴェール pâte de verre	4.4 × 21.1 × 8.5	岡本硝子株式会社 OKAMOTO GLASS Co.,Ltd.	
3_37	小柴外一 KOSHIBA Sotoichi	ばら文茶碗 Tea Bowl with Rose Design	1962-1963	パート・ド・ヴェール pâte de verre	6.5 × 11.3 × 11.3	岡本硝子株式会社 OKAMOTO GLASS Co.,Ltd.	
資料3_1	著：佐藤潤四郎、芸艸堂 SATO Junshiro, Unsodo	『ガラスの旅』 Garasu no tabi (Journey to glass)	1976	書籍 book		富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
資料3_2	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	植物図 Botanical Drawing	制作年不詳 unknown	紙 paper		個人蔵 private collection	
資料3_3	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	研究ノート Research Notebook	制作年不詳 unknown	紙 paper		個人蔵 private collection	
資料3_4	岩城硝子株式会社 Iwaki Glass Co., Ltd.	岩城硝子資料 Materials on Iwaki Glass	1930-1980 年 代頃 c.1930-1980s	紙、印刷 print on paper		AGC テクノグラス株 式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	

4. 戦後デザイン振興とガラス・デザイナー The advancement of design and glass designers in the postwar era

4_1	佐々文夫、株式会社 YAMAGIWA SASSA Fumio, YAMAGIWA Corporation	ランパス (333F-278,279,280,281) 復刻品 LAMPAS (333F-278,279,280,281)	デザイン： 1958 年、復 刻：2018 年 design: 1958, reproduction: 2018	乳白ガラス opaque white glass	可変 Dimensions variable	株式会社 YAMAGIWA YAMAGIWA Corporation	p.15 (下) p.16 (上)
4_2	佐々文夫、保谷クリスタ ル硝子製造所 SASSA Fumio, Hoya Glass Works Ltd.	クリスタルサラダボール Crystal Salad Bowl	1956	クリスタルガラス crystal glass	6.1 × 14.9 × 14.9	佐々瑛子蔵 collection of SASSA Eiko (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
4_3	佐々文夫、保谷クリスタ ル硝子製造所 SASSA Fumio, Hoya Glass Works Ltd.	クリスタルサラダボール Crystal Salad Bowl	1957	クリスタルガラス crystal glass	7.5 × 25.7 × 25.7, 4.5 × 12.7 × 12.7	佐々瑛子蔵 collection of SASSA Eiko (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
4_4	佐々文夫 SASSA Fumio	オーナメント「APOSTROPHE」 Ornament "APOSTROPHE"	1955	クリスタルガラス crystal glass	4 点 /4 pieces: 15.8 × 11.0 × 11.0, 16.3 × 11.0 × 11.0, 16.0 × 12.0 × 12.0, 16.7 × 12.0 × 12.0	佐々瑛子蔵 collection of SASSA Eiko (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.15 (下)
4_5	佐々文夫、株式会社保谷 硝子 SASSA Fumio, HOYA Corporation	ストレートグラスコレクション Straight Glass Collection	1984	クリスタルガラス crystal glass	Cut Rock (2 点 /2 pieces): 12.7 × 4.7 × 4.7 PRISMATICS (6 点 /6 pieces): 12.4 × 4.5 × 4.5	佐々瑛子蔵 collection of SASSA Eiko	

作品番号 No.	作家名 (資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 (展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
4_6	佐々文夫 SASSA Fumio	オブジェ Object	1957	クリスタルガラス crystal glass	19.0 × 12.3 × 12.3	佐々瑛子蔵 collection of SASSA Eiko (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.16 (上)
4_7	佐々文夫 SASSA Fumio	オブジェ「DUET FANTASY」 Object "DUET FANTASY"	1980	宙吹き、カット blown and cut glass	22.0 × 22.5 × 22.5	佐々瑛子蔵 collection of SASSA Eiko (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.16 (上)
4_8	佐藤潤四郎、カガミクリ スタル製作 SATO Junshiro, Kagami Crystal Works	手吹きウイスキーボトル《スーパ ーニッカ》初号モデル Whisky Bottle, "Super NIKKA" (Handblown)	1963 年頃 c.1963	ガラス、宙吹き glass, free blowing	25.0 × 14.0 × 14.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.15 (下)
4_9	佐藤潤四郎、カガミクリ スタル製作 SATO Junshiro, Kagami Crystal Works	手吹きウイスキーボトル《スーパ ーニッカ》東京五輪 1964 モデル・青 Whisky Bottle, "Super Nikka" (Handblown), Tokyo Olympic 1964 Model, Blue	1964 年頃 c.1964	ガラス、宙吹き glass, free blowing	20.0 × 13.0 × 13.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.15 (下)
4_10	佐藤潤四郎、カガミクリ スタル製作 SATO Junshiro, Kagami Crystal Works	手吹きウイスキーボトル《スーパ ーニッカ》東京五輪 1964 モデル・黄 Whisky Bottle, "Super Nikka" (Handblown), Tokyo Olympic 1964 Model, Yellow	1964 年頃 c.1964	ガラス、宙吹き glass, free blowing	20.0 × 13.0 × 13.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.15 (下)
4_11	佐藤潤四郎、カガミクリ スタル製作 SATO Junshiro, Kagami Crystal Works	手吹きウイスキーボトル《スーパ ーニッカ》東京五輪 1964 モデル・黒 Whisky Bottle, "Super Nikka" (Handblown), Tokyo Olympic 1964 Model, Black	1964 年頃 c.1964	ガラス、宙吹き glass, free blowing	20.0 × 13.0 × 13.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.15 (下)
4_12	佐藤潤四郎、カガミクリ スタル製作 SATO Junshiro, Kagami Crystal Works	手吹きウイスキーボトル《スーパ ーニッカ》東京五輪 1964 モデル・緑 Whisky Bottle, "Super Nikka" (Handblown), Tokyo Olympic 1964 Model, Green	1964 年頃 c.1964	ガラス、宙吹き glass, free blowing	20.0 × 13.0 × 13.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.15 (下)
4_13	佐藤潤四郎、カガミクリ スタル製作 SATO Junshiro, Kagami Crystal Works	手吹きウイスキーボトル《スーパ ーニッカ》東京五輪 1964 モデル・赤 Whisky Bottle, "Super Nikka" (Handblown), Tokyo Olympic 1964 Model, Red	1964 年頃 c.1964	ガラス、宙吹き glass, free blowing	19.8 × 13.4 × 13.4	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.15 (下)
4_14	吉田丈夫 YOSHIDA Takeo	飾皿・向日葵 Ornamental Plate, "Sunflower"	制作年不詳 Unknown	宙吹き、カット、金彩 blown and cut glass, gold decoration	7.5 × 44.0 × 44.0	カガミクリスタル株 式会社 KAGAMI CRYSTAL Co.,Ltd.	p.15 (下)
4_15	吉田丈夫 YOSHIDA Takeo	クリスタル花器「冬芽」 Crystal Vase, "Winter Bud"	1990	宙吹き、カット、クリスタルガラス blown and cut crystal glass	24.4 × 16.2 × 14.5	カガミクリスタル株 式会社 KAGAMI CRYSTAL Co.,Ltd.	p.15 (下)
4_16	淡島雅吉 AWASHIMA Masakichi	花器 Vase	制作年不詳 Unknown	型吹き mold blown glass	19.4 × 18.7 × 14.5, 18.4 × 17.9 × 14.4	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.15 (下) p.16 (下)
4_17	淡島雅吉 AWASHIMA Masakichi	花器 Vase	1963 年頃 c.1963	型吹き mold blown glass	46.0 × 31.0 × 15.0	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.15 (下) p.16 (下)
4_18	淡島雅吉 AWASHIMA Masakichi	鉄棒吹込花器 Blown Glass Vase with Iron Flame	1966 年頃 c.1966	鉄棒吹込 blown glass, iron flame	22.0 × 20.0 × 20.0	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.15 (下) p.16 (下)
4_19	淡島雅吉 AWASHIMA Masakichi	ピトモールパープル双児器 Mold Blown Purple Glass Twin Vase	1969	型吹き mold blown glass	33.0 × 26.5 × 15.0	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.15 (下) p.16 (下)
4_20	淡島雅吉 AWASHIMA Masakichi	グレーブロット日月花器 Blown Gray Glass Vase with Iron Frame, Sun and Moon Design	1966	鉄棒吹込 blown glass, iron flame	68.0 × 19.0 × 16.0	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.15 (下) p.16 (下)
4_21	淡島雅吉 AWASHIMA Masakichi	花器・マーバロン Vase, "MA-Balloon"	1966 年頃 c.1966	宙吹き blown glass	55.0 × 26.0 × 26.0	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.15 (下) p.16 (下)
4_22	淡島雅吉 AWASHIMA Masakichi	花器・マーバロン Vase, "MA-Balloon"	1966 年頃 c.1966	宙吹き blown glass	101.0 × 19.5 × 19.5	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.15 (下) p.16 (下)

作品番号 No.	作家名(資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年/出版年 Year of Production Publication	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ(H×W×D)(cm) Dimensions (cm)	所蔵先(展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
4_23	佐々木硝子株式会社、デザイン：竹内傳治 Sasaki Glass Co., Ltd. Design: TAKEUCHI Denji	ガラス製灰皿 44090-GSM, 44095-AMB Glass Ashtray, 44090-GSM, 44095-AMB	1963	色ガラス、スピニング成形 colored glass, spinning	44090-GSM: 4.8 × 19.8 × 19.8、 44095-AMB: 3.9 × 14.9 × 14.9	東洋佐々木ガラス株式会社 Toyo-Sasaki Glass Co., Ltd.	
4_24	東洋佐々木硝子株式会社 Toyo-Sasaki Glass Co., Ltd.	HS スタックタンブラー 00345HS、00346HS HS Stack Tumbler, 00345HS, 00346HS	デザイン：1971年 design: 1971	ソーダ石灰ガラス soda-lime glass	00345HS: 8.0 × 6.7 × 6.7、 00346HS: 9.5 × 6.7 × 6.7	個人蔵 private collection	
4_25	竹内傳治 TAKEUCHI Denji	コンポジション #137 Composition #137	制作年不詳 Unknown	ガラス、キャスト、カット、研磨、接着 cast, cut, polished and glued glass	7.0 × 44.0 × 21.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
4_26	竹内傳治 TAKEUCHI Denji	コンポジション #173 Composition #173	1992	キャスト、カット、研磨、接着 cast, cut, polished and glued glass	24.0 × 28.0 × 21.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
4_27	船越三郎、株式会社保谷硝子 FUNAKOSHI Saburo, HOYA corporation	ピネガー瓶 Vinegar Bottles	デザイン：1960年 design: 1960	クリスタルガラス crystal glass	大 /large: 21.9 × 6.8 × 6.8、 小 /small: 18.3 × 5.8 × 5.8	豊嶋菜生蔵 collection of TOYOSHIMA Naoi	p.44
4_28	船越三郎、株式会社保谷硝子 FUNAKOSHI Saburo, HOYA corporation	コンディメントセット Condiment Set	デザイン：1969年 design: 1969	クリスタルガラス crystal glass	4点 /4 pieces: 11.4 × 10.6 × 9.0、 5.8 × 5.5 × 5.5、 11.0 × 6.0 × 6.0、 11.0 × 6.0 × 6.0	豊嶋菜生蔵 collection of TOYOSHIMA Naoi	p.44
4_29	船越三郎、株式会社保谷硝子 FUNAKOSHI Saburo, HOYA corporation	スノーレイク II SNOW LAKE II	デザイン：1976年 design: 1976	クリスタルガラス crystal glass	4.0 × 25.8 × 25.8	豊嶋菜生蔵 collection of TOYOSHIMA Naoi	p.44
4_30	船越三郎 FUNAKOSHI Saburo	花器 Vases	制作年不詳 Unknown	クリスタルガラス crystal glass	2点 /2 pieces: 23.0 × 7.0 × 7.0、 19.9 × 5.5 × 5.5	豊嶋菜生蔵 collection of TOYOSHIMA Naoi	p.44
4_31	菅澤利雄、HOYA 株式会社 SUGASAWA Toshio, HOYA Corporation	ステムウェア・ライン「エンタシス」 Stemware Line "Entasis"	デザイン年：1985-1986年、1996年 (Martini) design: 1985-1986、1996(Martini)	クリスタルガラス crystal glass	4点 /4 pieces: 18.3 × 8.5 × 8.5、 19.5 × 9.5 × 9.5、 23.5 × 5.0 × 5.0、 15.8 × 11.5 × 11.5	作家蔵 collection of the artist (現・富山市ガラス美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
4_32	菅澤利雄、株式会社保谷硝子 SUGASAWA Toshio, HOYA Corporation	JAL タンブラー JAL Tumbler	デザイン：1980年代 design: 1980s	クリスタルガラス crystal glass	8.9 × 6.0 × 6.0	作家蔵 collection of the artist (現・富山市ガラス美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
4_33	菅澤利雄、株式会社保谷硝子 SUGASAWA Toshio, HOYA Corporatio	JAL グラスライン-1 JAL GLASS line-1	デザイン：1983年 design: 1983	クリスタルガラス crystal glass	3点 /3 pieces: 7.9 × 6.9 × 6.9、 10.8 × 5.9 × 5.9、 10.9 × 6.8 × 6.8	作家蔵 collection of the artist (現・富山市ガラス美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
4_34	菅澤利雄、HOYA 株式会社 SUGASAWA Toshio, HOYA Corporation	デスク時計 Desk Clock	デザイン：1991年 design: 1991	クリスタルガラス crystal glass	13.0 × 14.0 × 4.0	作家蔵 collection of the artist (現・富山市ガラス美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
4_35	菅澤利雄 SUGASAWA Toshio	「材料に関する本」(「本」のシリーズ) "Books on materials" in Book series	1981	クリスタルガラス、木、アルミニウム、(ガラス部分)キャスト、カット、平研磨 cast, cut and polished crystal glass, wood, aluminium	各 /each: 6.5 × 17.0 × 21.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
4_36	菅澤利雄 SUGASAWA Toshio	「魔法の鉛筆」(「鉛筆」のシリーズ) "Magic Pencils" in Pencil series	1993	クリスタルガラス、薄白板接着、宙吹き、研磨、真空蒸着 blown and polished crystal glass, glued of the white sheet, vacuum evaporation	各 /each: 21.0 × 7.0 × 6.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
4_37	岩田久利 IWATA Hisatoshi	花器「H」 Vase, "H"	1954	吹きガラス、カット blown and cut glass	38.8 × 14.0 × 14.4	町田市立博物館 Machida City Museum	p.15(下)

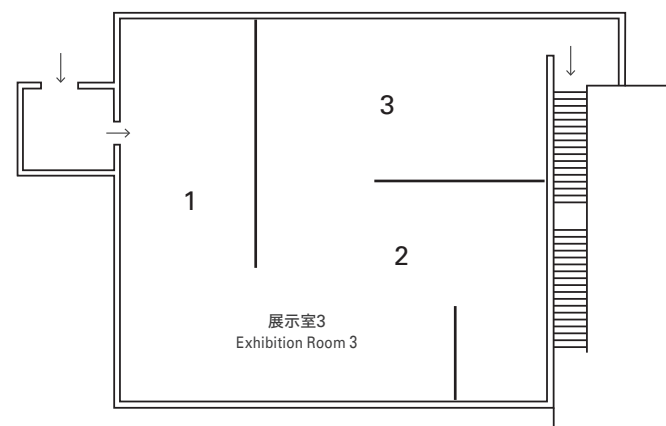
作品番号 No.	作家名(資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年/出版年 Year of Production Publication	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ(H×W×D)(cm) Dimensions (cm)	所蔵先(展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
4_38	岩田久利 IWATA Hisatoshi	コンポート Compote	1983	吹きガラス blown glass	24.8 × 29.1 × 29.1	町田市立博物館 Machida City Museum	
4_39	岩田久利 IWATA Hisatoshi	花器「青鬼」 Vase "Blue Goblin"	1970	宙吹き blown glass	38.0 × 24.0 × 24.0	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	
4_40	岩田久利 IWATA Hisatoshi	花器「赤鬼」 Vase "Red Goblin"	1970	宙吹き blown glass	33.0 × 27.0 × 24.0	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.16(上)
4_41	岩田久利 IWATA Hisatoshi	金彩花器 Vase, decoration with gold	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	59.5 × 12.0 × 12.0	新宿歴史博物館 Shinjuku Historical Museum	p.16(上)
4_42	岩田糸子 IWATA Itoko	花器 Vase	1992	吹きガラス blown glass	45.0 × 14.2 × 13.8	町田市立博物館 Machida City Museum	
4_43	岩田糸子 IWATA Itoko	飾皿 Decorative Plate	1984	吹きガラス blown glass	3.5 × 58.5 × 50.5	町田市立博物館 Machida City Museum	p.16(上)
4_44	岩田糸子 IWATA Itoko	花器「蕾」 Vase, "Bud"	1999	吹きガラス blown glass	20.0 × 30.5 × 30.5	新宿歴史博物館 Shinjuku Historical Museum	p.16(上)
資料 4_1	岩田工業ガラス株式会社 Iwata Glass Co., Ltd.	製品カタログ '67 Product Catalog '67	1967	紙、印刷 print on paper		岩田マリ蔵 collection of IWATA Mari	
資料 4_2	岩田工業ガラス株式会社 Iwata Glass Co., Ltd.	製品カタログ '70 Product Catalog '70	1970	紙、印刷 print on paper		岩田マリ蔵 collection of IWATA Mari	
資料 4_3	丸善 Maruzen	『工芸ニュース』1951年8月号 (Vol.19, No.3) Industrial Art News, vol.19, No.3	1951	雑誌 magazine		富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
資料 4_4	著：淡島雅吉、丸善 AWASHIMA Masakichi, Maruzen	「ガラス器のうつりかわり」『工芸ニュース』1955年8月号 (Vol.23, No.8) Garasu ki no utsurikawari [Transition of glass vessel] Industrial Art News, vol.23, No.8	1955	雑誌 magazine		富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
資料 4_5	丸善 Maruzen	『工芸ニュース』1957年8月号 (Vol.25, No.7) Industrial Art News, vol.25, No.7	1957	雑誌 magazine		富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
資料 4_6	美術出版社 Bijutsu shuppan-sha	『リビングデザイン』No.7 Living Design, No.7	1955	雑誌 magazine		富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
5. 個人的創造活動に向けて Towards individual creative activities							
5_1	益田芳徳 MASUDA Yoshinori	神様の散歩 God's Walk	1992	ホットワーク hot worked glass	95.0 × 29.0 × 29.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	p.17(上)
5_2	益田芳徳 MASUDA Yoshinori	切っても切っても I No End to slice It I	1990	ホットワーク hot worked glass	90.0 × 39.0 × 27.0	楽翠亭美術館 Rakusui-tei Museum of Art	p.17(上)
5_3	益田芳徳 MASUDA Yoshinori	鼻持 臭気には堪える Hanamochi (Endure an Offensive Smell)	1996	ガラス、宙吹き glass, blowing	43.0 × 27.5 × 32.0	国立工芸館 National Crafts Museum	p.17(上)
5_4	藤田喬平 FUJITA Kyohei	虹彩 Rainbow Colors	1964	ガラス、宙吹き glass, blowing	34.4 × 38.0 × 38.0	国立工芸館 National Crafts Museum	p.17(上)
5_5	藤田喬平 FUJITA Kyohei	飾箱「琳派」 Ornamented Box "Rinpa"	1987	ガラス、銀覆輪、型吹き、酸腐蝕 glass, silver rim, mold-blown, acid etched	17.0 × 24.0 × 24.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
5_6	藤田喬平 FUJITA Kyohei	飾箱「竹取物語」 Ornamented Box "Tale of Taketori"	2000	ガラス、銀覆輪、型吹き、酸腐蝕 glass, silver rim, mold-blown, acid etched	25.0 × 24.0 × 20.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
5_7	藤田喬平 FUJITA Kyohei	飾箱「醍醐」 Ornamented Box "Daigo"	2003	ガラス、銀覆輪、型吹き、酸腐蝕 glass, silver rim, mold-blown, acid etched	19.0 × 30.0 × 26.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	

作品番号 No.	作家名(資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年/出版年 Year of Production Publication	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ(H×W×D)(cm) Dimensions (cm)	所蔵先(展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
5_8	小谷眞三 KOTANI Shinzo	胴丸酒瓶 Round Bottle	1988	吹きガラス blown glass	25.1 × 16.4 × 16.4	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_9	小谷眞三 KOTANI Shinzo	円錐瓶 Cone Shaped Bottle	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	38.2 × 11.5 × 11.5	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_10	小谷眞三 KOTANI Shinzo	偏丸酒瓶 Round Bottle	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	25.5 × 15.0 × 11.7	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_11	小谷眞三 KOTANI Shinzo	酒杯 Goblet	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	16.8 × 8.8 × 8.8	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_12	小谷眞三 KOTANI Shinzo	酒杯 Goblet	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	14.8 × 7.4 × 7.4	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_13	小谷眞三 KOTANI Shinzo	線入り角酒瓶 Square Bottle with Line Decoration	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	26.4 × 8.8 × 8.8	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_14	小谷眞三 KOTANI Shinzo	水差し Jug	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	21.6 × 15.7 × 10.6	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_15	小谷眞三 KOTANI Shinzo	コップ Cups	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	2点 /2 pieces: 8.5 × 6.3 × 6.3, 8.7 × 6.3 × 6.3	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_16	小谷眞三 KOTANI Shinzo	手付角瓶 Square Bottle with Handle	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	23.4 × 9.3 × 8.8	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_17	小谷眞三 KOTANI Shinzo	酒杯 Goblet	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	9.5 × 6.0 × 6.0	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_18	小谷眞三 KOTANI Shinzo	酒杯 Goblet	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	10.9 × 6.4 × 6.4	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_19	小谷眞三 KOTANI Shinzo	銅輪付き瓶 Bottle with Copper Ring	2015	吹きガラス blown glass	19.6 × 8.6 × 8.1	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_20	小谷眞三 KOTANI Shinzo	銅輪付き酒瓶 Bottle with Copper Ring	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	26.8 × 11.8 × 10.9	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_21	小谷眞三 KOTANI Shinzo	胴丸蓋物 Round Lidded Jar	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	19.0 × 9.9 × 9.9	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_22	小谷眞三 KOTANI Shinzo	酒杯 Goblets	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	2点 /2 pieces: 7.5 × 5.1 × 5.1, 8.3 × 5.0 × 5.0	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_23	小谷眞三 KOTANI Shinzo	香水瓶 Perfume Bottle	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	15.7 × 7.9 × 7.9	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_24	小谷眞三 KOTANI Shinzo	胴丸蓋物 Round Lidded Jar	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	9.6 × 6.2 × 5.8	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_25	船木倭帆 FUNAKI Shizuho	リーフ文花瓶 モスグリーン・暗青 Vase with Leaf Design, Moss Green and Dark Blue	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	25.6 × 11.1 × 11.1	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_26	船木倭帆 FUNAKI Shizuho	モール蓋物 モスグリーン Lidded Jar with Vertical Ribbed Design, Moss Green	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	17.0 × 12.7 × 12.7	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_27	船木倭帆 FUNAKI Shizuho	色モール蓋物 緑・浅葱 Lidded Jar with Color Ribbed Design, Green and Asagi (light blue)	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	21.3 × 13.6 × 13.6	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)

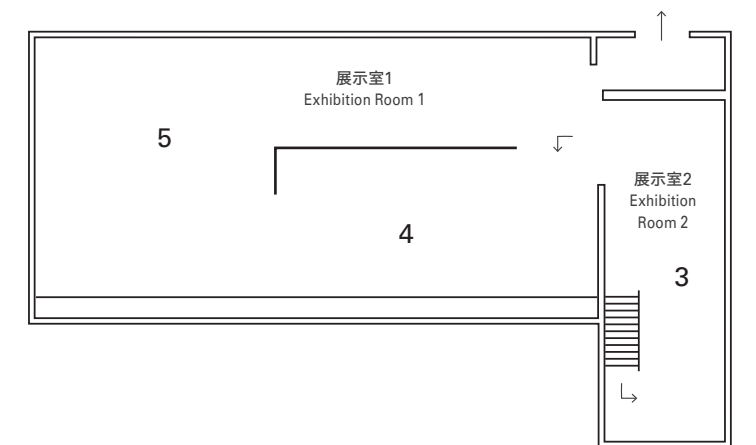
作品番号 No.	作家名(資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年/出版年 Year of Production Publication	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ(H×W×D)(cm) Dimensions (cm)	所蔵先(展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
5_28	船木倭帆 FUNAKI Shizuho	双飾耳カラーモール花瓶 青・浅葱 Vase with Two Decorative Handles, Color Spiral Ribbed Design, Blue and Asagi (light blue)	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	22.8 × 9.0 × 9.0	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_29	船木倭帆 FUNAKI Shizuho	双耳一輪挿 茶 Small Vase with Two Handles, Brown	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	17.6 × 8.5 × 8.5	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_30	船木倭帆 FUNAKI Shizuho	垂描筋文花瓶 青 Vase with Lines of Glass Drooping, Blue	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	25.9 × 9.4 × 9.4	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_31	船木倭帆 FUNAKI Shizuho	三彩花瓶 モスグリーン・緑 Vase with Three-colored Design, Moss Green and Green	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	24.4 × 8.5 × 8.5	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_32	船木倭帆 FUNAKI Shizuho	手付デカンター 緑 Decanter with Handle, Green	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	23.8 × 13.0 × 13.0	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_33	船木倭帆 FUNAKI Shizuho	ワイングラス 青緑 Wine Glass, Blue-green	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	2点 /2 pieces、 各 /each: 9.5 × 6.0 × 6.0	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_34	船木倭帆 FUNAKI Shizuho	モール脚ワイングラス 青紫 Wine Glass with Vertical Ribbed Stem, Blue-purple	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	14.2 × 7.6 × 7.6	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_35	船木倭帆 FUNAKI Shizuho	カラーツイストワイングラス 碇 Wine Glass with Color Twist Stem, Gyoku (opaque white glass)	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	17.3 × 7.2 × 7.2	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_36	船木倭帆 FUNAKI Shizuho	レーマー杯 金茶 Rummer, Golden-blown	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	12.0 × 7.8 × 7.8	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_37	船木倭帆 FUNAKI Shizuho	めだか文鉢 赤 Bowl with Rice Fish Design, Red	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	21.3 × 8.3 × 8.3	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_38	船木倭帆 FUNAKI Shizuho	モザイク文鉢 青・黄 Bowl with Mosaic Design, Blue and Yellow	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	29.5 × 8.8 × 8.8	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
資料 5_1	文化出版局 Bunka publishing bureau	『季刊銀花』第七号 Quarterly magazine, Ginka, No.7	1971	雑誌 magazine		個人蔵 private collection	
資料 5_2	『倉敷ガラス』刊行委員会 Committee for publication of Kurashiki Glass	『倉敷ガラス』 Kurashiki Glass	1981	書籍 book		富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	

会場図 Exhibition map

3F



2F



宮永愛子 ^{うた} 詩を包む

宮永愛子 ^{うた} 詩を包む

宮永愛子 ^{うた} 詩を包む

展覧会

会 期：2023年11月3日（金・祝）～ 2024年1月28日（日）
会 場：展示室1-3
主 催：富山市ガラス美術館
特別協力：ミヅマアートギャラリー
後 援：北日本新聞社、富山新聞社、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ
担 当：浅田真帆

宮永愛子 ^{うた} 詩を包む

輸送展示：ヤマト運輸株式会社
会場施工：株式会社宝来社
グラフィックデザイン：高嶋鮎美（株式会社MITAI）
観 覧 料：一般1,200円（1,000円）、大学生1,000円（800円）
前売券1,000円（一般のみ）
※（ ）は団体料金
※高校生以下無料

宮永愛子 ^{うた} 詩を包む

カタログ

『宮永愛子 詩を包む』
26.6×20.5cm 154頁 2,200円
発 行：富山市ガラス美術館
発 行 日：2024年1月24日

宮永愛子 ^{うた} 詩を包む

関連プログラム

ワークショップ「万華鏡制作」

日 時：2023年12月16日（土）14：00～15：30
会 場：レクチャールーム
講 師：富山ガラス工房 第2工房スタッフ

宮永愛子 ^{うた} 詩を包む

トークイベント

日 時：2024年1月20日(土)14:00～
会 場：2階ロビー
出 演 者：宮永愛子（出品作家）、坂森幹浩（富山市郷土博物館館長）

宮永愛子 ^{うた} 詩を包む

学芸員によるギャラリートーク

日 時：2023年11月26日（日）、12月3日（日）、2024年1月27日（土）
（各回14：00～）
※2024年1月7日（日）は臨時休館のため中止
会 場：展示室1-3

MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse

MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse

MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse

Exhibition

Period: November 3, 2023 – January 28, 2024
Venue: Exhibition Rooms 1-3,
Organized by Toyama Glass Art Museum
Special Cooperation by Mizuma Art Gallery
Supported by THE KITANIPPON SHIMBUN,
THE TOYAMA SHIMBUN,
Kitanihon Broadcasting Co., Ltd.,
TOYAMA TELEVISION BROADCASTING CO., LTD.,
TULIP-TV INC.

Curator: ASADA Maho

Transportation and Installation: YAMATO TRANSPORT CO., LTD.
Construction: HORAI SYA CO., LTD.
Graphic Design: TAKASHIMA Ayumi (MITAI Co., Ltd.)
Admission: General Public ¥1,200 (¥1,000),
University and College Students ¥1,000 (¥800)
Advance tickets: General Public ¥1,000
Groups of 20 or more: price in brackets
High school students and younger: free

MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse

Catalog

MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse
26.6×20.5cm 154p ¥2,200
Published by: Toyama Glass Art Museum
Date of publication: January 24, 2024

MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse

MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse

Related Programs

Workshop: Kaleidoscope

Date & time: December 16, 2023 14:00-15:30
Venue: 6F Lecture Room
Lecturer: Toyama Glass Studio（The 2nd Glass Studio）Staff

MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse

Talk Event

Date & time: January 20, 2024 14:00-
Venue: 2F Lobby
Lecturers: MIYANAGA Aiko (Artist), SAKAMORI Mikihiro (Director,
Toyama Muncipal Folk Museum)

MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse

Curator’s Talk

Date & time: November 26, December 3, 2023, January 27, 2024 14:00-
*Canceled on January 7, 2024 due to temporary closing
Venue: Exhibition Rooms 1-3

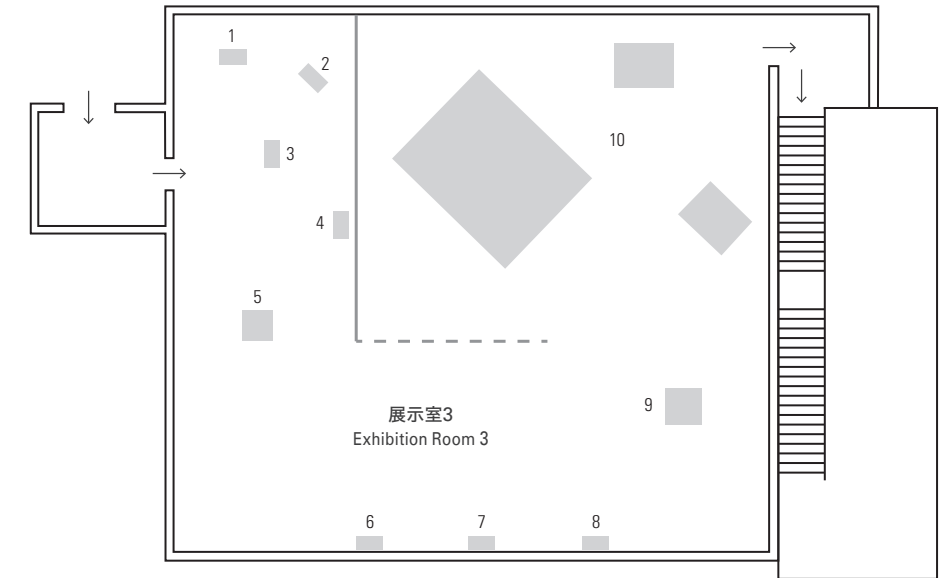
作品リスト List of Works

作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材・技法 Material & Technique	所蔵先 Collection
宮永愛子 MIYANAGA Aiko				
01	くぼみに眠るそら ー大黒様ー valley of sleeping sky -daikoku-	2023	ナフタリン、ミクストメディア（東山窯の石膏型を使用） Naphthalene, mixed media (cast from Tozan Kiln’s plaster mold)	作家蔵 Collection of the artist
02	くぼみに眠るそら ー寝虎ー valley of sleeping sky -prone tiger-	2023	ナフタリン、ミクストメディア（東山窯の石膏型を使用） Naphthalene, mixed media (cast from Tozan Kiln’s plaster mold)	作家蔵 Collection of the artist
03	夜に降る景色 ー時計ー night voyage -clock-	2023	ナフタリン、ミクストメディア Naphthalene, mixed media	作家蔵 Collection of the artist
04	くぼみに眠るそら ー猫と鮎ー valley of sleeping sky -cat and ayu (sweetfish)-	2023	ナフタリン、ミクストメディア（東山窯の石膏型を使用） Naphthalene, mixed media (cast from Tozan Kiln’s plaster mold)	作家蔵 Collection of the artist
05	詩を包む ーはじまりのトランクー Wrapping a Verse -suitcase of beginning-	2023	ガラス、空気、ナフタリン、ミクストメディア Glass, air, naphthalene, mixed media	作家蔵 Collection of the artist
06	waiting for awakening -wall clock-	2018	ナフタリン、樹脂、ミクストメディア Naphthalene, resin, mixed media	個人蔵 Private collection
07	waiting for awakening -wall clock-	2019	ナフタリン、樹脂、ミクストメディア Naphthalene, resin, mixed media	作家蔵 Collection of the artist
08	waiting for awakening -wall clock-	2019	ナフタリン、樹脂、ミクストメディア Naphthalene, resin, mixed media	作家蔵 Collection of the artist
09	waiting for awakening -chair-	2017	ナフタリン、樹脂、ミクストメディア Naphthalene, resin, mixed media	作家蔵 Collection of the artist
10	手紙 Letter	2013-19	ナフタリン、樹脂、封蝋、FRP、ミクストメディア Naphthalene, resin, sealing wax, FRP, mixed media	作家蔵 Collection of the artist
11	詩を包む ートランクー wrapping a verse -suitcase-	2023	ガラス、空気 Glass, air	作家蔵 Collection of the artist
12	そらみみみそら soramimimisora (hearing things)	2023	サウンドインスタレーション（陶、釉、ミクストメディア） Sound installation (ceramic, glaze, mixed media)	作家蔵 Collection of the artist
13	留め石 〈tome-ishi〉 boundary	2015	ガラス、呼気、縄 Glass, exhalation, rope	作家蔵 Collection of the artist
14	はじまりの景色（ささやかな境界 / ヒスイ海岸） landscapes of beginning (a small boundary / The Hisui (jade) Coast)	2023	フレスコ紙、鉛筆、写真 Fresco paper, pencil, photo print	作家蔵 Collection of the artist
15	はじまりの景色（水のたたえるところ / 稲穂） landscapes of beginning (where water wells / ears of rice)	2023	フレスコ紙、鉛筆、写真 Fresco paper, pencil, photo print	作家蔵 Collection of the artist
16	はじまりの景色（船を待ち望む場所 / 方位磁石） landscapes of beginning (a place of longing for ships / compass)	2023	フレスコ紙、鉛筆、写真 Fresco paper, pencil, photo print	作家蔵 Collection of the artist
17	はじまりの景色（ときの眠る森 / 埋没林） landscapes of beginning (the sleeping woods of time / submerged forest)	2023	フレスコ紙、鉛筆、写真 Fresco paper, pencil, photo print	作家蔵 Collection of the artist
18	詩を包む ー伏木港 / 葉脈ー wrapping a verse -Fushiki-Toyama Port / leaf veins-	2023	紙、ガラス、空気、金木犀の葉 Paper, glass, air, fragrant olives leaf	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む ー明治 33 年の空気 / フランスの切手ー wrapping a verse -air in 1900 / French stamps-	2023	めがねレンズ、フランスの切手 Eyeglass, French stamps	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む ー富山の夏 / アスファルト片ー wrapping a verse -summer in Toyama / piece of asphalt-	2023	ガラス、空気、アスファルト片、石 Glass, air, piece asphalt, stone	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む ー海（ヒスイ海岸） / 貝ー wrapping a verse -The Hisui (jade) Coast / shell-	2023	ガラス、空気、石、貝殻 Glass, air, stone, shell	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む ー山の秋（杉沢） / 榎栗ー wrapping a verse -moutain in autumn (Sugisawa) / chestnuts in burrs-	2023	ガラス、空気、榎栗 Glass, air, stone, chestnuts in burrs	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む ー沢の水（杉沢） / 石、杉ー wrapping a verse -water from a stream (Sugisawa) / stone, japanese cedar-	2023	ガラス、空気、杉 Glass, air, stone, japanese cedar	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む ー海（ヒスイ海岸） / 石ー wrapping a verse -sea (The Hisui (jade) Coast) / stone-	2023	ガラス、空気、石 Glass, air, stone	作家蔵 Collection of the artist

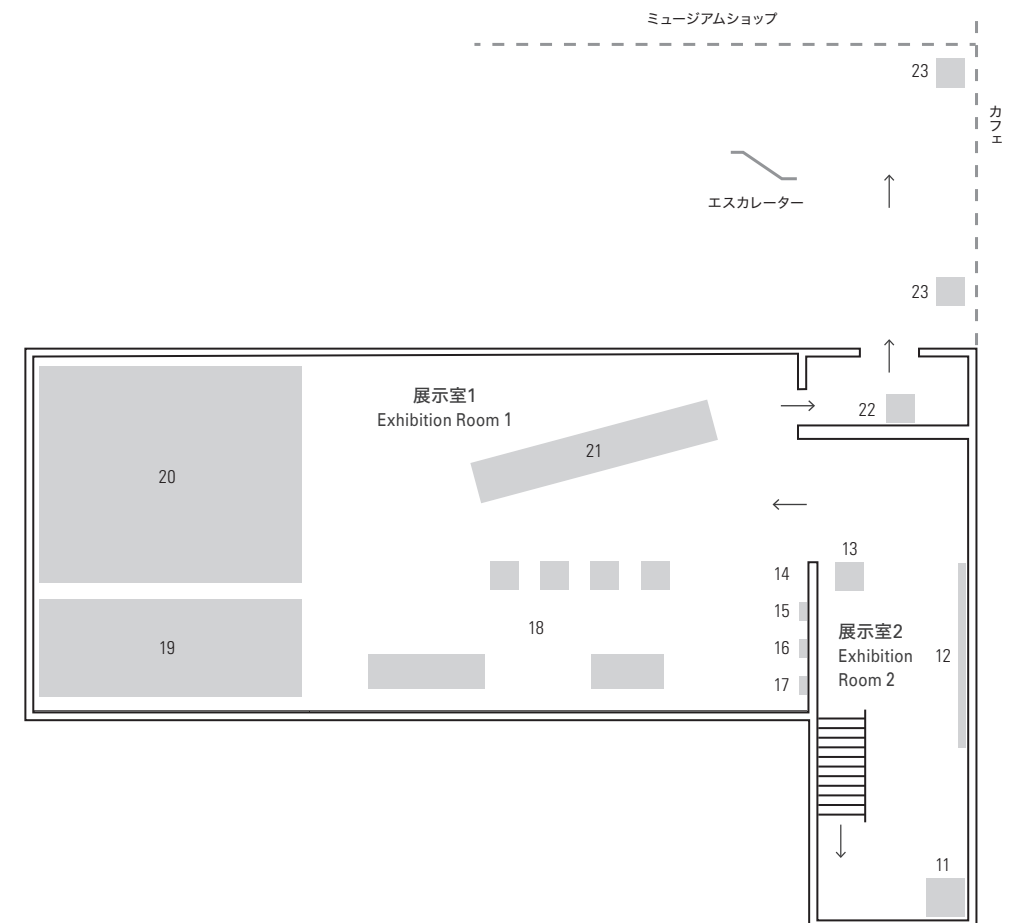
作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材・技法 Material & Technique	所蔵先 Collection
	詩を包む -港の風 (伏木港) / 葉脈- wrapping a verse -bleezes from the harbor (Fushiki-Toyama Port) / leaf veins-	2023	ガラス、空気、金木犀の葉 Glass, air, stone, fragrant olive's leaf	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む -Lens 試作 (石を封入して焼成) - wrapping a verse -Lens test piece (enclose the stone)-	2017	ガラス、空気、水晶 Glass, air, crystal	作家蔵 Collection of the artist
19	ひかりのことづけ Messages from the Light	2021	ガラス、空気 Glass, air	作家蔵 Collection of the artist
20	くほみに眠る海 Valley of Sleeping Sea	2023	ガラス、空気 恵比寿様、お内裏様、お雛様、大黒様、亀、熊、仔犬、猫、寝虎、鳩、水鳥 (東山窯の石膏型を使用) そらみみみそら サウンドインスタレーション 壺 宮永甲太郎作 石膏型、台座、リンゴ箱 Glass, air Ebisu, emperor, empress, daikoku, turtle, bear, puppy, cat, prone tiger, pigeon, waterfowl (cast from Tozan Kiln's plaster mold) soramimimisora (hearing things) Sound installation Jar (Miyanaga Koutarou) Plaster mold, pedestal, apple's box	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む -祖母の時間 / 和製鍵- wrapping a verse -grandmother's time / japanese-style key-	2023	ガラス、空気、船筆筒、鍵 Glass, air, ship safe chest, key	作家蔵 Collection of the artist
21	Strata	2018-19	ガラス、製本の道具、大潮暦、ミクストメディア Glass, bookbinding tools, spring tide almanac, mixed media	作家蔵 Collection of the artist
22	詩を包む -去年の雪 / 石- wrapping a verse -last snow / stone-	2023	ガラス、空気、去年の雪 Glass, air, last snow	作家蔵 Collection of the artist
23	詩を包む wrapping a verse	2023	手紙 Letter	作家蔵 Collection of the artist

会場図 Exhibition map

3F



2F



作品リスト List of Works

作家名 Artist name	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ (H x W x D) (cm) Dimensions (cm)
共に創る Creating Together				
共同工房 KYOUDOU KOUBOU	浮かぶ水の中の渦 Whirlpool in floating water droplets	2024	「リメルト・ブルー」ガラス/宙吹き "Remelt Blue" Glass / Browing	可変 dimensions variable
5年後も作り続けているガラス Glass still being made five years on				
和田修次郎 WADA Shujiro	○△□			
菊地大護 KIKUCHI Daigo	skittle hip flask			
宮本崇輝 MIYAMOTO Takaki	Sprout			
	水平線の記憶 冷酒グラス Memory of horizon Sake Glass			
	Feel the nature Wine glass			
まぶちちか MABUCHI Chika	ざーざー降りの日 rainy day			
竹内駿 TAKEUCHI Shun	plants pod			
	tumbler			
	Cliff			
中尾雅一 NAKAO Masaichi	moire			
佐藤望美 SATO Nozomi	Knit- kaleidoscope-			
野田雄一 NODA Yuichi	酒器 Sake set			
竹岡健輔 TAKEOKA Kensuke	おりなす '24-1 orinasu '24-1			
	Woven vessel #57			
	Woven vessel #58			
粟田和 AWATA Nodoka	人魚姫 Mermaid			
若色正太 WAKAIRO Shota	光と色の表出 Representation of light and color			
松谷夏鈴 MATSUTANI Karin	植生 sample. I the vegetation sample. I			
林あいみ HAYASHI Aimi	ゆるみ Yurumi			
野間恵花 NOMA Ayaka	玲瓏 Linglong			
勝木竜二 KATSUKI Ryuji	動物の王国 ANIMAL KINGDOM			
田中沙弥佳 TANAKA Sayaka	硝世界 Glass world			
片桐ひまわり KATAGIRI Himawari	黒くて black and			

作家名 Artist name	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ (H x W x D) (cm) Dimensions (cm)
古野伶奈 FURUNO Reina	残りつづけるもの Something that remains			
	花器 いし Vase Stone			
	道しるべ Guide			
渡邊あゆ WATANABE Ayu	水面 Water surface			
名田谷隆平 NADATANI Ryuhei	過去から現在 From the Past to the Present			
豊岡智美 TOYOOKA Tomomi	ひと花 A flower			
古賀佳織 KOGA Kaori	doily -sparkle-			

コレクション展

ガラスをめぐる自然

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

富山は北側に日本海・富山湾を臨み、南側には立山連峰と北アルプス一帯を占める中部山岳国立公園を擁するなど、雄大な自然と美しい景観に恵まれていることから、私たちは普段からその恩恵を受けている。異なる文化や背景をもつガラス作家達もまた、身の回りにある動植物の造形や、光や熱、風といった多様なエネルギーが生み出す光景、豊かな恵みをもたらす海や田畑など、各々にとって身近な自然の存在に着想を得て作品を制作している。その捉え方や制作のアプローチはそれぞれ異なるものの、作品には、連続と続く大地の営みに目を向け、自然の姿に寄り添う作家達の意識を垣間見ることができる。今回は、新たな収蔵品3点を含む所蔵作品の中から、自然と人との関わりに関心をもつ作家達の作品を3つのテーマで紹介した。

1章では「自然のエネルギー」とし、自然が生み出す光景や、生命力に満ちた動植物の造形に潜む力強いエネルギーを見だし視覚化した作品を紹介した。日の光や水の要素を抽出したラダ・セメツカの《アクアプレート》と《サンプレート》、回転する風車が風の行方を思わせるアレナ・マチェイカの《風車》など、自然の事物から生まれる現象やそのエネルギーは、私たちの身近に存在している。成長する竹林の光景を捉えた塚田美登里《光林 #2》や、波の動きや生物を抱く海そのものを想起させる《青い珊瑚さんご》など、自然界で働く様々なエネルギーにまつわる作品を扱った。

2章では「自然と生きる」と題し、自然の恵みと脅威へ畏敬の念を抱きながら、人の営みとの関わりに着目した作品を紹介した。天候不順や災害と隣り合わせる日々の中で感じたことを造形化した扇田克也の《海に降る雨》や、水盤で手を洗い清める儀礼に着想を得て水との結びつきを表したハワード・ベン・トレの《大水盤》、農業を通じて移り変わる自然の風景や、人の要求に応える自然と人との共生関係を表したカースティ・レイ《刃》、《雨を待つ》など、生活や文化圏によって異なる自然の捉え方を通じて、様々な形で自然との結びつきを表す作品に注目した。

3章では「自然を歩く」と題し、日常から踏み出した作家が異なる場所をさすらうなかで、自然との対話に着想を得た作品を紹介した。カースティ・レイの《とどまるもの》やラダ・セメツカの《Landscape XX》には、作家達が身の回りの場所を通して得た感覚や体感が、抽象的な色や造形で表されている。哲学的なメッセージ性をもつ作品には、自然のサイクルを受け止めるとき、日々を過ごす中で忘れていた感情や体験を思い起こし、新鮮な気持ちで景色を捉えた作家の視点が込められている。

本展では、気候変動や環境破壊など自然と人との関係がより一層問い直されている今日、私たちはどのような形で自然と繋つながりを持ち、共生することができるだろうか、という問いから所蔵品を捉えた。折しも会期中の5月には令和5年奥能登地震が起こり、改めて周囲の自然環境を意識することとなった。本展を通して、自然を捉える多様な視点に出会うことで、身近にある環境について思いを巡らせ、自分自身の自然との関わり方について見つめ直す機会となれば幸いである。

（高橋由佳）

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

ガラスの展覧会

Collection Exhibition

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスの展覧会

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

ガラスをめぐるとともに

コレクション展

ガラスをめぐる自然

会 期：2023年6月10日(土)～12月3日(日)
 会 場：展示室4、透ける収蔵庫
 主 催：富山市ガラス美術館
 料 金：一般 / 大学生 200円(170円)、高校生以下無料
 ()は団体料金

関連プログラム

学芸員によるギャラリートーク

日 時：2023年6月24日(土)、7月15日(土)、29日(土)、
 8月11日(金・祝)、26日(土)、9月9日(土)、30日(土)、
 10月21日(土)、11月3日(金・祝)、25日(土)
 (各回14:00～)
 会 場：展示室4、透ける収蔵庫

かさねのガラス

会 期：2023年12月9日(土)～2024年6月2日(日)
 会 場：展示室4、透ける収蔵庫
 主 催：富山市ガラス美術館
 料 金：一般 / 大学生 200円(170円)、高校生以下無料
 ()は団体料金

関連プログラム

学芸員によるギャラリートーク

日 時：2023年12月24日(日)、2024年1月21日(日)、
 2月10日(土)、25日(日)、3月2日(土)、17日(日)、
 4月7日(日)、21日(日)、5月5日(日)、19日(日)、6
 月1日(土)(各回14:00～)
 ※2024年1月6日(土)は臨時休館のため中止
 会 場：展示室4、透ける収蔵庫



ガラスをめぐる自然 展示風景
 Nature in Glass installation view

Collection Exhibition

Nature in Glass

Period: June 10 - December 3, 2023
 Venue: Exhibition Room 4, Transparent Storage
 Organized by Toyama Glass Art Museum
 Admission: ¥200 (¥170)
 High school students and younger: free
 Groups of 20 or more: price in brackets

Related Programs

Curator's Talk

Date & time: June 24, July 15, 29, August 11, 26, September 9, 30,
 October 21, November 3, 25, 2023 14:00-
 Venue: Exhibition Room 4, Transparent Storage

Glass: Layered Depth

Period: December 9, 2023 - June 2, 2024
 Venue: Exhibition Room 4, Transparent Storage
 Organized by Toyama Glass Art Museum
 Admission: ¥200 (¥170)
 High school students and younger: free
 Groups of 20 or more: price in brackets

Related Programs

Curator's Talk

Date & time: December 24, 2023, January 21, February 10, 25, March
 2, 17, April 7, 21, May 5, 19, June 1, 2024 14:00-
 *Canceled on January 6, 2024 due to temporary closing
 Venue: Exhibition Room 4, Transparent Storage



かさねのガラス 展示風景
 Glass: Layered Depth installation view

作品リスト List of Works

作家名 Artist name	作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ(H×W×D)(cm) Dimensions (cm)	ページ Page No.
ガラスをめぐる自然 Nature in Glass						
1 自然のエネルギー /The Energy of Nature						
塚田 美登里 TSUKADA Midori	01	光林 #2 Beams of light through the forest trees #2	2013	フュージング、サギング、コールドワーク fused, sagging, coldwork	58.0 × 49.0 × 35.0	p.27(上)
エマ・ヴァルガ Emma VARGA	02	Awaiting Spring #3 - Pink Buds	2013	フュージング、キャスト、研磨 fused, cast, polished	56.1 × 22.22 × 5.08	p.27(上)
アレシュ・ヴァシーチェク Aleš VAŠIČEK	03	Nukleus	1997	キルンキャスト kiln casted	Diam85.5 × D18.5	p.27(上)
ラダ・セメツカ Lada SEMECKÁ	04	サンプレート Sun Plate	2009	キルンキャスト、スランピング、カット、研磨 kiln casted, slumped, cut, polished	8.0 × 42.0 × 42.0	p.26(下)
	05	アクアプレート Aqua Plate	2009	キルンキャスト、スランピング、カット、研磨 kiln casted, slumped, cut, polished	8.0 × 51.0 × 35.0	p.26(下)
ベンジャミン・イードルス&キャ シー・エリオット Benjamin EDOLS & Kathy ELLIOTT	06	グルーヴ Groove	1998	宙吹き、カット blown, cut	H73.0	p.26(下) p.70(左)
	07	青い珊瑚 Blue Coral	1997	宙吹き、カット blown, cut	26.0 × 26.0 × 24.0	p.26(下) p.70(左)
アレナ・マチェイカ Alena MATĚJKA	08	風車 Windmills	2006	アラバスター alabaster	58.0 × 46.0 × 11.0	p.26(下)
	09	風車 Windmills	2012	鋳造ガラス、研磨 mold-melted glass, polished	58.0 × 46.0 × 11.0	p.26(下)
茂木 里恵 MOTEGI Satoe	10	雨滴 II Rain drop II	2002	スランピング、接着 slumped, stuck	20.0 × 40.0 × 40.0	p.26(下)
2 自然と生きる /Living With Nature						
ハワード・ベン・トレ Howard BENTRÉ	11	大水盤 Large Basin	1999	鋳造ガラス、赤酸化鉄、サペリ材 cast glass, red iron oxide, sapele wood	84.77 × 156.21 × 33.02	p.26(上)
カースティ・レイ Kirstie REA	12	刃 Blade	2004	キルンワーク、カット kiln formed and wheel cut glass	112.0 × 21.0 × 9.0	p.26(上)
	13	雨を待つ Waiting for rain	2017	キルンワーク、レーキ kiln formed glass, rake	155.0 × 44.0 × 22.0	p.26(上)
扇田 克也 OHGITA Katsuya	14	海に降る雨 Rain Falling on the Sea	2011	色ガラスパウダー、コールド・キャスト colored glass powder, cold cast	23.5 × 37.0 × 16.3	p.26(上)
リノ・タリアピエトラ Lino TAGLIAPIETRA	15	アフリカ Africa	2014	吹きガラス、ケーン、ムッリーネ double-blown glass with canes and murrine	67.0 × 43.0 × 43.0	p.26(上)
3 自然を歩く /Walking Through Nature						
ヤン・フィシャル Jan FIŠAR	16	砂漠の発見 Desert Find	1999	キルンワーク kiln work	23.0 × 44.0 × 11.0	p.27(下)
ラダ・セメツカ Lada SEMECKÁ	17	Landscape XX	2006	スランピング、カット、エングレーヴィング、研磨 slumped, cut, engraved, polished	3.5 × 44.0 × 31.0 (各/each)	p.27(中)
	18	Landscape XXI	2006	スランピング、カット、エングレーヴィング、研磨 slumped, cut, engraved, polished	3.5 × 44.0 × 31.0 (各/each)	p.27(中)
カースティ・レイ Kirstie REA	19	とどまるもの What remains	2019	ガラス/キルンワーク、MDF製台座/ペイント kiln formed glass, painted MDF base	17.0 × 128.0 × 25.0	p.27(中)

作家名 Artist name	作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	ページ Page No.
--------------------	-------------	--------------	---------------------------	-----------------------------	---	-----------------

かさねのガラス Glass: Layered Depth

1 深みをなす Achieving Depth

渡辺 知恵美 WATANABE Chiemi	01	清流の燈 A light of the clear stream	2018	高透過板ガラス、アクリル絵の具、エングレーヴィング、象嵌、接着、研磨 high transmission glass, acrylic, engraving, inlaid, glued, cold-worked	10.0 × 100.0 × 25.0	p.28(上)
ヤロスラフ・シャーラ Jaroslav ŠÁRA	02	緑のライオン LEO VIRIDIS	2021	ガラス、木、エングレーヴィング glass, wood, engraving	90.0 × 90.0 × 10.0	p.28(上)
ボフミール・エリアッシュ Bohumil ELIÁŠ	03	マイクロワールド II Microworld II	2003	積層ガラス、エナメル彩色 laminated, enamel painted	24.5 × 24.5 × 13.0	p.28(上)
パヴェル・ムルクス Pavel MRKUS	04	IN BETWEEN II	2003	スランピング、サンドブラスト slumped, sandblasted	10.0 × 80.0 × 80.0	p.28(上)

2 いろを織りなす Weaving Colors

ハーヴェイ・K・リトルトン Harvey K. LITTLETON	05	内包された運動 Implied Movements	1988	被せガラス、カット cased, cut	各 H101.6 (6点組) each: H101.6 (set of 6)	p.28(下)
木越 あい KIGOSHI Ai	06	希望 Hope	2002	宙吹き、研磨、サンドブラスト blown, polished, sandblasted	23.0 × 22.0 × 25.0	p.70(右)
中村 敏康 NAKAMURA Toshiyasu	07	樹(春) Tree(spring)	2015	カット、吹きガラス cut, blown	H27.0 × φ 25.0	p.70(右)
ハーヴェイ・K・リトルトン Harvey K. LITTLETON	08	黄色の冠 II Yellow Crown II	1984	被せガラス、カット cased, cut	54.61 × 58.42 × 55.88	p.28(下) p.70(右)
小林 貢 KOBAYASHI Mitsugi	09	熔 Melt	1998	吹きガラス、被せガラス、カット blown, cased, cut	33.5 × 54.0 × 21.0	p.28(下)
トマーシュ・フラヴィチカ Tomáš HLAVIČKA	10	スペシャリスト SPECIALIST	2004	金箔、銀箔、カット、研磨、接着 gold leaf, silver leaf, cut, polished, glued	17.0 × 84.0 × 20.0	p.28(下)
塚田美登里 TSUKADA Midori	11	硝鱗 Lace of Scales	2012	キルンワーク、コールドワーク kiln-worked, cold-worked	36.5 × 46.5 × 46.5	p.28(下)

3 量感を生み出す Generating a Sense of Presence

家住 利男 IEZUMI Toshio	12	F011203	2003	板ガラス、接着、研磨 sheet glass, glued, carved, polished	25.0 × 31.0 × 31.0	p.29(上)
ヴァーツラフ・ツィグレレル Václav CIGLER	13	PYRAMID	1990	カット、研磨 cut, polished	29.0 × 24.0 × 24.0	p.29(上)
家住 利男 IEZUMI Toshio	14	P041199	1999	熱線反射板ガラス、接着、研磨 heat reflecting glass, glued, carved, polished	120.0 × 25.0 × 7.0	p.29(下)
小島有香子 KOJIMA Yukako	15	Layers of Light -MOON- #5	2008	積層、研磨 laminated, cold-worked	11.5 × 50.0 × 50.0	p.29(下)
	16	Layers of Light -Night-	2011	積層、研磨 laminated, cold-worked	13.0 × 74.5 × 21.5	p.29(下)

新規収蔵作品

New Acquisitions

新規収蔵作品(2023年度) New Acquisitions 2023

作家名 Artist name	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材・技法 Material & Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	
石井康治 ISHII Koji	風	1988	ガラス glass	34.5 × 35.0 × 19.5	寄贈
	流文モザイク盤	1988	ガラス glass	17.0 × 57.0	寄贈
	彩霞	1990	ガラス glass	41.0 × 34.0 × 12.5	寄贈
	彩烈紋器	1991	ガラス glass	42.0 × 28.0 × 28.0	寄贈
	環象文器	1993	ガラス glass	36.5 × 31.5 × 31.5	寄贈
	炎晶	1984	ガラス glass	60.0 × 20.0	寄贈
	赫い花	1990	ガラス glass	72.0 × 20.0 × 17.0	寄贈
	金彩流文大皿	1992	ガラス glass	9.5 × 63.0 × 63.0	寄贈
	彩花文器	1996	ガラス glass	44.0 × 24.0	寄贈
	テーブルランプ	1996	ガラス glass	53.7 × 33.4 × 20.7	寄贈
伊藤字 ITO Makoto	宙吹硝子 巻紙	1985	吹きガラス blown glass	34.5 × 13.3 × 11.2	寄贈
佐々文夫 SASSA Fumio	オーナメント「APOSTROPHE」 Ornament "APOSTROPHE"	1955	クリスタルガラス crystal glass	4点/4 pieces、 15.8 × 11.0 × 11.0、16.3 × 11.0 × 11.0、16.0 × 12.0 × 12.0、16.7 × 12.0 × 12.0	寄贈
	オブジェ Object	1957	クリスタルガラス crystal glass	19.0 × 12.3 × 12.3	寄贈
	オブジェ「DUET FANTASY」 Object "DUET FANTASY"	1980	クリスタルガラス、宙吹き、カット crystal glass, blown, cut	22.0 × 22.5 × 22.5	寄贈
佐々文夫/保谷クリスタル硝子製造所 SASSA Fumio, Hoya Glass Works Ltd.	クリスタルサラダボール Crystal Salad Bowl	1956	クリスタルガラス crystal glass	6.1 × 14.9 × 14.9	寄贈
	クリスタルサラダボール Crystal Salad Bowl	1957	クリスタルガラス crystal glass	大 /large: 7.5 × 25.7 × 25.7、 小 /small: 4.5 × 12.7 × 12.7	寄贈
菅澤利雄、株式会社保谷硝子 SUGASAWA Toshio, HOYA Corporation	JAL タンブラー JAL tumbler	デザイン (design) : 1980 年代 (1980s)	クリスタルガラス crystal glass	8.9 × 6.0 × 6.0	寄贈
	JAL グラスライン -1 JAL GLASS line-1	デザイン (design) : 1983	クリスタルガラス crystal glass	3点 /3 pieces、 10.9 × 6.8 × 6.8、10.8 × 5.9 × 5.9、7.9 × 6.9 × 6.9	寄贈
菅澤利雄、HOYA 株式会社 SUGASAWA Toshio, HOYA Corporation	デスク時計 Desk Clock	デザイン (design) : 1991	クリスタルガラス crystal glass	13.0 × 14.0 × 14.0	寄贈
	ステムウェア・ライン「エンタシス」 Stemware Line "Entasis"	デザイン (design) : 1985-1986、 1996 (Martini)	クリスタルガラス crystal glass	4点 /4 pieces、18.3 × 8.5 × 8.5、 19.5 × 9.5 × 9.5、23.5 × 5.0 × 5.0、15.8 × 11.5 × 11.5	寄贈
高橋禎彦、田嶋悦子 TAKAHASHI Yoshihiko, TASHIMA Etsuko	Y & E / 1998 G A S	1998	ガラス、陶 glass, ceramic	可変 dimensions variable	寄贈
明道長次郎 MYODO Chojiro	草花文グラヴェール硝子鉢 Glass Bowl with Engraved Design of Grass and Flowers	1940	グラヴェール engraved glass	24.7 × 14.5 × 14.5	寄贈
	明道長次郎関係資料	1930年代頃	紙、スケッチブック paper, sketchbook		寄贈

作家名 Artist name	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材・技法 Material & Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	
	Ken コレクション (36件) * Ken collection (36 works)	1930-1940年代頃	*Ken コレクション：購入分10件と合わせて全46件からなる個人コレクション。寄贈分には岩田藤七、各務鑑三、小柴外一、佐藤潤四郎、青野武市、高木茂、吉田丈夫、江頭源一、宮代健三の作品と各務クリスタル製作所、岩城硝子株式会社の量産品を含む。		寄贈
淡島雅吉 (小畑雅吉) AWASHIMA Masakichi (OBATA Masakichi)	鳥竹文様鉢 Bowl with Birds and Bamboo Design	1936-1942年頃 (c.1936-1942)	グラヴィール engraved glass	14.0 × 21.5 × 21.5	購入 (Ken コレクション)
岩田藤七 IWATA Toshichi	吹込みルビー色硝子銀花生 Silver Vase with Ruby Blown Glass	1928	吹きガラス、銀 blown glass, silver	28.0 × 15.5 × 14.0	購入 (Ken コレクション)
小川雄平 OGAWA Yuhei	雛 置物 Figurine, "Young Birds"	不詳 unknown	ガラス、キャスト glass, cast	8.5 × 11.0 × 8.0	購入 (Ken コレクション)
各務クリスタル製作所 Kagami Crystal Works	タンブラー (T-37 スモーク)	不詳 unknown	吹きガラス blown glass	6点組 /6 sets、 各 /each 10.8 × 6.4 × 6.4	購入 (Ken コレクション)
	カップ&ソーサー (ブルー)	不詳 unknown	吹きガラス blown glass	6点組 /6 sets、カップ /cup 約 7.0 × 7.0 × 9.0、ソーサー /saucer 約 1.9 × 13.0 × 13.0	購入 (Ken コレクション)
	カップ&ソーサー	不詳 unknown	吹きガラス blown glass	6点組 /6 sets、カップ /cup 約 6.0 × 7.5 × 7.5、ソーサー /saucer 約 2.0 × 13.0 × 13.0	購入 (Ken コレクション)
各務鑑三 KAGAMI Koza	宝相華硝子花瓶 Vase with Hosoge Design	不詳 unknown	グラヴィール engraved glass	35.2 × 19.8 × 19.8	購入 (Ken コレクション)
	人物模様硝子花瓶 Vase with Figure Design	不詳 unknown	グラヴィール engraved glass	30.0 × 20.0 × 10.0	購入 (Ken コレクション)
小柴外一 KOSHIBA Sotoichi	あざみ花盛 Vase with Thistle Design	1937頃 (c.1937)	パート・ド・ヴェール pâte de verre	18.0 × 14.2 × 14.2	購入 (Ken コレクション)
降旗正男 FURIHATA Masao	梅花文花盛 Flower Basin with Plum Blossom Design	1940頃 (c.1940)	ガラス glass	13.3 × 36.0 × 14.0	購入 (Ken コレクション)
ケイト・ベーカー Kate BAKER	Within Matter #7	2020	デジタル印刷されたガラスパネル、軟鋼 Digitally printed glass panel mounted on mild steel	110.0 × 120.0 × 85.0	購入
マリア・ルゴッシー Mária LUGOSSY	Primary Rocks V	1990	ガラス glass	60.0 × 37.0 × 18.0	購入
	Cell Formation	1991	ガラス glass	30.0 × 64.0 × 36.0	購入
高橋禎彦 TAKAHASHI Yoshihiko	謎 Enigma	2023	吹きガラス blown glass	21.0 × 30.0 × 30.0	購入
	そだつこと Growing	2023	吹きガラス blown glass	34.0 × (口径) 17.0 × 30.0	購入
	しるし Signs	2023	吹きガラス blown glass	38.0 × (口径) 15.0 × 20.0	購入
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	48.5 × 15.0 × 23.0	購入
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	50.0 × 15.0	購入
	越碧花入れ Koshino Ao Glass Vase	2023	吹きガラス blown glass	48.0 × (base) 16.0 × 24.0	購入
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	40.0 × (base) 16.0 × 20.0	購入
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	48.5 × (base) 19.0 × 22.0	購入
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	44.0 × (base) 14.0 × 14.0	購入
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	51.5 × (base) 18.0	購入

作家名 Artist name	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材・技法 Material & Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	55.0 × (base) 15.0 × 15.0	購入
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	57.5 × (base) 17.5 × 26.0	購入
安田泰三 YASUDA Taizo	越碧レティチェッロ文大鉢 Koshino Hisui Glass Bowl with Reticello Design	2023	吹き、レース blown, lace glass	径 /Diam.: 35.0	購入
	越碧レティチェッロ文大鉢 Koshino Ao Glass Bowl with Reticello Design	2023	吹き、レース blown, lace glass	径 /Diam.: 38.0	購入

新規収蔵作品画像 (抜粋)



1 ケイト・ベーカー 《Within Matter #7》



2 岩田藤七 《吹込みルビー色硝子銀花生》



3 伊藤亨 《宙吹硝子 巻紙》



4 石井康治 《風》



5 佐々文夫 《オブジェ「DUET FANTASY」》

富山市ガラス美術館・富山市立図書館本館 学校招待プログラム

「富山市ガラス美術館・富山市立図書館本館 学校招待プログラム」は、富山広域連携中枢都市圏（富山市・滑川市・舟橋村・上市町・立山町）の小学4年生を富山市ガラス美術館および富山市立図書館本館に招待し、展示作品の鑑賞や施設見学を行うものである。美術館では豊かな感性を育むこと、図書館では知識教養を深めることをねらいとして、2015年の開館当初より継続的に実施している。

本年度も令和3年度以降の実施方法を引継ぎ、60分のプログラムで常設展の鑑賞と対話による振り返りを行った。これに加え、昨年度実施した際の状況や参加校の先生方と意見交換を行った際の内容を踏まえ、新たな試みや内容の改善を図った。お世話になった先生方には、この場を借りてお礼を申し上げたい。

本年度は①鑑賞スタッフによる対話、②参加校との連携の2点から、プログラムの充実化を図った。鑑賞スタッフによる対話について、これまでは美術館での3つの約束（作品にはさわらない、ゆっくり歩こう、お話は小さな声で）を細かく、くり返し伝えており、やや一方的な口調になりがちな印象もあった。これに代えて、本年度ははじめの挨拶でガラスの印象や特性、作品を見る時に気をつけることなどを鑑賞スタッフからの問いかけで引き出し、子どもたちが主体的にルールを守る姿勢を促した。

参加校との連絡については、今年度より引率者向けの参加ガイドを作成した。同ガイドには参加日時等の基本情報の他、よくある質問についても記載し、スムーズなプログラム運営につながったと考える。また、事後学習用のツールとしてコレクション展の作品リストを新規作成し、全参加校に送付した。リストには当館の収蔵品検索システムの二次元コードを掲載し、パソコンやタブレットで読み込むことで帰校後も作品情報に触れられるようにするなど、現在の小学生の学習スタイルを意識した形式とした。

本年度のプログラムには、計78校3,474名の児童が参加した。コレクション展「ガラスをめぐる自然」では、色や形、模様などを手がかりに、子どもたちが作品からイメージしたことを話し合っていた。特に、作品の印象を身近なものに例える、生活の中で見聞きした情報と結び付けようとするなど、自らの経験に基づき、小学4年生ならではの視点で感じたことを語る様子が多く見られた。今回は敢えて作品鑑賞のルールを細かく説明しなかったが、子どもたちは言われずともルールを守りながら鑑賞しており、主体的な姿勢を引き出すことの重要性が感じられた。

本年度の改善案がプログラムの充実化につながったと感じる一方、移動用のバス手配が年々困難になっており、今後もより一層柔軟な対応が求められるであろうことを実感した。今後も多くの子どもたちに充実したプログラムを継続的に提供できるよう、状況の変化に対応しながら工夫を続けていきたい。

(米田結華)

Toyama Glass Art Museum & Toyama City Library Invitation Program for Schoolchildren

The Toyama Glass Art Museum & Toyama City Library Invitation Program for Schoolchildren involves fourth graders from elementary schools in Greater Toyama Cooperation Core Cities (Toyama, Namerikawa, Funahashi Village, and the towns of Kamiichi and Tateyama) being invited to the Toyama Glass Art Museum and the Toyama City Library to view artworks and tour the facilities. The program has operated continuously since the building opened in 2015 with the aim of fostering an acute sense for art at the museum and deepening knowledge and education at the library.

This year, following the approach implemented since FY2021, participants viewed the permanent exhibition and reviewed their experience by way of a discussion as part of a 60-minute program. Based on the circumstances of last year's program and on an exchange of opinions with teachers from participating schools, an effort was also made to include new content and improve existing content. I would like to take this opportunity to thank the teachers involved.

We sought to enrich the program this year with respect to communication from viewing staff, and cooperation with participating schools. Until now, viewing staff had conveyed repeatedly in detail the three rules at the museum—do not touch the artworks, walk slowly, talk in a low voice—and there was also the impression that their manner of talking tended to be somewhat unilateral. This year, however, the children were encouraged to obey the rules on their own initiative by prompting a discussion about the impressions and properties of glass and what to be careful about when looking at artworks, based on questions from the viewing staff during the initial greeting.

Regarding cooperation with participating schools, from this year a participation guide was prepared for those leading groups of visitors. In addition to basic information such as dates and times, the guide includes FAQs, and should lead to smoother running of the program. As well, a list of works in the collection exhibition was newly prepared as a post-visit learning tool and sent to all the participating schools. The list was formatted with the current learning style of elementary school students in mind by, for example, including the 2D barcodes from the museum's collection search system so that participants could interact with information about the works even after returning to school by reading these with a computer or tablet.

A total of 3474 individuals from 78 schools participated in this year's program. In conjunction with the Collection Exhibition Nature in Glass, the children discussed the things they imagined from the works based on their colors, shapes and patterns. In particular, many of the children spoke about what they felt from perspectives peculiar to fourth graders based on their own experiences, comparing their impressions of the works to familiar things and trying to connect them to information gained as part of their everyday lives, for example. This time, although no particular effort was made to explain in detail the rules around viewing artworks, the children still obeyed the rules without being told, underscoring the importance of eliciting a responsible attitude.

While I felt that this year's plan for improvements led to the enrichment of the program, at the same time arranging buses to transport participants is getting more difficult year by year, and I got a real sense that a more flexible approach will probably be needed in the future. I would like to continue to come up with solutions while responding to changes in the circumstances of the program so that we can offer a comprehensive program to as many children as possible going forward.

(YONEDA Yuika, translated by Pamela MIKI)



リノ・タリアピエトラ《アフリカ》2014年、
富山市ガラス美術館所蔵 撮影：末正真礼生

コレクション展 作品カード（表）
Artwork card (Front)

作品名：《アフリカ》
作者：リノ・タリアピエトラ
制作年：2014年

問いかけの例

- この作品のイメージや雰囲気について、お家の人や他の学年のお友達（＝作品を見ていない人）に伝えるときは、どんな風に伝えますか？
- この作品は何に見えますか？
- 模様はどうですか？指で空に描いてみましょう。
- この作品の中で、面白いな、気になるなと思う所はどこですか。

その他の情報

- 作者のタリアピエトラさんはこの作品の中で、アフリカの木の形や色鮮やかな民族衣装など、自然と深いかわりを持つ人々の暮らしに注目しています。

コレクション展 作品カード（裏）
Artwork card (Back)

*児童への問いかけの例や、鑑賞のヒントとなる補足情報を記載した。
* Supplementary information was listed on the back as assistance for appreciation.

No.	作家名(作った人)	作品名	作られた年
1	尾形 重雄	鏡 02	2013年
2	エマ・ヴァルダ	Amazing Spring 02 - Field of	2013年
3	アレシウ・ヴァン・セリョ	Nalada	1997年
4	ラダ・セメツカ	サンプレート	2009年
5	ラダ・セメツカ	アクアプレート	2009年
6	ベンジミン・ロイ・デル・スル	グループ	1998年
7	ベンジミン・ロイ・デル・スル	美しい輪	1997年
8	フレナ・マチェイカ	風車	2006年
9	フレナ・マチェイカ	風車	2012年
10	尾形 重雄	鏡 01	2002年
No.	作家名(作った人)	作品名	作られた年
11	パワード・ペンチレ	矢張り	1999年
12	ホー・スチーレイ	つ	2006年
13	ホー・スチーレイ	橋を待つ	2019年
14	尾形 重雄	鏡に映る鳥	2011年
15	リノ・タリアピエトラ	アフリカ	2014年
No.	作家名(作った人)	作品名	作られた年
16	ヤン・ファン・デル・グレン	鏡の鏡	1999年
17	ラダ・セメツカ	Collection 001	2006年
18	ラダ・セメツカ	Collection 002	2006年
19	ホー・スチーレイ	とびまもの	2019年

コレクション展 作品リスト
List of works



鑑賞の様子（リノ・タリアピエトラ《アフリカ》2014年）
Viewing the artwork (Lino TAGLIAPIETRA, Africa, 2014)

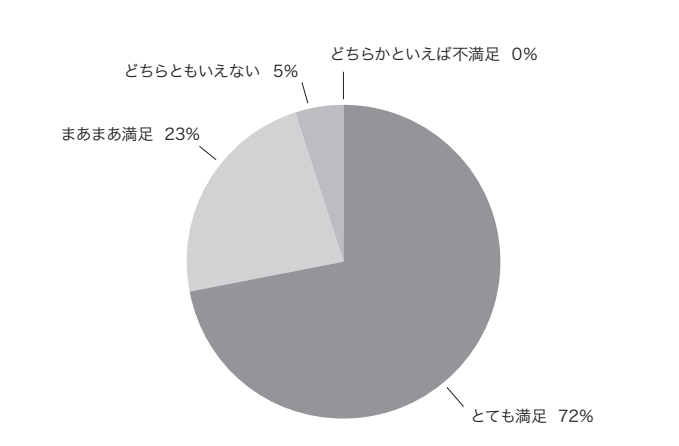


鑑賞の振り返り
Discussion on artworks

引率者アンケートより

引率の先生方に向けたアンケートを実施し（回答は任意）、参加校78校のうち56校から回答があった。以下に集計結果の一部を掲載する。

1. プログラム全体の満足度について



95%の引率者から「とても満足」「まあまあ満足」との回答をいただいた。特に美術館での作品鑑賞および鑑賞の振り返りについては、「貴重な体験ができた」「作品鑑賞の楽しみ方を知ることができた」などの感想が多く、美術館ならではの学びを体験していただけたことがうかがえる。

3. 事前・事後学習の内容について（一部抜粋・要約）

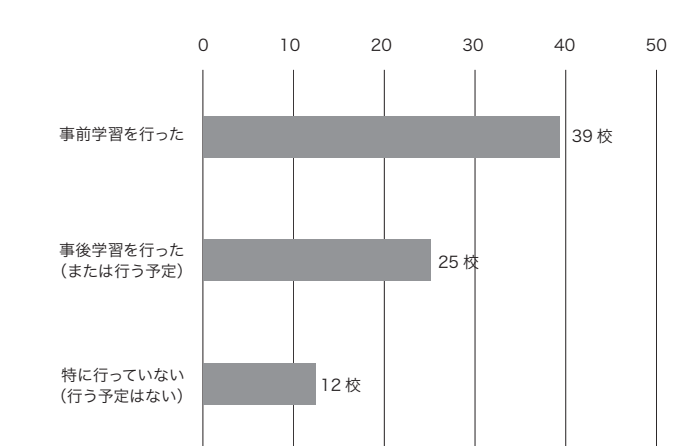
事前学習の内容

- ・美術館や図書館についてインターネットで調べた。
- ・公共施設の使い方や見学・鑑賞のマナーを説明したり話し合ったりした。
- ・美術館のプロモーションビデオを見て、知っていることを話し合った。
- ・参加前に図画工作科で光と影に関する単元を学習した。

事後学習の内容

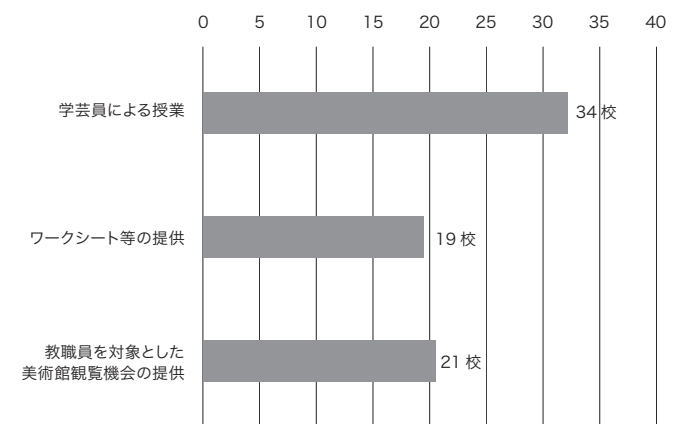
- ・心に残った作品や学んだことについて話し合った。
- ・家の人に感想を伝える宿題を出した。
- ・国語科「パンフレットを読もう」の応用として、見出しや写真の工夫について話し合った。
- ・学校の図書室でもナンバリングや記号分けされていることを確認し、本を借りた。
- ・ふりかえりシートを利用して心に残ったことを記入し、話し合った。

2. プログラム参加前後の学習について



引率者の約7割が事前学習を行い、半数近くが事後学習を行った（または行う予定である）と回答した。本プログラムに意欲的にご参加いただいていることがうかがえる。内容は当館より提供したツールを用いたものの他、各教科の学習内容と関連付けたものもあった。学習の具体例については、次項で紹介する。今後も本プログラムを学校での学びとより一層結び付けていけるよう、工夫を続けたい。

4. 連携活動の要望について



昨年度同様、学芸員による授業の要望が最も多く、半数以上を占めた。授業内容については、所蔵作品や展示に関する授業を希望する回答が最も多かった。また、教職員を対象とした観覧機会の提供も多くの要望があり、美術館と学校とのつながりを作り出すために様々な形で働きかけを行っていくことが求められている。

その他の活動

Other Activities

寄稿

タイトル	掲載誌	執筆者	発行元	掲載年月日
「岩田藤七」	ウェブ版『日本のアーティスト事典』	土田ルリ子（館長）	国立アートリサーチセンター	2023年6月
「[水のいる、水のかたち]の豊富なバリエーション」	『現代の眼』オンライン版展覧会レビュー	土田ルリ子（館長）	国立工芸館	2023年7月
「アートグラス」や「ユニークピース」が放つ個性と創意 「フィンランド・グラスアート 輝きと彩りのモダンデザイン」展に寄せて	『HAGI URAGAMI MUSEUM MAGAZINE』109 AUTUMN ISSUE 2023	土田ルリ子（館長）	山口県立萩美術館・浦上記念館	2023年9月
「文化的催事における協働作業の重要性」	『旧友』霜月（11月号）	土田ルリ子（館長）	（一財）富山県教職員厚生会	2023年11月1日
「宮永愛子 詩を包む」	『炎芸術』No.156、2023冬	浅田真帆（主任学芸員）	阿部出版	2023年11月1日
"Foreword" / "Toyama International Glass Exhibition 2021 amid the Coronavirus Situation"	『Review on Glass』issue 10th	土田ルリ子（館長）	ICOM GLASS	2024年3月

講義・講演・発表等

講義・講演名	タイトル	会場	講師	日時
JIA 公益社団法人 日本建築家協会 富山地域総会	「ガラスの街とやまにおける富山市ガラス美術館の役割と可能性」	富山国際会議場 特別会議室	土田ルリ子（館長）	2023年4月15日（土）
第61回日本現代工芸美術展 記念講演会	「富山から世界へ！現代グラスアートの今、そして富山市ガラス美術館の役割」	東京都美術館 講堂	土田ルリ子（館長）	2023年4月19日（水）
富山市民大学【現地学習】	「アナザーワールド：不思議でリアルな世界」、「オノマトペで見つける、ガラスの不思議」	富山市ガラス美術館	渡部名祐子（主任学芸員）、米田結華（学芸員）浅田真帆（主任学芸員）	2023年5月30日（火）
	「日本近現代ガラスの源流」、「ガラスをめぐる自然」	富山市ガラス美術館	中島春香、高橋由佳（主任学芸員）	2023年9月26日（火）
「佐藤弘隆 ホゲホゲ」関連プログラム ゲストトーク	テーマ「AIと創作」	ギャラリー無量	高橋由佳（主任学芸員）	2023年9月3日（日）
「フィンランド・グラスアート：輝きと彩りのモダンデザイン」講演会	講演会「フィンランド・グラスアートの魅力」	山口県立萩美術館・浦上記念館	土田ルリ子（館長）	2023年9月16日（土）
ICOM GLASS Annual Meeting 2023	"Exhibition about the Glass City, Toyama titled "Toyama Glass by..."	チロル州立民族博物館、インスブルック、オーストリア	土田ルリ子（館長）	2023年9月26日（火）
GO FOR KOGEI 2023 国際シンポジウム「アートと工芸をめぐる話」 supported by 三菱 UFJ 銀行	1部「富山市ガラス美術館と国際コンペー世界と日本のガラス工芸を刺激する」 2部 パネルディスカッション	富山国際会議場 多目的会議室	土田ルリ子（館長）	2023年10月21日（土）
松川茶屋 まちなか水辺遊び 富山市ガラス美術館 館長 土田ルリ子さんをお招きして	1部「東京 サントリー美術館から富山市ガラス美術館へ」 2部「ガラスピースの万華鏡づくり体験」	松川茶屋（富山城址公園内）	土田ルリ子（館長）	2023年11月12日（日）
「フィンランド・グラスアート：輝きと彩りのモダンデザイン」講演会	講演会「フィンランド・グラスアートの魅力」	岐阜県現代陶芸美術館（セラミックパーク MINO イベントホール）	土田ルリ子（館長）	2024年1月13日（土）
富山市民大学 特別講義	「世界をわたる富山のガラス芸術」	富山市民学習センター（市民プラザ）	土田ルリ子（館長）	2024年1月17日（水）
「フィンランド・グラスアート：輝きと彩りのモダンデザイン」記念講演会	記念講演会「フィンランド・グラスアートの魅力」	兵庫陶芸美術館	土田ルリ子（館長）	2024年3月16日（土）

実習・受入等

活動名	日時	受入人数	講師
14歳の挑戦	2023年7月10日（月）～7月14日（金）	4名	牧野仁美（館長代理）ほか
博物館実習	2023年8月21日（月）～8月25日（金）	3名	西田真（学芸員）、小川果歩（学芸員）ほか
校外学習受入	2023年11月29日（水）	70名程度	牧野仁美（館長代理）、古澤かおり（主任学芸員）

※役職名は2023年度当時のもの

資料
Appendix

82 概要・沿革

83 関連事業等

88 広報活動

91 2023年度来館状況

92 ギャラリー利用状況

93 施設概要

94 利用案内

1. 概要・沿革

(1) 概要

富山市ガラス美術館は、富山市がおよそ30年にわたり取り組んできた「ガラスの街とやま」の一環として、2015（平成27）年8月22日（土）に開館した。本美術館は富山市立図書館本館などが入居する複合施設「TOYAMAキラリ」内に整備され、富山市の中心市街地に位置することから、文化芸術の拠点としてだけでなく、まちなかの新たな魅力創出を担っている。

世界的な建築家の隈研吾氏が設計を手掛けた建物は、御影石、ガラス、アルミの異なる素材を組み合わせ、表情豊かな立山連峰を彷彿とさせる外観となっている。

また、内観は、2階から6階までの5層のフロアを斜めに突き抜ける吹き抜けが特徴的で、それを包み込むように県産の杉を活用したルーバー（羽板）

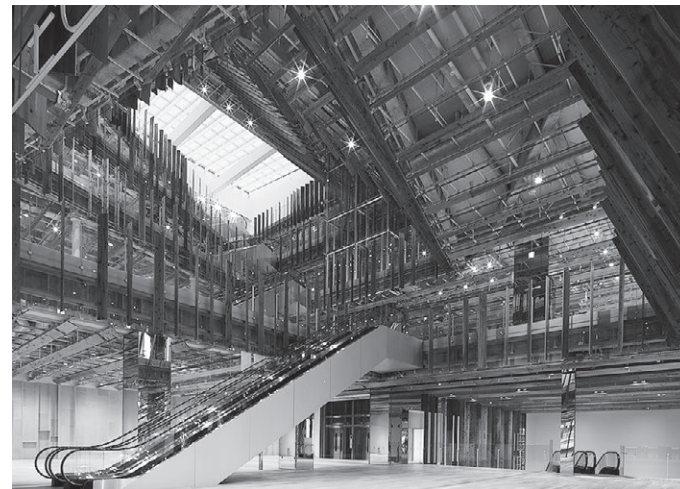
が少しずつ角度を変えながら、訪れる人々を導くように小気味よいリズムを刻んでいる。

本美術館は、常設展として、富山市所蔵の現代ガラス美術作品を展示するコレクション展をはじめ、展示室の壁面や図書館内に富山ゆかりの作家の作品を展示する「グラス・アート・パサージュ」がある。また、6階の「グラス・アート・ガーデン」には、現代ガラス美術の巨匠テイル・チーフリ氏の工房が制作したインスタレーション（空間芸術）作品を展示しており、建築と作品が織り成す空間を楽しむことができる。

このほか、企画展では1950年代以降の現代ガラス美術作品を中心に、さまざまな美術表現を紹介している。



TOYAMAキラリ 外観



TOYAMAキラリ 内観

(2) 「ガラスの街とやま」これまでの沿革

- 1985（昭和60）年4月 富山市民大学ガラス工芸コース開設
- 1991（平成3）年4月 富山ガラス造形研究所開校（富山市西金屋地内）
- 1994（平成6）年4月 富山ガラス工房開設（富山市古沢地内）
- 1998（平成10）年3月 「ガラスの里」基本構想策定
- 2001（平成13）年3月 「ガラス美術館」基本構想策定
- 2008（平成20）年3月 富山市長がガラス美術館を中心市街地で整備する意向を表明
- 2009（平成21）年3月 「富山市ガラスの街づくりプラン」策定
- 2010（平成22）年3月 「ガラスの里」宿舍棟及びアーティスト・イン・レジデンスを富山市西金屋地内に設置
- 2010（平成22）年11月 「西町南地区の公益施設整備に関する基本構想」策定
- 2012（平成24）年1月 「ガラスの里」にかわる新名称を公募し、「グラス・アート・ヒルズ富山」に決定
- 2012（平成24）年9月 「グラス・アート・ヒルズ富山」に富山ガラス工房第2工房を開設
- 2015（平成27）年5月 富山市西町南地区第一種市街地再開発組合事業施設建築物（TOYAMAキラリ）竣工
- 2015（平成27）年8月 TOYAMAキラリ内に富山市ガラス美術館開館
- 2016（平成28）年1月 富山市ガラス美術館来館者数10万人を達成
- 2017（平成29）年1月 TOYAMAキラリ内公益施設（富山市ガラス美術館及び富山市立図書館本館）来館者数100万人を達成
- 2018（平成30）年6月 TOYAMAキラリ内公益施設来館者数200万人を達成
- 2018（平成30）年9月 富山市ガラス美術館にて国際公募展「富山ガラス大賞展2018」を初開催
- 2018（平成30）年11月 富山市ガラス美術館来館者数50万人を達成
- 2019（令和元）年5月 TOYAMAキラリ内公益施設来館者数300万人を達成
- 2020（令和2）年11月 富山市ガラス美術館来館者数100万人を達成
- 2021（令和3）年7月 富山市ガラス美術館にて国際公募展「富山ガラス大賞展2021」を開催
- 2022（令和4）年8月 TOYAMAキラリ内公益施設来館者数500万人を達成



富山ガラス造形研究所



富山ガラス工房第2工房

2. 関連事業等

(1) ワークショップ「TOYAMAキラリオリジナル和菓子を作るう！」

TOYAMAキラリの外観をイメージしたオリジナルの和菓子を作るワークショップを実施した。

日時：2024年2月3日（土）①10時～10時40分 ②11時～11時40分
会場：2階Cafe小馬キラリ店



ワークショップ「TOYAMAキラリオリジナル和菓子を作るう！」

(2) 「ガラスの街とやま」としての展覧会やコンサートの開催

富山市が取り組んでいる「ガラスの街づくり」の機関である、ガラス作家を育成する「富山ガラス造形研究所」の在学生等による展覧会や、ガラス制作を体験できる「富山ガラス工房」によるコンサートを開催した。

① 富山ガラス工房 ガラス製フラウト・トラヴェルソ&ピアノコンサート

富山市民の「ガラスの街とやま」と「SDGs未来都市とやま」への関心を高めるとともに、「ガラス芸術と舞台芸術の融合による富山らしい地域文化の深化と振興」を期待して実施した。ガラス製フラウト・トラヴェルソと現代フルートにて演奏を行った。

日時：2023年6月25日（日）
会場：2階ロビー
主催：富山ガラス工房



ガラス製フラウト・トラヴェルソ&ピアノコンサート

② 富山ガラス造形研究所 コールドクラス展

「一層向こうへ-Beyond the Layer-」

造形科2年生のコールドクラスによる展覧会を開催した。ガラス作家を目指す学生が、作品制作や本美術館での展示に取り組み、実践を通して学びを深めた。

会期：2023年7月14日（金）～7月20日（木）
会場：ギャラリー1・2
主催：富山市（担当：富山ガラス造形研究所）



一層向こうへ-Beyond the Layer-

③ 富山ガラス造形研究所 アーティスト・イン・レジデンス2023展覧会 ヴェンドゥルカ・ブラハロヴァー展

富山ガラス造形研究所の「アーティスト・イン・レジデンス2023」の事業として、チェコ共和国出身のヴェンドゥルカ・ブラハロヴァー氏が滞在制作の中で作り上げた作品を一堂に展示した。

会期：2023年12月2日（土）～12月10日（日）
会場：ギャラリー2
主催：富山ガラス造形研究所 公開事業実行委員会



ヴェンドゥルカ・ブラハロヴァー展

④富山ガラス造形研究所 造形科1年生グループ展

「集積」-gathering and expanding-

造形科1年生が、1年間富山ガラス造形研究所で積み重ねた技術や考えを軸に制作した作品を展示した。

会期：2024年1月27日（土）～2月2日（金）

会場：ギャラリー1・2

主催：富山市（担当：富山ガラス造形研究所）



「集積」-gathering and expanding-

⑤富山ガラス造形研究所 卒業制作展2024

富山ガラス造形研究所による卒業制作展を開催し、造形科と研究科の卒業生による2年間の学びと研究の成果の発表を行い、未来のガラス作家たちの意欲あふれる作品を展示した。

会期：2024年2月10日（土）～2月18日（日）

会場：展示室3、ギャラリー1・2

主催：富山市（担当：富山ガラス造形研究所）



「卒業制作展2024」

(3) その他の事業

①「令和5年度富山市公募提案型協働事業」事業説明会

（前年度事業報告会併催）

まちづくりのアイデアを提案し、提案者と市が協働で地域の課題解決に取り組む富山市公募提案型協働事業説明会及び報告会を行った。

日時：2023年4月16日（日）

会場：2階ロビー

主催：富山市（担当：男女参画・市民協働課）



「令和5年度富山市公募提案型協働事業」事業説明会

②市民ミニコンサート

昼休みのひとときに開催している「市民ミニコンサート」を、今年度は計9回開催した。

日時：2023年4月21日（金）、5月19日（金）、7月28日（金）、
8月4日（金）、8月18日（金）、12月1日（金）、12月15日（金）、
2024年1月19日（金）、3月15日（金）

会場：2階ロビー

主催：富山市（担当：文化国際課）



市民ミニコンサート

③G7富山・金沢教育大臣会合 エクスカーション

各国大臣や国会関係者を藤井市長、伊東名誉館長、土田館長等が出迎え、ガラス美術館の概要説明を行った。また、開催中の展覧会について担当学芸員が会場を案内した。

日時：2023年5月12日（金）

会場：TOYAMAキラリ

主催：G7教育大臣会合富山県委員会



G7富山・金沢教育大臣会合エクスカーション

④ライブラリー&ミュージアムコンサート

ガラス美術館の企画展に合わせてヴァイオリンやヴォーカル（ジャズ）のコンサートを開催した。

日時：2023年8月5日（土）、12月23日（土）

会場：2階ロビー

主催：富山市（担当：図書館交流行事運営委員会、ガラス美術館）



ライブラリー&ミュージアムコンサート

⑤2023富山市景観まちづくりフォーラム

TOYAMAキラリの設計に携わった建築家や大手モールの景観まちづくりに携わってきた有識者を招き、来場者参加型のトークセッションを実施した。

日時：2023年9月23日（土）10時～12時

会場：2階ロビー

主催：富山市（景観政策課）



2023富山市景観まちづくりフォーラム

⑥スケッチオーデション2023 Day0

産学官が連携して開催するビジネスプランコンテスト「スケッチオーデション2023」のプレイベントとして、講演、近況報告等を実施した。

日時：2023年9月23日（土）15時～17時

会場：2階ロビー

主催：とやま未来共創チーム（事務局：スマートシティ推進課）、
富山経済同友会、富山ニュービジネス協議会、富山大学



スケッチオーデション2023 Day0

⑦第173回ナイトフォーラム「とやまで建築を仕事にする」

ゲストスピーカーに本瀬齋田建築設計事務所の本瀬あゆみ氏、齋田武亨氏を迎え、講演及び軽食付きの交流会を開催した。

日時：2023年9月28日（木）

会場：2階Cafe小馬キラリ店

主催：富山県総合デザインセンター



第173回ナイトフォーラム「とやまで建築を仕事にする」

⑪子ども未来会議

子ども・保護者の視点から、多様な学びの場を含めた「誰一人取り残さない・質の高い教育」について話し合い、理解を深めることを目的として開催した。

日時：2024年1月20日（土）10時～12時

会場：2階ロビー

主催：富山市PTA連絡協議会

共催：富山市教育委員会事務局（担当：学校再編推進課）



子ども未来会議

⑧富山映像大賞2023

映像により本市の魅力を市内外に発信し、継続的な賑わい創出を目的とした公募型コンクール「富山映像大賞2023」の最終審査会、授賞式を実施した。

日時：2023年10月8日（日）13時～16時30分

会場：2階ロビー

主催：富山市（担当：まちづくり推進課）



富山映像大賞2023

(4) TOYAMAキラリ 自主防火・防災訓練の実施

TOYAMAキラリ内に勤務する職員（美術館、図書館、富山第一銀行、カフェ、ミュージアムショップ、施設管理委託業者）で、自主防火・防災訓練（被害状況の通報、消火、避難訓練など）を実施した。

日時：2023年9月6日（水）

会場：TOYAMAキラリ



TOYAMAキラリ 自主防火・防災訓練の実施

⑨とやま未来創造ミーティング2023 とやまの価値を再発見しよう！

市民と行政との協同により「まちづくり」を考える市民討議会を開催した。

日時：2023年11月3日（金・祝）

会場：2階Cafe小馬キラリ店

主催：公益社団法人 富山青年会議所



とやま未来創造ミーティング2023

⑩市民交流事業2023 ONE ワク

富山を拠点に活躍する建築家と高校生・大学生の建築イベント「ONE ワク」を開催した。

日時：2023年11月18日（土）

会場：2階Cafe小馬キラリ店

主催：公益社団法人 日本建築家協会北陸支部富山地域会



市民交流事業2023 ONE ワク

3. 広報活動

(1) 美術館案内

本美術館の概要、フロア案内、営業時間・アクセス等をまとめたパンフレット。館内に設置及び他施設等に配布している。

(日本語版・英語版・簡体字版・繁体字版)

(規格) A4 三つ折 4c/4c

用紙: MTA+ 四六判 110k



美術館案内 日本語版 表面

美術館案内 日本語版 中面

(2) 年間スケジュール

本美術館の年間の展覧会情報等をまとめたパンフレット。毎年作成し、美術館案内と同様に、設置や配布等を行っている。

(日本語版・英語版)

(規格) A4 三つ折 4c/4c

用紙: MTA+ 四六判 110k



年間スケジュール 日本語版 表面

年間スケジュール 日本語版 中面

(3) 広告

本美術館や各企画展の情報を各広報媒体にて掲載した。

①新聞広告

(掲載紙及び内容)

北日本新聞

- 企画展「日本近現代ガラスの源流」 2023年7月8日(土)
- 美術館全体広告 2023年7月15日(土)
- 企画展「宮永愛子 詩を包む」 2023年11月3日(金・祝)
- 企画展「回顧展:大平洋一 ヴェネツィアン・ガラスの彼方へ」 2024年3月9日(土)

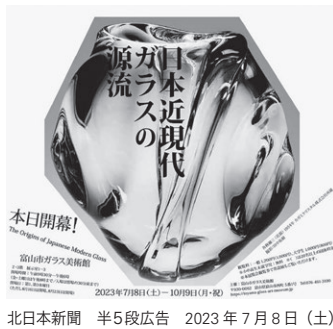
富山新聞

- 美術館全体広告 2023年4月2日(日)
- 企画展「宮永愛子 詩を包む」 2023年11月3日(金・祝)
- 企画展「回顧展:大平洋一 ヴェネツィアン・ガラスの彼方へ」 2024年3月9日(土)

②Instagram 広告

(発信内容)

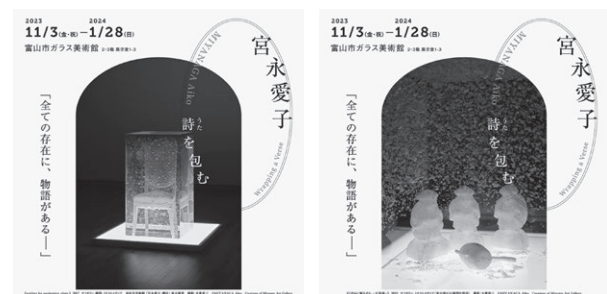
- 企画展「日本近現代ガラスの源流」
期間: 2023年7月28日(金)~8月18日(金)、
2023年9月15日(金)~9月24日(火)【32日間】
表示ユーザー数: 1,594,834人
- 企画展「宮永愛子 詩を包む」
期間: 2023年11月2日(木)~12月2日(日)、
2023年12月21日(木)~2024年1月28日(日)【70日間】
表示ユーザー数: 1,533,528人
- 企画展「回顧展:大平洋一 ヴェネツィアン・ガラスの彼方へ」
期間: 2024年3月9日(土)~3月31日(金)【23日間】
表示ユーザー数: 434,730人



北日本新聞 半5段広告 2023年7月8日(土)



富山新聞 5段広告 2024年3月9日(土)



ウェブ広告 (Instagram)

③市の広報紙 (広報とやま) での告知

(特集掲載号)

- 企画展「日本近現代ガラスの源流」2023年7月5日号 (カラー 0.5P)
- 企画展「宮永愛子 詩を包む」2023年10月5日号 (カラー 0.5P)
- 企画展「回顧展:大平洋一 ヴェネツィアン・ガラスの彼方へ」 2024年3月5日号 (カラー 1P)

④美術誌や旅行誌、新幹線座席ポケット設置のフリーペーパー等への広告掲載

- 「美術手帖」広告 (2023年10月号)
- 「宮永愛子 詩を包む」
- JR東日本新幹線車内誌「トランヴェール」広告 (12月号)
- 旅行ガイドブック「まっふる」広告 (4・9・2月発行)
- 「るるぶ」広告 (2・3月発行)
- 「ことりっぶ」広告 (12月発行)
- 美術館全体やカフェ、ショップ

⑤市内各所へのポスター掲出

- 富山駅南北自由通路
「アナザーワールド:不思議でリアルな世界」(3面)
期間: 2023年1月30日(月)~6月20日(火)【142日間】
「日本近現代ガラスの源流」(3面)
期間: 2023年6月22日(木)~10月9日(月・祝)【120日間】
「宮永愛子 詩を包む」(3面)
期間: 2023年12月18日(月)~2024年1月28日(日)【42日間】
- 富山きときと空港
「日本近現代ガラスの源流」(2面)
期間: 2023年8月27日(土)~9月30日(金)【35日間】
- 富山城址公園
「日本近現代ガラスの源流」(6面)
期間: 2023年7月1日(土)~8月24日(木)【55日間】
「宮永愛子 詩を包む」(3面)
期間: 2023年10月2日(月)~11月30日(木)【60日間】

⑥金沢駅サイネージ広告

- 「日本近現代ガラスの源流」(20面)
期間: 2023年8月1日(火)~8月31日(木)【31日間】
- 「宮永愛子 詩を包む」(20面)
期間: 2023年12月1日(金)~12月31日(日)【31日間】



広報とやま

まっふる・るるぶ



富山駅南北自由通路



金沢駅サイネージ

4. 2023 年度来館状況（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

(1) 来館者数（月別）（単位：人）

月（開館日数）	来館者数（合計）
4 月 (28 日)	16,050
5 月 (28 日)	24,206
6 月 (28 日)	12,897
7 月 (29 日)	16,504
8 月 (29 日)	27,558
9 月 (28 日)	20,430
10 月 (29 日)	20,387
11 月 (28 日)	22,072
12 月 (26 日)	11,370
1 月 (16 日)	能登半島地震の影響で 1 月 2 日～14 日臨時休館 4,623
2 月 (27 日)	13,964
3 月 (29 日)	18,622
合計 (325 日)	208,683

(2) 事業別来館者数（延べ人数）

展覧会名	会期	来館者数（人）
アナザーワールド：不思議でリアルな世界	2023 年 3 月 4 日（土）－ 2023 年 6 月 18 日（日） （開場 73 日※ 2023 年度内）	27,797 (380 人 / 日)
日本近現代ガラスの源流	2023 年 7 月 8 日（土）－ 2023 年 10 月 9 日（月・祝）（開場 88 日）	33,757 (383 人 / 日)
宮永愛子 詩を包む	2023 年 11 月 3 日（金・祝）－ 2024 年 1 月 28 日（日）（開場 66 日）	15,301 (231 人 / 日)
ガラスの街とやま連携展「ガラスと生きる」 富山ガラス工房と所属作家	2024 年 2 月 10 日（土）－ 2024 年 2 月 18 日（日）（開場 9 日）	2,839 (315 人 / 日)
回顧展：大平洋一 ヴェネツィアン・ガラスの 彼方へ	2024 年 3 月 9 日（土）－ 2024 年 6 月 23 日（日） （開場 22 日※ 2023 年度内）	7,455 (338 人 / 日)
常設展	2023 年 4 月 1 日（土）－ 2024 年 3 月 31 日（日）（開場 325 日）	205,844 (633 人 / 日)

(4) ガラス美術館ウェブサイト・SNS

①ウェブサイト

展覧会情報を中心に、利用案内や、施設の概要、お知らせ、カフェ、ミュージアムショップの情報等を掲載している。また、対応言語は日本語だけでなく英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語等の言語に対応している。

※言語によってコンテンツは異なる。

〈日本語版コンテンツ〉

ホーム、展覧会情報、ご利用案内、施設紹介、美術館について、イベントほか

〈サイトアクセス数〉1,027,390回

期間：2023年4月1日～2024年3月31日



ガラス美術館ウェブサイト

②SNS

2020年より当館のFacebook及びInstagramの公式アカウントを立ち上げ、イベントの告知などを中心に情報発信を行っている。また、2021年にはYouTubeの公式アカウントを立ち上げ、イベント等映像の配信を行っている。



ガラス美術館 Facebook

ガラス美術館 Instagram

※投稿はガラス美術館ウェブサイトにも表示

(5) 多言語翻訳システム（QR Translator）

外国人観光客や在日外国人の利便性を向上させるために、QR Translatorを2016年度から導入しており、展覧会のチラシ等のパンフレットや、名刺サイズのカード等に印刷されたQRコードをスマートフォン等で読み取ることで、開催中の展覧会情報や館内案内等を8言語（日本語、英語、簡体字、繁体字、ハングル、仏語、独語、伊語）で表示することができる。



ガラス美術館 YouTube

〈利用アクセス数〉7,731回

期間：2023年4月1日～2024年3月31日

(6) その他

(5) までの広報活動の他に、メディア関係者に対してや公式ウェブサイト上でプレスリリースを発信し、各種メディア（新聞やテレビ、雑誌、ウェブサイト、フリーペーパー等）で取り上げていただいている。



QRT 案内スタンド



QRT 美術館案内用カード

5. ギャラリー利用状況

展覧会名	開催期間（閉場日を除く）		開催場所		主催
	期間	日数(日)	ギャラリー1	ギャラリー2	
1 山々の架け橋展	4/ 8 (土) ~ 4/ 9 (日)	2	○	○	文藝同人無刀会
2 香りの展示会、香展	4/21 (金) ~ 4/30 (日)	10	○	○	株式会社 HERBAL8
3 アムールの光	5/ 4 (木・祝) ~ 5/ 7 (日)	4	○	○	Heart Angel
4 三人展+1	5/13 (土) ~ 5/17 (水)	5	○	○	「3人展」実行委員会
5 Abox Photo Club Toyama 2023 写真展 Vol.6	5/19 (金) ~ 5/21 (日)	3	○	○	Abox Photo Club
6 宗玄浩写真展 ドリームクエストー夢をたずねて世界を巡る旅ー	5/26 (金) ~ 5/29 (月)	4	○	○	宗玄浩
7 写真展「彩」	6/ 3 (土) ~ 6/ 4 (日)	2	○	○	谷島匠海
8 G7 富山・金沢教育大臣会合開催記念メモリアル写真展	6/ 6 (火) ~ 6/25 (日) ※ 6/7 (水)、21 (水) は休場日	18	○	○	G7 教育大臣会合富山県委員会
9 富山ガラス造形研究所 コールドクラス展「一層向こうへ-Beyond the Layer-」	7/14 (金) ~ 7/20 (木) ※ 7/19 (水) は休場日	6	○	○	富山ガラス造形研究所
10 写真展 dejavu	7/22 (土) ~ 7/24 (月)	3	○	○	小林優大
11 富山市所蔵作品展	7/26 (水) ~ 8/16 (水) ※ 8/2 (水) は休場日	21	○	○	富山市企画管理部文化国際課
12 第12回グループゆう展	8/20 (日) ~ 8/24 (木)	5	○	○	ゆう展実行委員会
13 第16回悠画展	8/20 (日) ~ 8/24 (木)	5	○	○	悠画会
14 YPP 熊倉桂三のプリンティングディレクション	9/ 1 (金) ~ 9/ 4 (月)	4	○	○	株式会社山田写真製版所
15 書道教室 Sunroom 展へえん en ~	9/ 8 (金) ~ 9/10 (日)	3	○	○	書道教室 Sunroom
16 樹人会書展 2023 ~日本から海を渡った人びと	9/15 (金) ~ 9/24 (日) ※ 9/20 (水) は休場日	9	○	○	書道研究樹人会
17 設え 2023「すまいにプラス one」	9/29 (金) ~ 10/ 1 (日)	3	○	○	新たな表具研究会「表湧」
18 JAGDA 富山 ポスターデザイン展 2023 GREEN vol.28	10/21 (土) ~ 10/25 (水)	5	○	○	JAGDA 富山
19 おえかきキッズ作品展 2023	10/28 (土) ~ 10/29 (日)	2	○	○	おえかきキッズ
20 昭和に生まれ、二人の日本画家に出会った	11/ 3 (金・祝) ~ 11/12 (日)	10	○	○	立山画廊静幸貞美館
21 満ちる展	11/22 (水) ~ 11/26 (日)	5	○	○	満ちる展実行委員会
22 富山ガラス造形研究所アーティスト・イン・レジデンス 2023 展覧会	12/ 2 (土) ~ 12/10 (日)	9	○	○	富山ガラス造形研究所
23 『ちきゅうバスポート』原画展	12/13 (水) ~ 12/26 (火)	14	○	○	富山市立図書館
24 2023 年度富山大原デザイン学科 卒業制作展	1/19 (金) ~ 1/21 (日)	3	○	○	学校法人富山大原学園 富山大原簿記公務員医療専門学校
25 富山ガラス造形研究所造形科1年生グループ展「集積」-gathering and expanding-	1/27 (土) ~ 2/ 2 (金)	7	○	○	富山ガラス造形研究所
26 富山ガラス造形研究所卒業制作展 2024	2/10 (土) ~ 2/18 (日)	9	○	○	富山ガラス造形研究所
27 2023 年度 富山大原 進級制作展	2/23 (金・祝) ~ 2/25 (日)	3	○	○	学校法人富山大原学園 富山大原簿記公務員医療専門学校
28 富山第一銀行 第 62 回小学生図画コンクール	3/ 2 (土) ~ 3/10 (日) ※ 3/6 (水) は休場日	8	○	○	株式会社富山第一銀行
29 富山工芸協会展覧会	3/14 (木) ~ 3/18 (月)	5	○	○	富山工芸協会
30 3.11 東日本大震災 宮城のキロクとキラク	3/20 (水・祝) ~ 3/26 (火)	7	○	○	志麻克史
合計 (30 展覧会)		194			開場日数（搬入出日を含まず） ギャラリー1、2（同時使用） 57日 ギャラリー1のみ 90日 ギャラリー2のみ 47日 入場者数合計 53,445

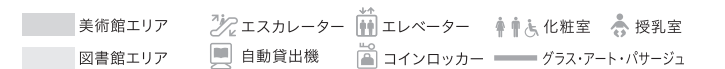
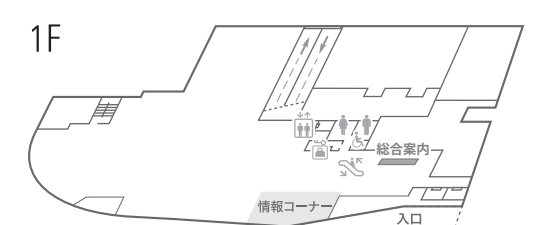
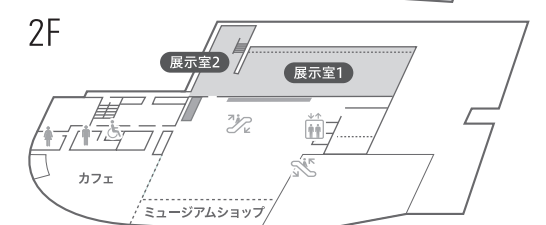
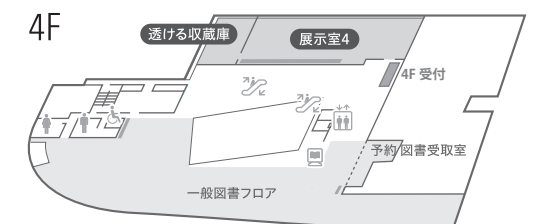
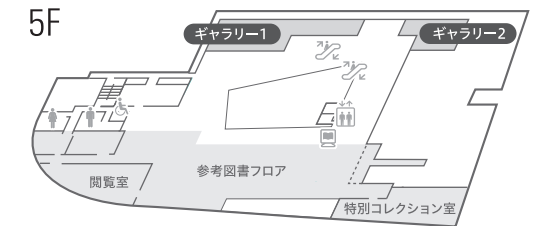
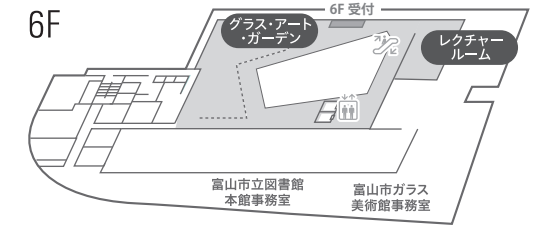
6. 施設概要

(1) 基本設計

施設名称	富山市ガラス美術館
所在地	富山県富山市西町 5 番 1 号 TOYAMA キラリ内 2 階～6 階 (TOYAMA キラリ全体：地下 1 階、地上 10 階)
設計・監理	RIA・隈研吾・三四五共同企業体
施工	清水建設・佐藤工業共同企業体
美術館整備費	3,932 百万円 (TOYAMA キラリ全体：18,279 百万円)
工事期間	2013 (平成 25) 年 5 月 11 日～2015 (平成 27) 年 4 月 30 日 (2015 (平成 27) 年 5 月 9 日竣工)
床面積	① TOYAMA キラリ公益部分 (図書館等を含む) 共用エントランス・B棟 (公益) 延床面積 13,841.01㎡ (うち、美術館専有部分) 3,935.73㎡ ② TOYAMA キラリ全体 (銀行、権利者棟を含む) 延床面積 26,792.82㎡ 建築面積 3,422.97㎡
構造	鉄骨造 (付加制振構造)
外部仕上	PCカーテンウォール (御影石・アルミパネル打込み) 押出成形セメント板フッ素樹脂塗装

(2) 主要展示スペース面積

2 階 展示室 1 (前室・展示ケース含む)	342.11㎡
2 階 展示室 2	83.39㎡
3 階 展示室 3 (前室・付室含む)	362.85㎡
4 階 展示室 4	275.07㎡
4 階 透ける収蔵庫	50.25㎡
5 階 ギャラリー 1	140.29㎡
5 階 ギャラリー 2	68.88㎡
6 階 グラス・アート・ガーデン	657.93㎡



7. 利用案内

(1) 開館時間・休館日

	開館時間	休館日
展示室	午前9時30分～午後6時 (金・土曜は午後8時まで)	第1、第3水曜日、 年末年始 ※1
カフェ	午前10時～午後6時	水曜日、 年末年始 ※1
ミュージアムショップ	午前9時30分～午後6時 (金・土曜は午後7時30分まで)	第1水曜日、年末年始
ギャラリー1・2	※2	※2

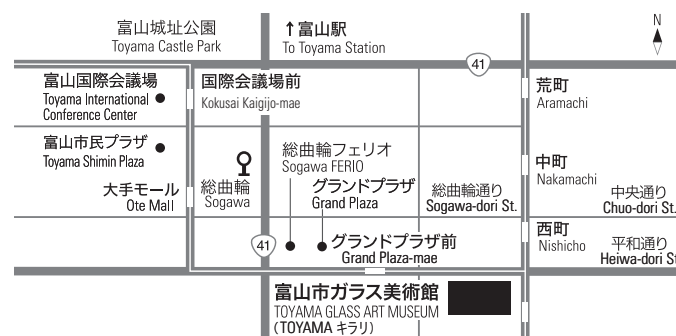
※1 企画展により、閉場日が異なる場合があります。

※2 ギャラリーの開場時間及び閉場日は展覧会により異なります。
詳細は展覧会主催者へお問い合わせください。

○入場時間は閉館時間の30分前までとなります。

○展示替え作業等で休館する場合があります。

(3) アクセス



〈市内電車〉 富山駅から市内電車環状線にて約12分「Grand Plaza前」下車 徒歩約2分
富山駅から市内電車南富山駅前行きにて約12分「西町」下車 徒歩約1分

〈車・観光バス〉 富山ICより約20分
※専用駐車場はありません。車又は観光バスでお越しの際は
周辺駐車場をご利用ください。

〈空路〉 富山空港より地铁バス(富山空港線)「総曲輪」下車 徒歩約4分

〈自転車〉 自転車用の駐輪場は「TOYAMA KIRARI」の南東側にあります。
自動二輪車はご利用いただけません。

(2) 観覧料

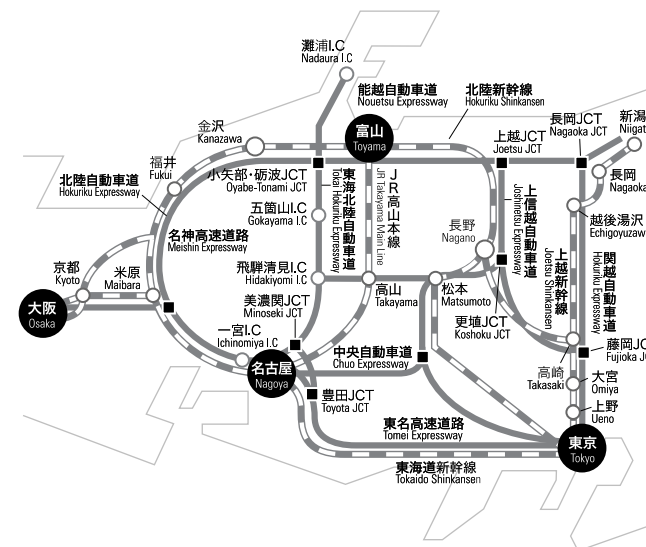
常設展	コレクション展(4F)	一般・大学生 ¥200
	グラス・アート・ガーデン(6F)	

※常設展観覧券でコレクション展及びグラス・アート・ガーデンをご覧いただけます。
※企画展は観覧料が異なります。

下記に該当する方は常設展及び企画展観覧料が無料※となります。

※富山市主催の展覧会のみ

- 高校生以下の方
- 富山市に住居登録がある70歳以上の方
- お出かけ定期券又はシルバーパスカをご提示の65歳以上の方
- 身体障害者手帳、療育手帳、又は精神障害者保健福祉手帳をご提示の方及びその介護者(1名)
- 団体引率者



- 〈東京〉 「東京駅」より、北陸新幹線を利用し「富山駅」へ
- 〈名古屋〉 「名古屋駅」より、特急しらさぎ・北陸新幹線を利用し「富山駅」へ
- 〈大阪〉 「大阪駅」より、特急サンダーバード・北陸新幹線を利用し「富山駅」へ

研究紀要 Bulletin

- 96 【資料紹介】 明道長次郎関係資料について
中島春香
- 103 Abstract
New Materials Relating to MYODO Chojiro
NAKASHIMA Haruka

【資料紹介】明道長次郎関係資料について

中島春香

1. はじめに

明道長次郎（1911-1944）は1920年代後半、旧満州の大連（現中国）においてガラス表面を加工するグラヴィール¹の技術を身に付けた。1930年には東京・滝野川に設立された各務クリスタル工芸硝子研究所（後の各務クリスタル製作所、現カガミクリスタル株式会社）に入所。同所でグラヴィールの仕事に携わりながら活発に作品制作も行っていたが、1941年に徴兵され、1944年に出征先で夭折した。

当館では明道のガラス作品で唯一現存が確認されている《草花文グラヴェール硝子鉢》(図1) と、明道によるデッサンや図案が描かれたスケッチブック等の資料を2023年の企画展「日本近現代ガラスの源流」開催に際してご遺族より借用し展示した。これをきっかけにご遺族から当館への作品・資料の寄贈の打診があり、同年に受け入れに至った。本稿ではこのたび受贈した作品・資料のうち、明道のスケッチブックの内容について紹介する。

2. 明道長次郎について

明道長次郎は1911年に大阪市に生まれ、1923年に大連の春日小学校を卒業、その後同地の中学校を1925年に中退し、南満州硝子株式会社に入社したとされる²。ただし南満州硝子株式会社が設立されたのは1928年であることから³、入社時の社名は南満州鉄道株式会社の耐火煉瓦および空洞硝子の工場を継承し、1925年に設立された大連窯業株式会社であったとみられる⁴。明道がガラスの道に進むこととなった背景には、日本の近現代ガラス芸術における先駆者の1人である各務鑛三の存在があった。

1918年に南満州鉄道株式会社に入社した各務は、1924年前後⁵、同社にドイツからグラヴィールの名手であるルドルフ・イエーナが招聘されると、イエーナの元でグラヴィールの技術の習得に励んだ⁶。当時、イエーナに入門したのは各務を除くと中国人のみであったという。これではならぬとの思いから各務は親類の高木茂を内地から呼び寄せるとともに、大連の日本人少年から篠原良雄、そして明道長次郎をグラヴィールの職場に入れて技術を習得させたのである⁷。

各務は1927年から2年間、ドイツのシュトゥットガルト美術工芸学校に留学し、ヴィルヘルム・フォン・アイフに師事してガラス工芸を学ぶこととなる。そして1929年に帰国し、翌1930年、東京の滝野川に各務ク

リスタル工芸硝子研究所を設立、1934年にはクリスタルガラスの素地の製造も行う各務クリスタル製作所を設立した（以下、研究所と製作所を総称して「各務クリスタル」とする）。大連でグラヴィールを学んだ明道、高木は1930年の立ち上げ時から各務クリスタルに加わり、グラヴィールの職場でガラス作品や製品の制作に携わった⁸。

各務クリスタルに勤務しながら、明道が自身の作品を積極的に制作していたことが、当時の展覧会への入選、受賞の記録から窺い知ることができる。確認できる出品歴は次の通りである⁹。

- ・1936（昭和11）年　第十三回東京工芸品展覧会《硝子皿》参等賞
- ・1937（昭和12）年　第十四回東京工芸品展覧会《クリスタル花瓶》参等賞
- ・1939（昭和14）年　第十六回東京工芸品展覧会《グラビール花文皿》参等賞
- ・1939（昭和14）年　第三回文部省美術展覧会（文展）《花文グラビール硝子鉢》
- ・1940（昭和15）年　第二回貿易局工芸品輸出振興展覧会《花瓶》褒状

また、1941年5月に東京在住のガラス作家により結成された「硝子作家東京会」に明道が会員として参加していたとの記録が残っており¹⁰、1941年7月に銀座松屋で開催された同会の第一回展、翌8月に神戸大丸で開催された関西展¹¹にも作品を出品していた可能性がある。

この後、1941年に明道は徴兵され、1944年にビルマ戦線において戦死した。図3の写真は明道の出征と近い時期に撮影されたものとみられる。

3. 資料の内容

今回受贈した《明道長次郎関係資料》はスケッチブック5冊と、明道の入選作品が掲載された『第三回文部省美術展覧会図録　第四部美術工芸』（1939年）からなる資料群である。スケッチブックについては1993年に郡山市立美術館で開催された「窯と折りとガラスの神々：佐藤潤四郎展」に出品されたことが同展図録の出品目録から確認できる¹²が、内容の詳細や図版が出版物に掲載されたことはこれまでになかった。

ここでは各スケッチブックの概要について紹介し、描かれたデッサンや図案の一部を抜粋して掲載する。なお各スケッチブックには当館での情報整理のため、1～5の番号を付与している。

3.1　スケッチブック1（図4～7）

表紙寸法は縦22.5×横16.0cm、ハードカバーとなっている。年代の記載は見られない。全174ページ中、前半99ページまではほとんどが裸婦のデッサンであり、100頁以降は器の図案が多く描かれる。

図6の魚の図案は「スケッチブック3」に描かれる図16の図案と類似しているが、こちらはアイディアスケッチの段階のものともみられる。図7の図案には「ツヤケシ」、「ミガキ」などガラス制作における仕上げの指定と思われる書き込みがある。

3.2　スケッチブック2（図8～11、図13～14）

表紙寸法は縦29.0×横25.5cm。表紙に「昭和拾二年二月拾七日」（昭和12（1937）年2月17日）の記載がある（図9）。表紙と用紙の間に5枚、用紙と用紙の間に1枚、裏表紙と用紙の間に22枚、下絵等の描かれた紙や、切り抜きの断片が挟み込まれている（例：図10）。スケッチブックには主に器の図案や動物のスケッチが描かれている。

図11は右上に「大連市近江町□□」「草野ビル」と記載されている（「□□」は判読できず）。表紙の年月日から、本スケッチブックは明道が大連を離れてから使用を開始したものとみられるため、実際に訪れた場所を思い出してのスケッチなのか、写真等を参照したのかは定かではない。しかし具体的な場所の名称が記載されているのはスケッチブック5冊の中でも本図のみであり、明道の活動との関連性についてさらに調査を進めたい。

また本スケッチブックには「第三回文部省美術展覧会」（1939年）に入選した《花文グラビール硝子鉢》（図12）の図案とみられるものが複数描かれている（例：図13、図14）。

3.3　スケッチブック3（図15～16、図18～19）

表紙寸法は縦28.0×横26.0cm。裸婦デッサンや器の図案が描かれている。用紙と用紙の間に1枚、梅の木とみられるスケッチが描かれた紙が挟み込まれている。

1ページ目の魚の図案（図16）は、同じデザインのガラス器が1933年頃に大阪・生駒時計店で開催された各務クリスタルの製品販売会のカタログとみられる冊子『GRAVUR.』に掲載されており（図17）、明道がこのガラス器のデザインを手掛けた可能性が高い。その場合、1930年代前半の各務クリスタルにおける明道の仕事と関連付けられる貴重な資料と言える。

裸婦のデッサンのうち、図18には「11.8.1932 C.Myodo」の記載が、この次のページには「11.9.1932 C.Myodo」の記載がある。また図19の少女と犬を描いたスケッチには「1935.1.30 C.Myodo」と記載されている。これらの情報から、本スケッチブックは1933年から1935年頃に使用されたものと考えられる

3.4　スケッチブック4（図20～23）

表紙寸法縦30.5×横24.5cm。表紙に「製作用画冊」、「画仙紙」と書かれており、薄手・白色の画仙紙（書画用の紙）と、質の異なる用紙が交互に綴じられている。画仙紙には図案を墨で清書したとみられる描画が(例:

図21)、もう一方の用紙には鉛筆によるスケッチや図案が描かれている。図22には日付とみられる「2.12」の記載がある。用紙と用紙の間には器の図案（図23）や動物のスケッチが描かれた紙3枚のほか、「各務クリスタル製作所」の社名の入ったメモ用紙5枚が挟み込まれており、メモ用紙には手紙の草稿とみられる書き込みがある。年代に関わる記載は見られないが、本スケッチブックが挟み込まれたメモ用紙と同時期に使用された場合、社名から1934年以降のものとは推定できる。

3.5　スケッチブック5（図24～27）

表紙寸法は縦20.5×横31.5cm。年代に関する記載は無い。表紙に「T.M.」のイニシャル表記がある。他のスケッチブックと異なり、前半頁には着色された植物が多く描かれている（例：図25、図26）。用紙を埋めつくすように花器とみられる図案を細かく描いたページも複数あり(例:27)、これも他のスケッチブックには見られないものである。

4. おわりに

5冊のスケッチブックからは、明道が図案の制作に幅広いモチーフを参照していたこと、そして創作活動に積極的に取り組んでいたことが生き生きと伝わってくる。現存作品が1点のみであり、未だその制作活動について明らかでない部分も多い明道であるが、本資料は《草花文グラヴェール硝子鉢》以外の作例を調査する上で重要な手掛かりとなると言えよう。今後、1930年代から1940年代の各務クリスタルの製品カタログや展示パンフレット等が3.3で取り上げた『GRAVUR.』以外にも見つかり、本資料と照らし合わせることが出来れば、さらに明道がデザインや制作を手掛けた作品や製品が判明することが期待される。日本の近代ガラス芸術史の最初期の研究を進める上でも重要となる明道の活動について、今後も本資料を元に調査を続けていきたいと考える。

謝辞

明道長次郎氏の作品・資料の受贈にあたり、明道正武氏より多大なご協力を賜りました。また本稿に掲載した貴重な写真をご提供いただきました。ここに記して深く感謝申し上げます。

^[1] 回転する円盤にガラスを当て、表面に絵画的な図像や文様を彫り可飾する技法。「グラヴェール」、「グラビール」などの表記もあるが、本稿では次の文献を参照し、本文中では現在多くの作家に用いられている「グラヴィール」と表記した。齊藤晴子「日本におけるグラヴィールの歴史について」『青野武市作品受贈記念ーガラスに、彫るー日本のグラヴィール』町田市立博物館、2016年、8-10頁。ただし作品名については各作品が掲載された出版物や関係資料の表記に沿って記載した。

^[2] 「作家紹介　明道長次郎」『近代日本のガラス工芸ー明治初期から現代までー』東京国立近代美術館、1982年。

^[3] 満州事情案内所編『満州事情案内所報告 16　満州事情（下）』1934年、45頁。

^[4] 南満州鉄道株式会社のガラス事業の変遷については次の文献に詳しい。齊藤晴子「新出資料紹介：橋硝子製造所、満鉄窯業工場ならびに南満州硝子株式会社関連写真について」『GLASS　日本ガラス工芸学会誌』62号、2018年、67頁。

^[5] 同上 68頁において、ルドルフ・イエーナの大連到着時期には諸説あることが述べられている。

^[6] 各務鑛三「統統　満鉄に働いていた外国人　ルドルフ・イーナー　ー満鉄窯業試験所クリスタル硝子技師ー」『満鉄会報』第31号、1963年、7頁。

^[7] 各務満「父鑛三の生涯」『各務鑛三作品集』1987年、16頁。

^[8] 同上 17頁。

^[9] 出品歴は開催年、展覧会名、作品名、賞名（受賞している場合）の順に記載した。第三回文展を除く4つの展覧会については、明道家に保管されている賞状から受賞内容を確認した。なお第二回貿易局工芸品輸出振興展覧会については『官報』第4058号（1940年07月17日）にも掲載がある。

^[10] 「雑報」『大日本窯業協會雑誌』49巻 585号、1941年、65頁。

^[11] 『美術新報』1号、1941年8月、2 - 3頁。

^[12] 「出品目録」『窯と折りとガラスの神々：佐藤潤四郎展』郡山市立美術館、1993年、171頁。



図1
明道長次郎《草花文グラヴェール硝子鉢》1940年、撮影：田中祐樹

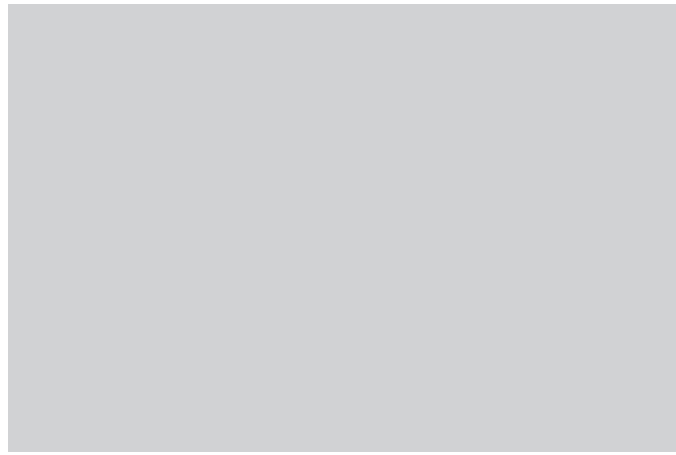


図2
「ドイツ人ノ師ト友ト長次郎」とアルバムに書き添えられた記念写真。前列中央がルドルフ・イエーナ、後列左が明道長次郎。撮影年は1925年から1928年の間と推定される。写真提供：明道正武氏

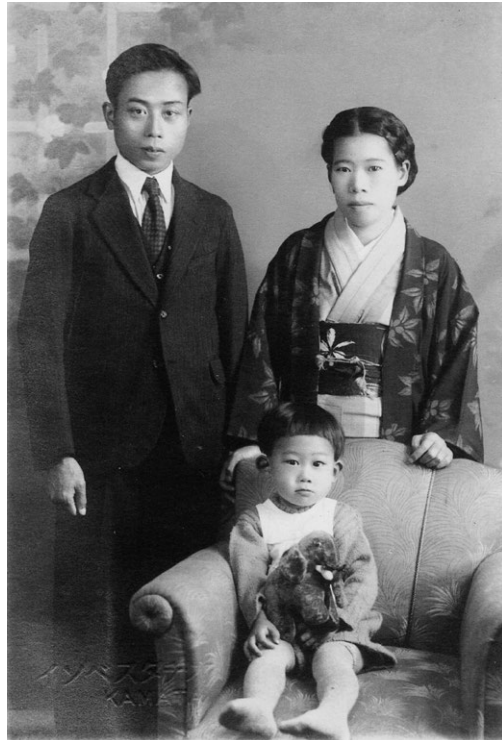


図3
1941年10月18日撮影。左が明道長次郎、右が妻・和子、手前が長男・正武。写真提供：明道正武氏

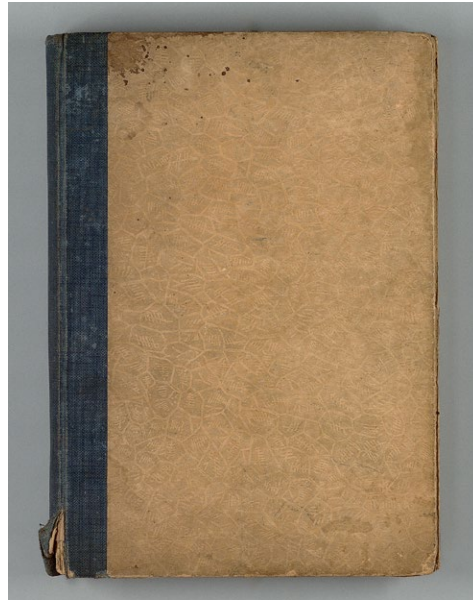


図4「スケッチブック1」表紙



図5

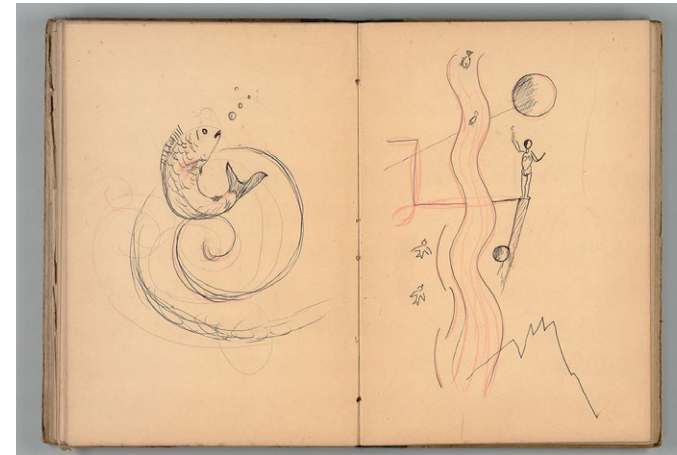


図6

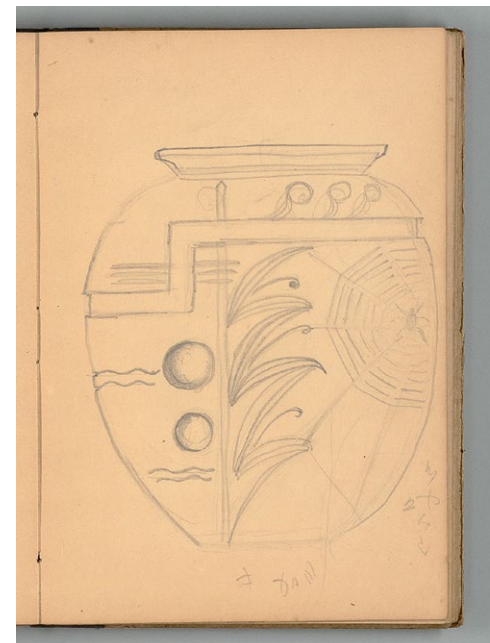


図7

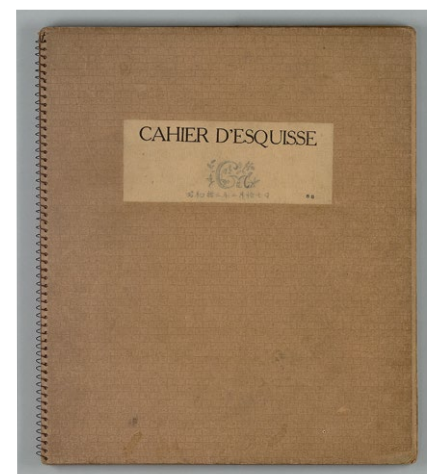


図8「スケッチブック2」表紙



図9表紙拡大



図10

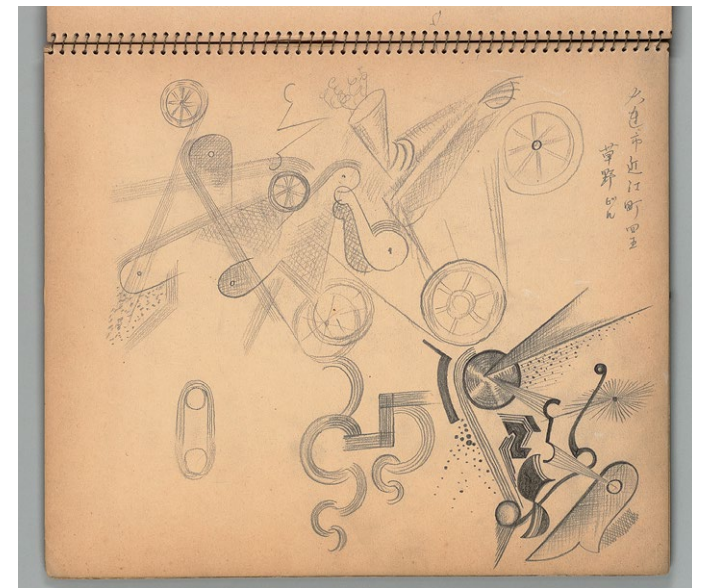
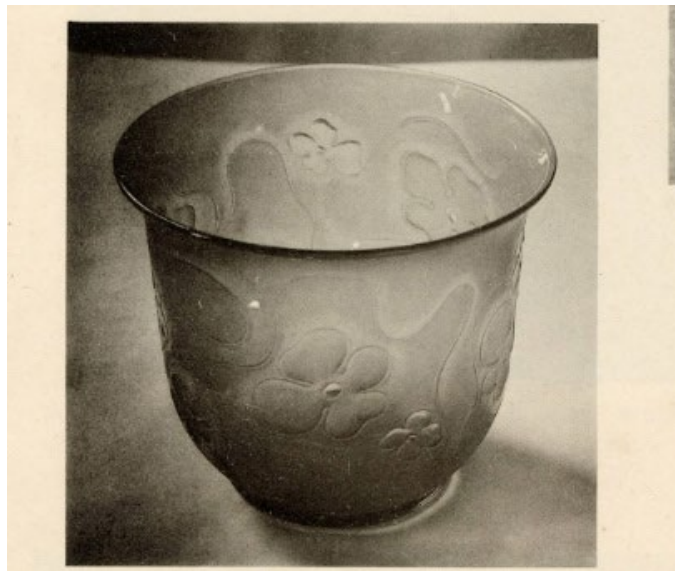


図11



155 By Tyōzirō Myōdō 郎次長道明「鉢子硝ルーピラグ文花」

図12 『第三回文部省美術展覧会図録 第四部美術工芸』1939年（富山市ガラス美術館所蔵）より転載。

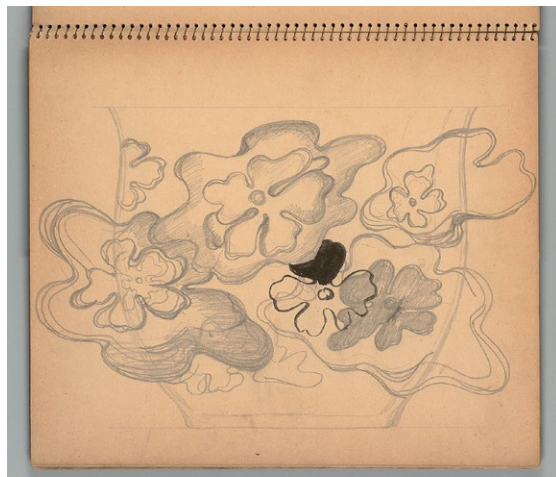


図13

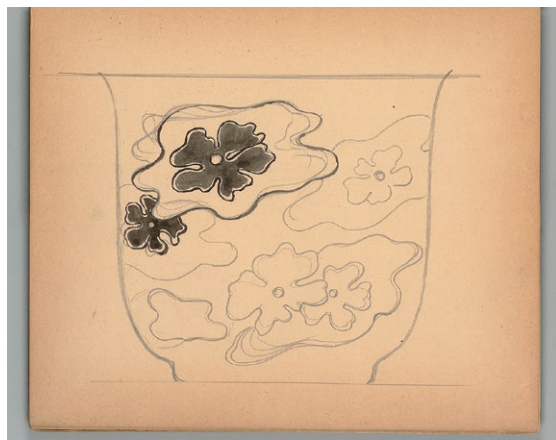


図14

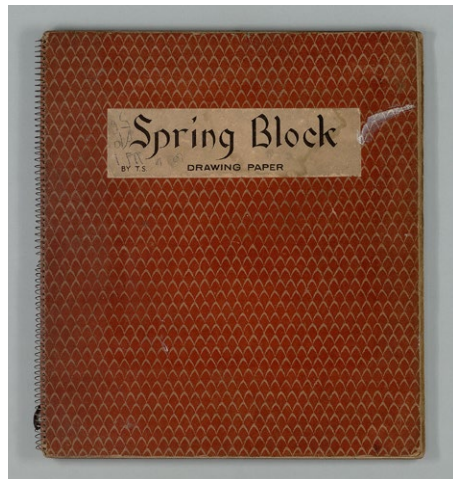


図15 「スケッチブック3」表紙

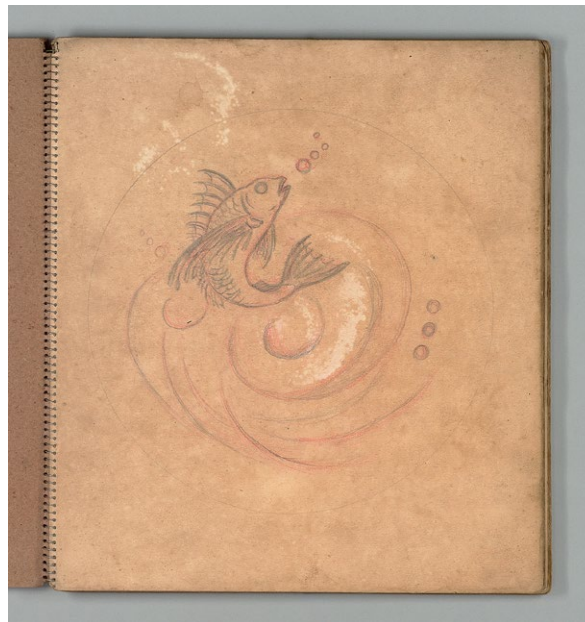


図16

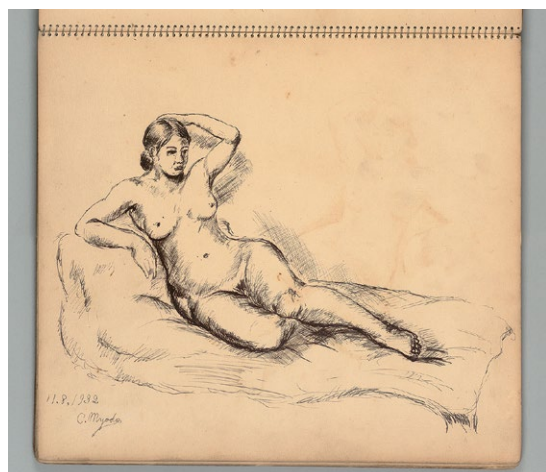


図18



図17 生駒時計店『GRAVUR』1933年頃、3頁（富山市ガラス美術館所蔵）より転載。本冊子は発行年が記載されていないが、裏見返しに1933（昭和8）年6月から1934（昭和9）年5月までの「七曜表」（カレンダー）が掲載されていること、前文に販売会が夏の開催であることが示唆されていることから、1933年の発行と推定した。



図19

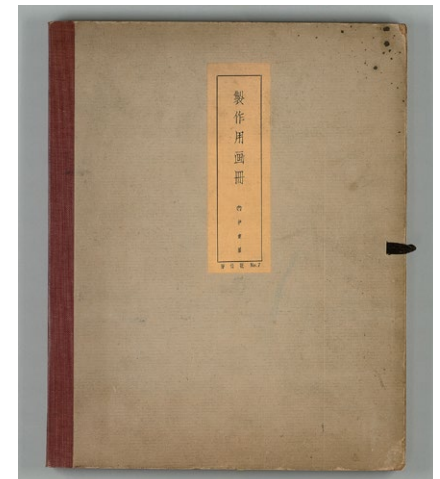


図20 「スケッチブック4」表紙



図21



図22



図23

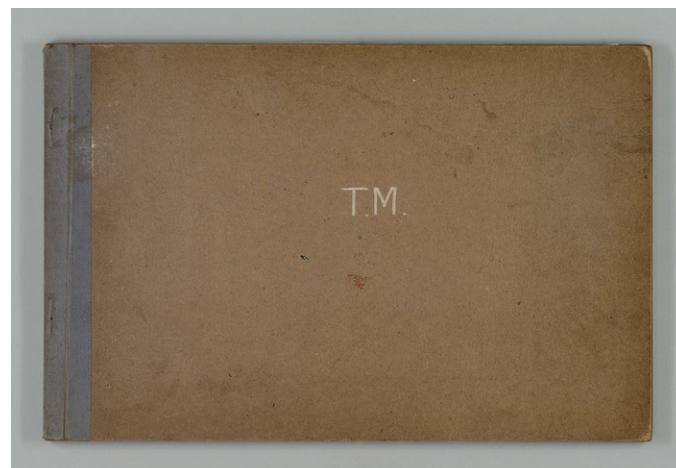


図24 「スケッチブック5」表紙



図26



図25

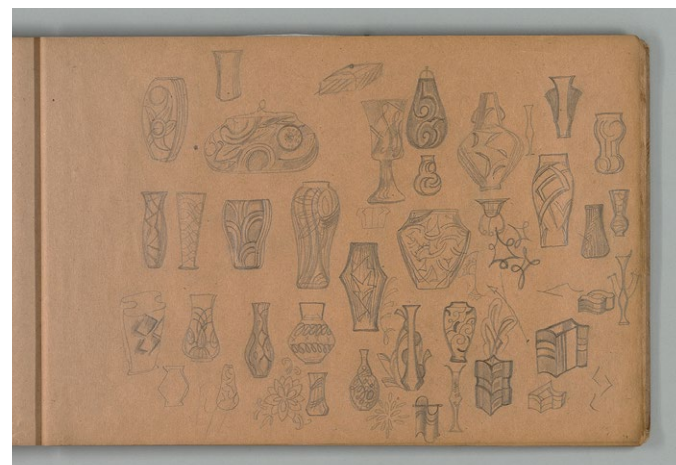


図27

Abstract

New Materials Relating to MYODO Chojiro NAKASHIMA Haruka

MYODO Chojiro (1911–1944) joined the South Manchurian Glass Co., Ltd. in 1925 where he learned the technique of glass engraving. In 1930 he joined the Kagami Crystal Glass Institute (the forerunner of Kagami Crystal Works), established in Takinogawa, Tokyo. While engaging in engraving work at the institute, he also actively produced his own glass artworks. He was conscripted in 1941 and died a premature death in the war in 1944.

In 2023, Myodo's family gifted to the Toyama Glass Art Museum a number of items including *Glass Bowl with Engraved Design of Grass and Flowers*, the only glass artwork by Myodo confirmed to still exist, and sketchbooks containing his designs and drawings, which were added to the museum's collection. In this report, we introduce the contents of the sketchbooks belonging to Myodo, about whom little has been written to date. One of the designs is thought to be for *Glass Bowl with Engraved Design of Flowers*, which was selected for the Third Ministry of Education Fine Arts Exhibition (Bunten) in 1939. In the future, we hope to pursue research on Myodo's creative activities based on these materials.

(Translated by Pamela MIKI)

2023 年度

富山市ガラス美術館 記録集・研究紀要

Toyama Glass Art Museum

Document Book and Bulletin 2023

Vol.9

2024 年 9 月 30 日発行

First Edition: September 30, 2024

執 筆 : 土田ルリ子 (富山市ガラス美術館館長)
渡部名祐子 (富山市ガラス美術館主任学芸員)
中島春香 (富山市ガラス美術館主任学芸員)
浅田真帆 (富山市ガラス美術館主任学芸員)
高橋由佳 (富山市ガラス美術館主任学芸員)
米田結華 (富山市ガラス美術館学芸員)

Texts: TSUCHIDA Ruriko (Director, Toyama Glass Art Museum)
WATABE Nayuko (Curator, Toyama Glass Art Museum)
NAKASHIMA Haruka (Curator, Toyama Glass Art Museum)
ASADA Maho (Curator, Toyama Glass Art Museum)
TAKAHASHI Yuka (Curator, Toyama Glass Art Museum)
YONEDA Yuika (Curator, Toyama Glass Art Museum)

デザイン : 彼谷雅光 (有限会社ナチュラル・デザインスタジオ)

Design: KAYA Masamitsu (Natural Design Studio)

編 集 : 富山市ガラス美術館
(米田結華、櫻井美佳、小川果歩、宝田幸弘、田辺友理子)

Edit: Toyama Glass Art Museum
(YONEDA Yuika, SAKURAI Mika, OGAWA Kaho, TAKARADA Yukihiko,
TANABE Yuriko)

翻 訳 : ルーシー・サウス・マクレリー (ザ・ワード・ワークス) (p.5, 69(右))
クリストファー・スティヴンズ (p.35, 69(左))
パメラ三木 (p.45, 59, 64, 76,103)

Translation : Ruth South McREERY (The Word Works, Ltd)(p.5, 69(right))
Christopher STEPHENS (p.35, 69(left))
Pamela MIKI (p.45, 59, 64, 76,103)

写 真 : 末正真礼生 (pp.6-11, 28-29, 70(右), 75(1,3-5))
室澤敏晴 (pp.12-17, 44)
木奥恵三 (pp.18-23)
大木賢 田川紘輝 nando.inc. (pp.24-25)
柳原良平 (pp.26-27, 70(左))
田中祐樹 (p.75(2), 98(1))

Photographs: SUEMASA Mareo (pp.6-11, 28-29, 70(right), 75(1,3-5))
MUROSAWA Toshiharu (pp.12-17, 44)
KIOKU Keizo (pp.18-23)
Ken OHKI Hiroki TAGAWA nando, Inc. (pp.24-25)
YANAGIHARA Ryohei (pp.26-27, 70(left))
TANAKA Yuuki (p.75(2), 98(1))

印 刷 : 能登印刷株式会社

Printed by Noto Printing Corporation

発 行 : 富山市ガラス美術館
〒 930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
toyama-glass-art-museum.jp
Tel 076-461-3100
Fax 076-461-3310

Published by Toyama Glass Art Museum
Nishicho 5-1, Toyama City, Toyama 930-0062, Japan
toyama-glass-art-museum.jp

本書の無断転写、転載、複製を禁じます。

©2024 富山市ガラス美術館および著作者

©2024 Toyama Glass Art Museum and the authors

All rights reserved.

No part of this publication may be reproduced or transmitted in any form or by no means,
without prior permission in writing from the publisher.

Printed in Japan